

医療法人 玉昌会
高田病院

2018 年度 医療法人玉昌会 高田病院

《理 念》

患者さまの意思と権利を尊重し、「医療人としての感性（低賞感微）」に満ちた医療・福祉活動を提供します

《基本方針》

1. 慢性期病院としての豊かな「感性・知識」に基づいたヒューマン・サービスの提供を全職員で目指します。
2. 地域との連携及び病診連携を図り、在宅復帰に向けたシームレスでしかも一貫した高齢者医療や福祉を目指し、地域社会の幸福に貢献します。
3. 予防医学（健康診断・人間ドック）の充実を図り、生活習慣病の予防・早期発見を目指し、地域社会の発展に貢献します。
4. 職員の生活向上と幸福に寄与します。

《運営方針》

1. 「医療人としての感性」を磨く。
「目配り・気配りの心、気付きの心」の自己獲得に努める。
2. 職員の「子育て」や「スキルアップ」を支援し、働きやすい職場環境、職員の満足度が高くやりがいのある職場環境、人を育む職場環境作りに努め、将来性のある医療人の更なる育成を推進する。
3. 病院機能評価認定病院としての機能の継続・充実を図り、7月に更新審査を受審し、再認定を目指す。
4. 現状では4月以降、5階病棟20床の地域包括ケア病床は入院料3となるが、上半期には地域で求められている多様な役割・機能の充実を図り、病床数の拡大（全41床）を目指す。また、地域の医療機関や介護保険施設との更なる連携を強化する事により、下半期には、基準の在宅復帰率を確保し、地域包括ケア入院料3から入院料1への転換を目指す。
5. 同時に、6階病棟30床の回復期リハビリテーション病棟の機能充実を図り、アウトカム評価（リハビリテーション実績指数）37以上を確実に達成し、他の基準も確保し、回復期リハビリテーション病棟入院料1の取得を継続する。
6. 腎疾患診療部門においては、慢性腎臓病（CKD）対策・腎代替療法等に関して、更なる診療機能の充実を図る。
7. 4月より泌尿器科部門の診療を再開する事により、患者さまの新たな泌尿器関連疾患のニーズにも対応する。
8. 4月より皮膚科部門の外来機能は縮小されるが、入院患者さまの褥瘡対策に関しては、今までと同様の対応に努める。
9. 通所リハビリテーションにおいては、送迎部門の充実を図り、短時間リハビリテーションの使用ニーズにも対応出来るよう努める。
10. 10年後20年後の病院機能を見据えた新病院構想のもと、詳細設計図作製に参画する。
11. 各部署・各職種間でパートナーシップを発揮し、更なるチーム医療の推進・ボーダーレスな業務の実践と業務改善を図り、病院機能評価認定病院・慢性期認定病院としての機能の継続・充実を図り、更なる「医療の質の向上」を目指し、より安全・安心で確実な医療を提供する事により、患者さま・ご家族に選んで頂ける病院創りを目指す。

高田病院の沿革

- 1957 年 1 月 高田医院開設 病床数 19 床
- 1962 年 8 月 医療法人 玉昌会 設立認可
- 1976 年 7 月 人工透析治療開始
- 1985 年 10 月 高田内科病院を高田病院に名称変更
増改築により 167 床
- 1986 年 4 月 人間ドック開始
- 1986 年 11 月 12 床増床し、許可病床 179 床
- 1994 年 8 月 老人デイケア（Ⅱ）開始
- 1998 年 12 月 療養二群入院医療管理（Ⅰ）
- 2000 年 4 月 療養病棟入院基本料 1
介護療養型医療施設（106 床）
通所リハビリテーション開始
- 2000 年 12 月 介護療養型医療施設（105 床）
- 2003 年 8 月 （財）日本医療機能評価機構「認定証」取得
- 2005 年 9 月 介護療養型医療施設（60 床）
療養病棟入院基本料 1（119 床）
- 2006 年 4 月 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅱ）
運動器リハビリテーション料（Ⅰ）
- 2006 年 8 月 脳血管疾患等リハビリテーション料（Ⅰ）
- 2007 年 8 月 訪問リハビリテーション開始
- 2008 年 8 月 日本医療機能評価機構「Ver. 5 認定証」取得
- 2009 年 6 月 療養病棟入院基本料（179 床）
- 2009 年 9 月 回復期リハビリテーション病棟基準承認（30 床）
療養病棟入院基本料（149 床）
- 2010 年 4 月 療養病棟入院基本料 1（45 床）
療養病棟入院基本料 2（104 床）
- 2010 年 11 月 療養病棟入院基本料 1（89 床）
療養病棟入院基本料 2（60 床）
- 2011 年 4 月 協会けんぽ生活習慣病予防健診指定医療機関取得
- 2011 年 6 月 在宅療養支援病院
- 2012 年 6 月 日本慢性期医療協会「慢性期医療認定病院」認定

2013 年	8 月	日本医療機能評価機構「3rd G : V e r . 1. 0 認定証」取得
2013 年	8 月	持続性推進機構「エコアクション 21」認定
2014 年	4 月	在宅復帰機能強化加算（89 床） 呼吸器リハビリテーション（Ⅱ）
2014 年	10 月	電子カルテ導入
2015 年	4 月	呼吸器リハビリテーション（Ⅰ）
2015 年	6 月	がん患者リハビリテーション料
2016 年	3 月	療養病棟療養環境改善加算 1
2016 年	4 月	下肢末梢動脈疾患指導管理加算
2016 年	6 月	回復期リハビリテーション病棟入院料 1 排尿自立指導料
2016 年	9 月	退院支援加算 1 認知症ケア加算 算定開始
2017 年	4 月	地域包括ケア入院医療管理料 2（14 床）
2017 年	7 月	療養病棟入院基本料 1（135 床） 地域包括ケア入院医療管理料 1（14 床）
2017 年	12 月	療養病棟入院基本料 1（129 床） 地域包括ケア入院医療管理料 1（20 床）
2018 年	8 月	日本医療機能評価機構「3rd G : V e r . 2. 0 認定証」取得
2019 年	2 月	新病院建設工事起工式

高田病院の概要

名 称 医療法人玉昌会 高田病院

所 在 地 〒892-0824
鹿児島県鹿児島市堀江町 5-1
TEL (099) 226-4325 FAX (099) 222-8386

開 設 者 高田 昌実

管 理 者 萩原 隆二

診 療 科 目 内科(人工透析を含む) 消化器科 循環器科
リハビリテーション科 泌尿器科 皮膚科

病 床 数 179 床
療養病棟入院基本料 1 (129 床)
地域包括ケア入院医療管理料 1 (20 床)
回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (30 床)

社会保険等指定

健康保険、国民健康保険、労災保険、生活保護、
身体障害者福祉法指定医、原子爆弾被爆者一般疾病医療、
自立支援医療(更正医療)、肝疾患治療かかりつけ医療機関

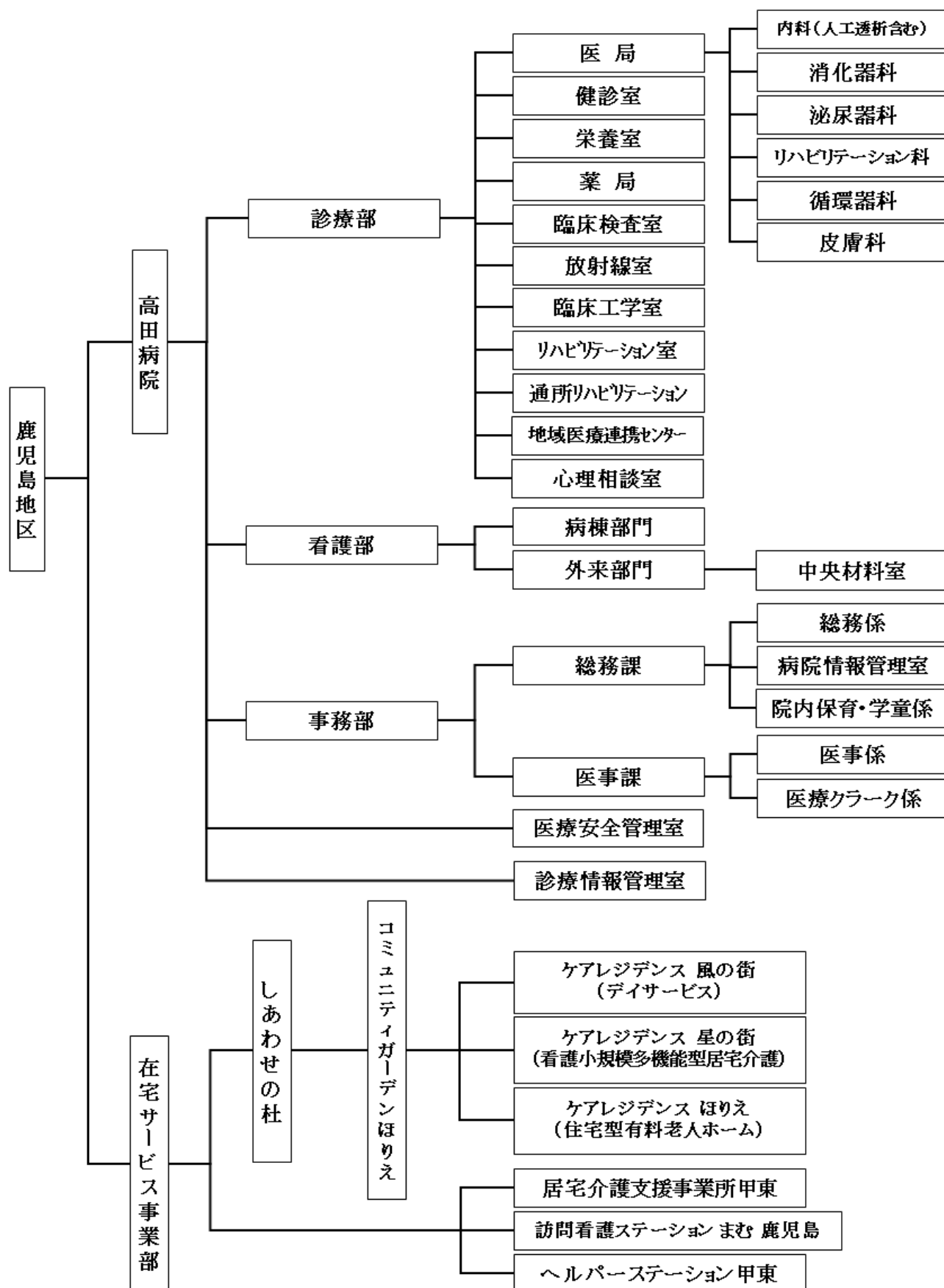
施 設 基 準 療養病棟入院基本料 1 (129 床)
地域包括ケア入院医療管理料 1 (20 床)
回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (30 床)
休日リハビリテーション提供体制加算 (30 床)
リハビリテーション充実加算 (30 床)、呼吸器リハビリテーション料 (I)
脳血管疾患等リハビリテーション料 (I)
運動器リハビリテーション料 (I)、集団コミュニケーション療法料
がん患者リハビリテーション料、外来リハビリテーション診療料
療養病棟療養環境改善加算 1、医療機器安全管理料 1
感染防止対策加算 2、診療録管理体制加算 2、医療安全対策加算 2
退院支援加算 1、認知症ケア加算 2、排尿自立指導料
胃瘻造設術・胃瘻造設時嚥下機能評価加算

下肢末梢動脈疾患指導管理加算、データ提出加算 2
薬剤管理指導料、在宅復帰機能強化加算
救急搬送患者地域連携受入加算、がん治療連携指導料
地域連携診療計画退院時指導料 (I)
入院時食事療養 (I)・入院時生活療養 (I)、
在宅療養支援病院 3、在宅がん医療総合診療料
在宅時医学総合管理料又は特定施設入居時等医学総合管理料

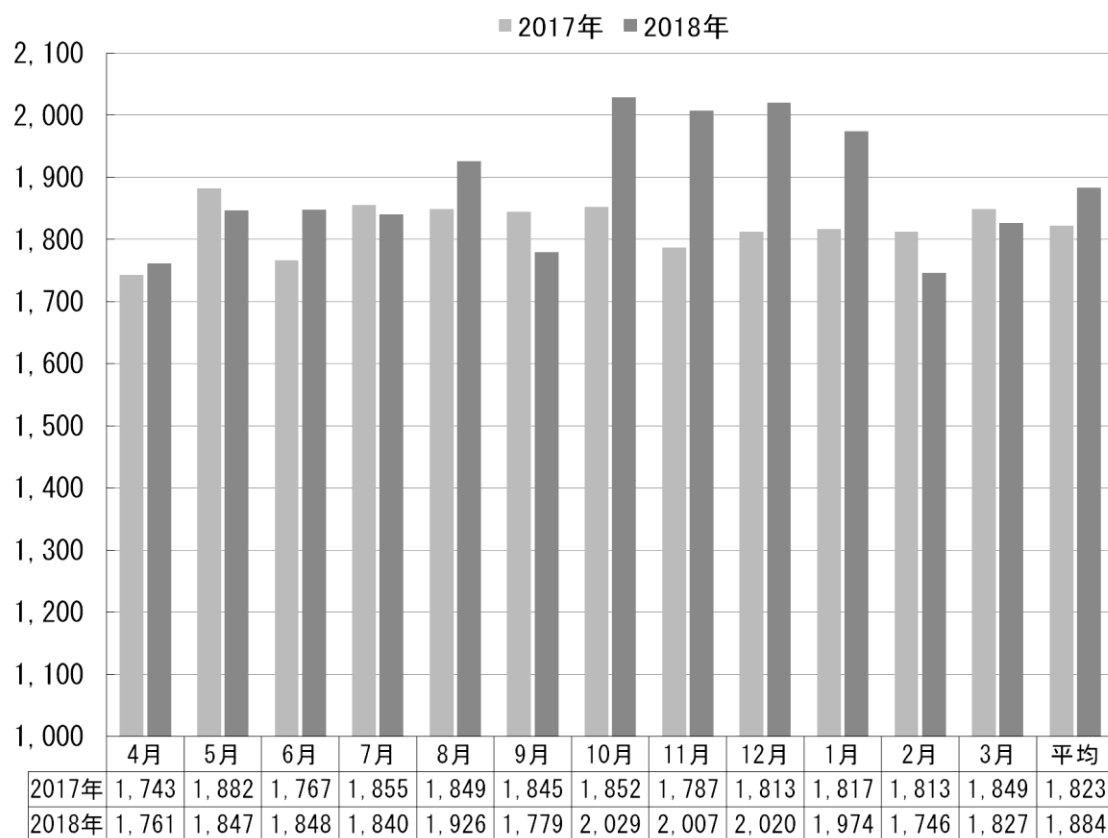
広 報 誌 いきいき た・か・た (年 4 回発行)

そ の 他 ・財団法人 日本医療機能評価機構 認定 (3rd G: Ver 2. 0)
・通所リハビリテーション、訪問リハビリテーション
・人間ドック (1 日コース・2 日コース)
・健康診断 (特定健診・特定保健指導)
・協会けんぽ生活習慣病予防健診
・看護学校実習病院
・医療福祉実習病院 (リハビリ・社会福祉・栄養関係)
・医学生実習病院
・薬学生 長期実務実習受入施設
・かごしま子育て応援企業登録
・日本慢性期医療協会 慢性期医療認定病院 認定
・在宅療養支援病院
・持続性推進機構 エコアクション 21 (環境省推奨) 認定

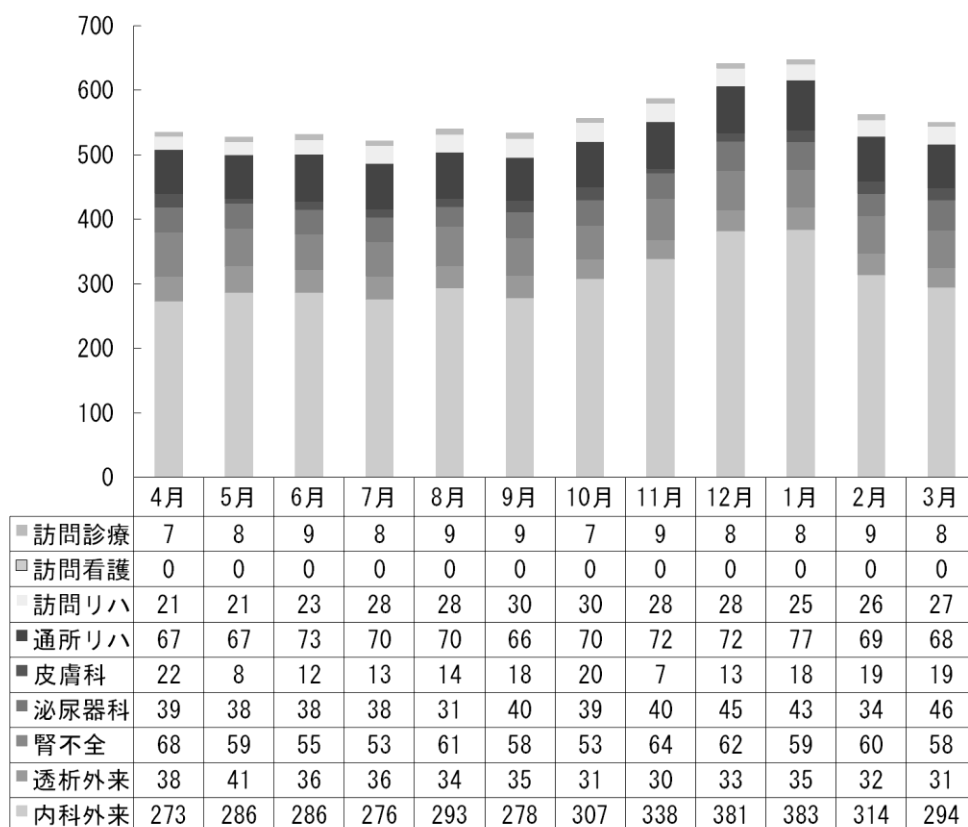
医療法人 玉昌会 鹿児島地区 組織図 2019年4月1日現在



外来患者数推移（人）

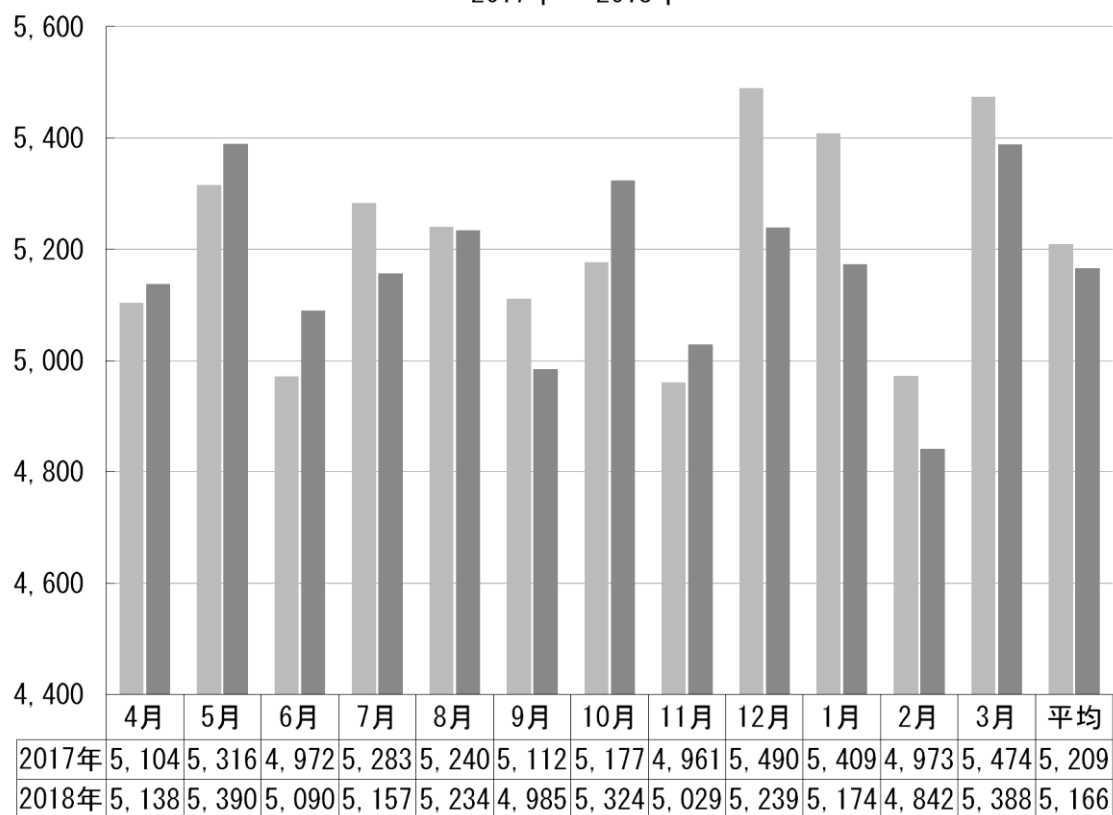


外来患者数診療科目別内訳推移（人）



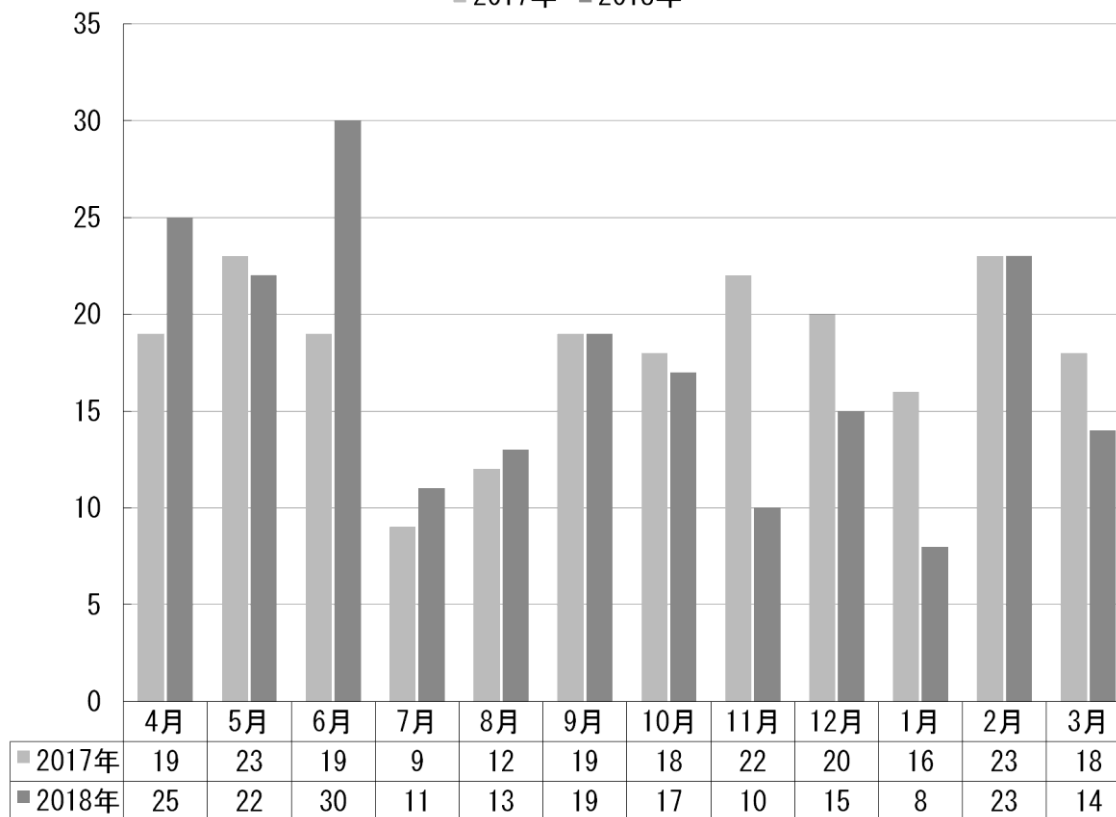
入院患者数（人）

■ 2017年 ■ 2018年



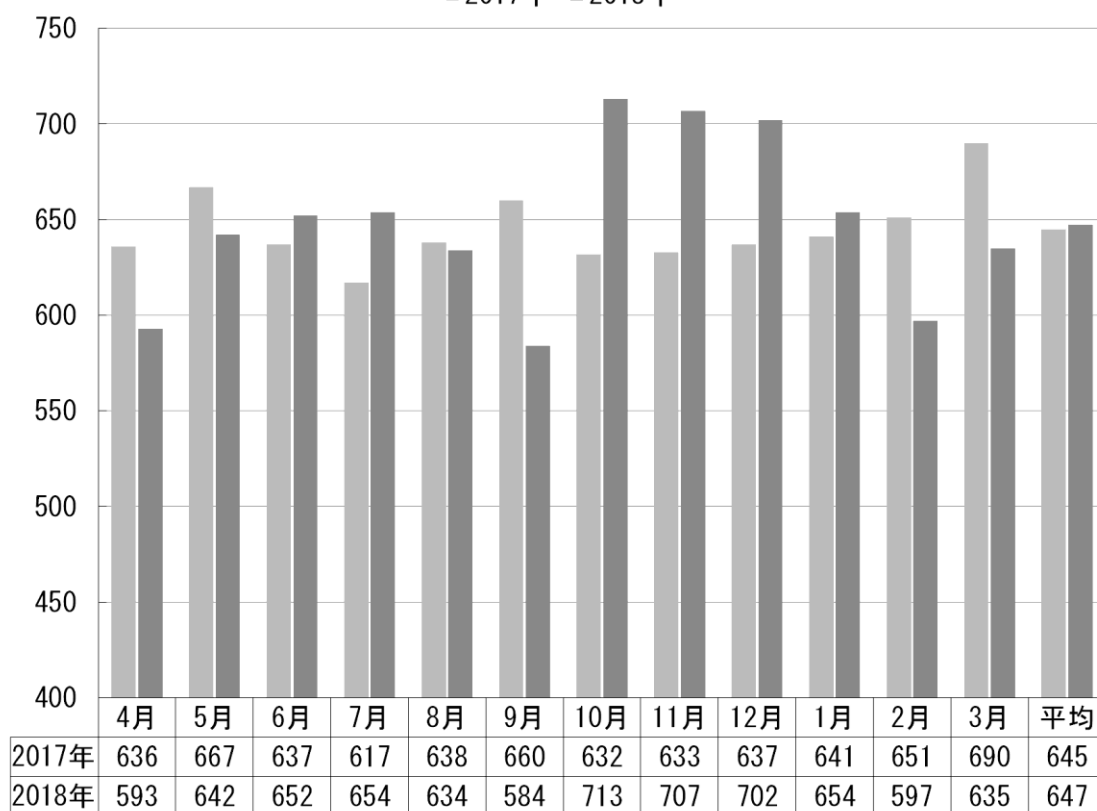
栄養指導件数（件）

■ 2017年 ■ 2018年



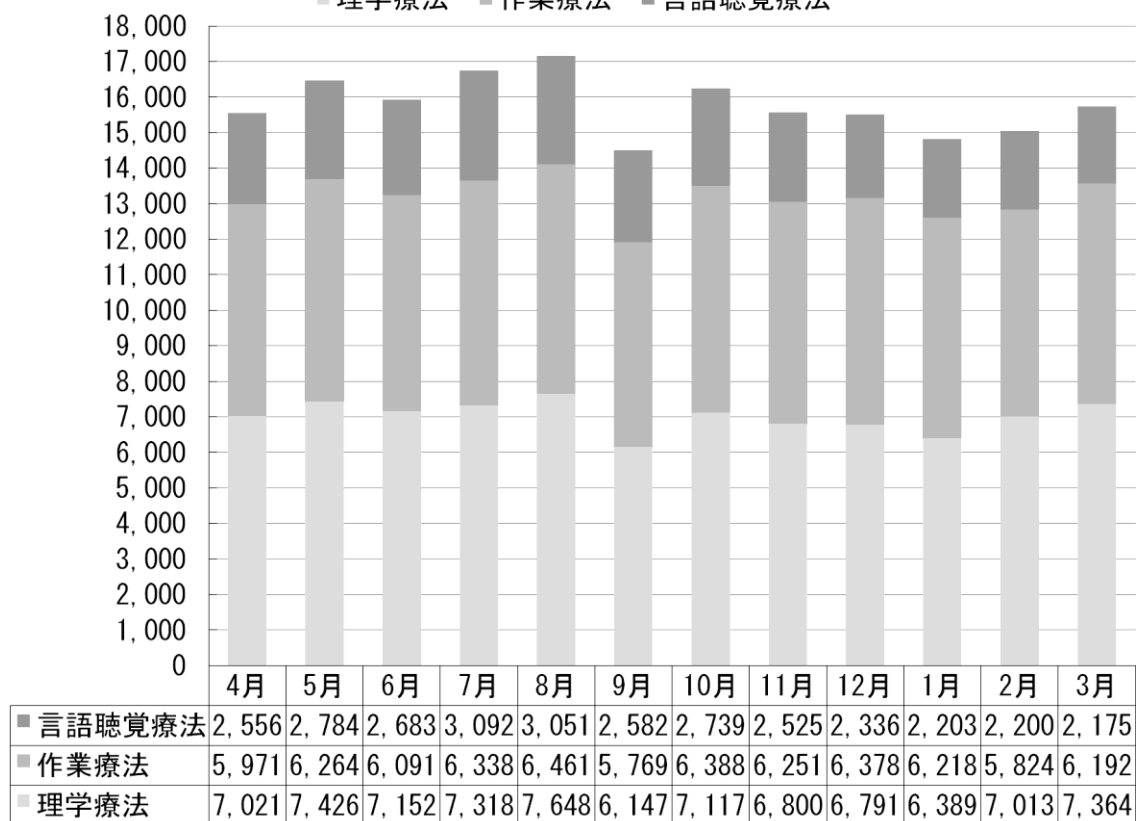
通所リハビリ利用者数（人）

■ 2017年 ■ 2018年



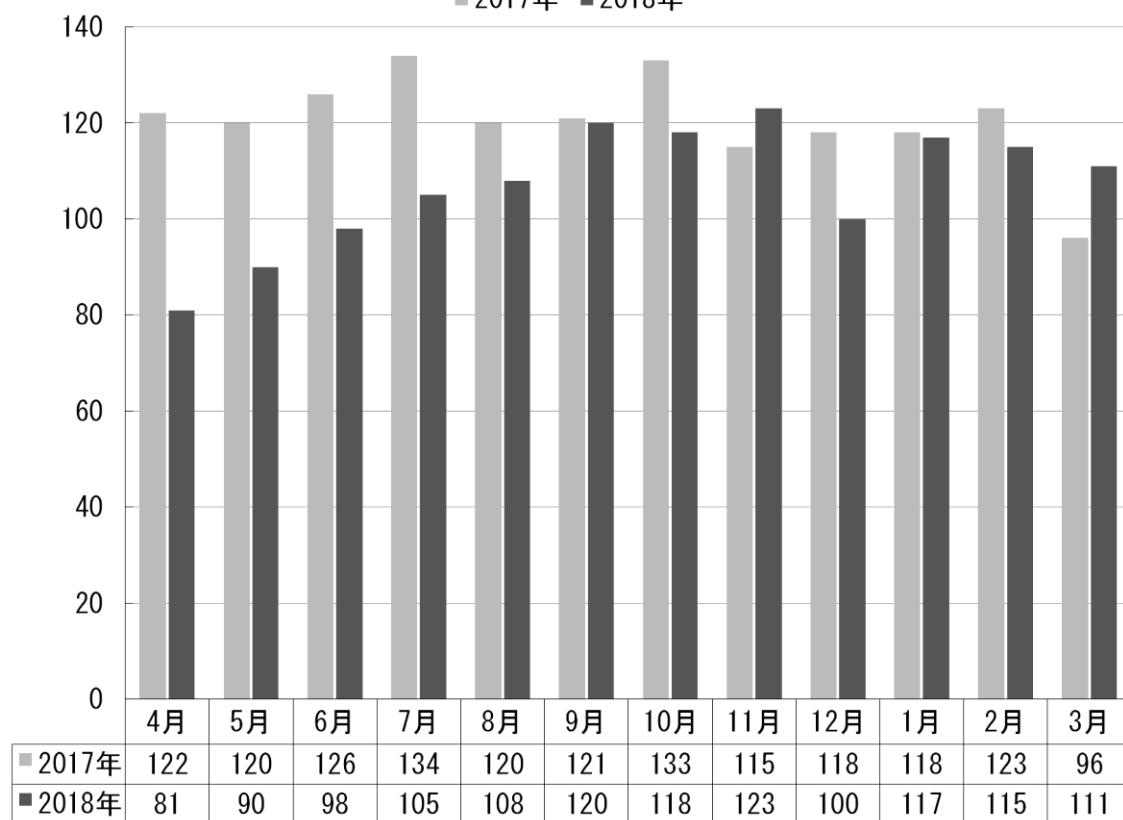
リハビリテーション室患者取扱数（件）

■ 理学療法 ■ 作業療法 ■ 言語聴覚療法



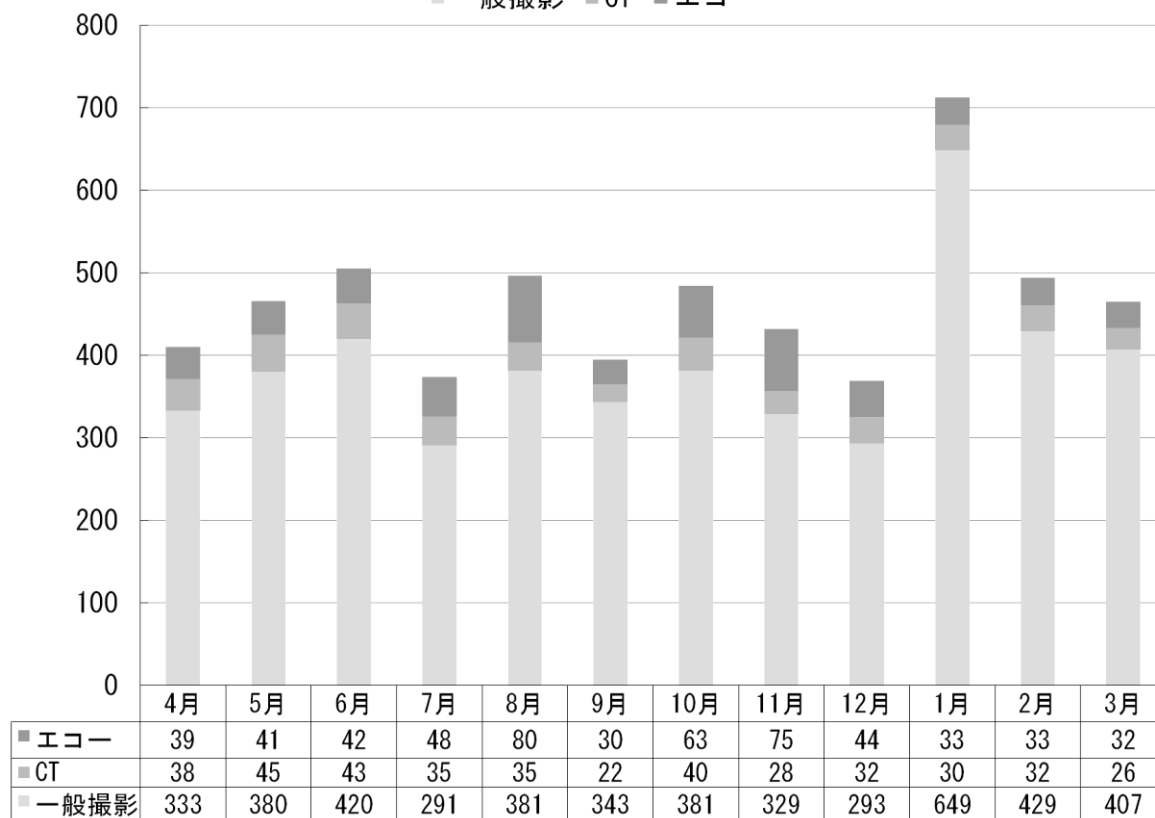
服薬指導件数（件）

■ 2017年 ■ 2018年

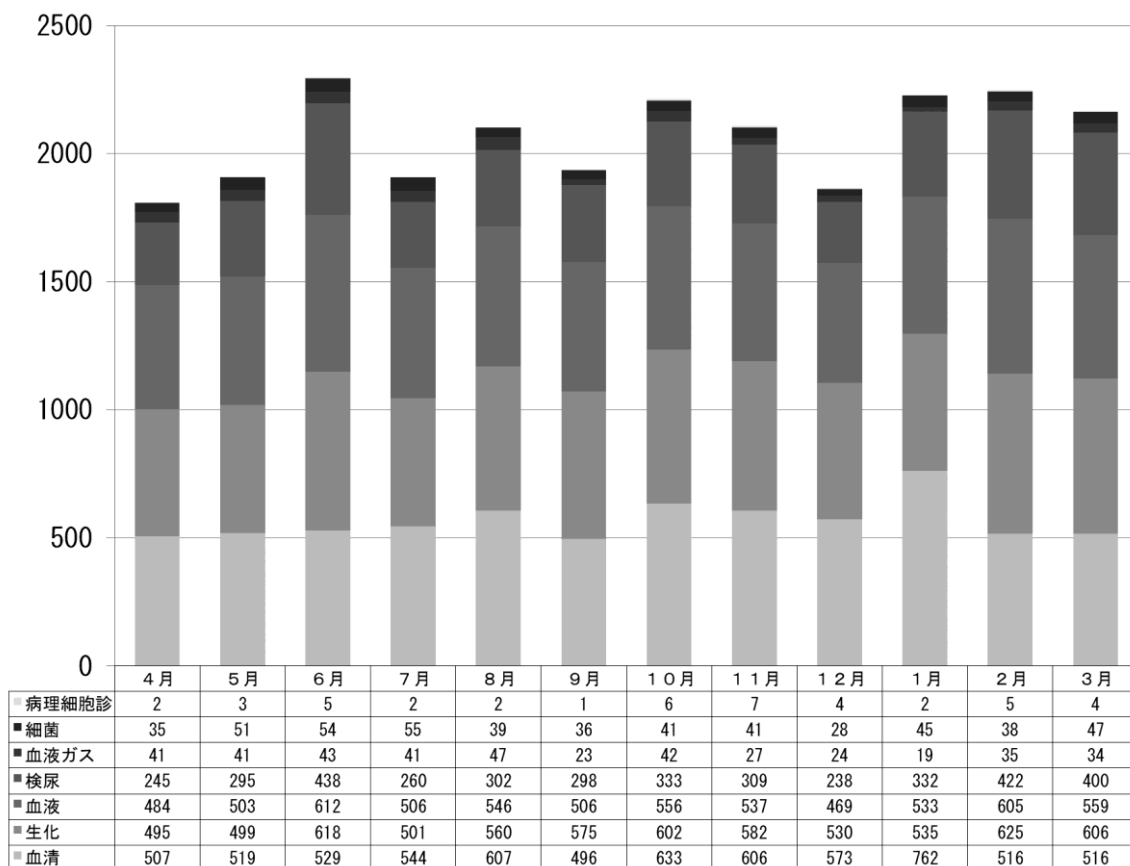


月別放射線室取扱件数（件）

■ 一般撮影 ■ CT ■ エコー

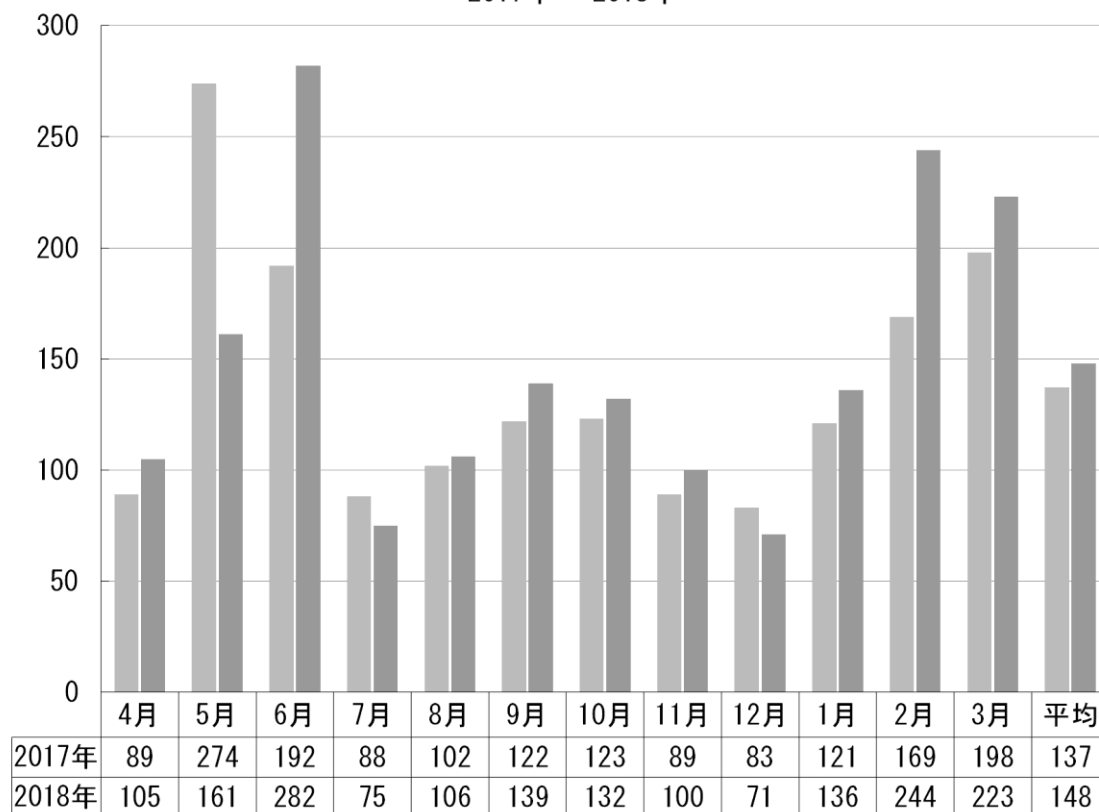


月別検査室取扱件数（件）



健康診断件数（件）

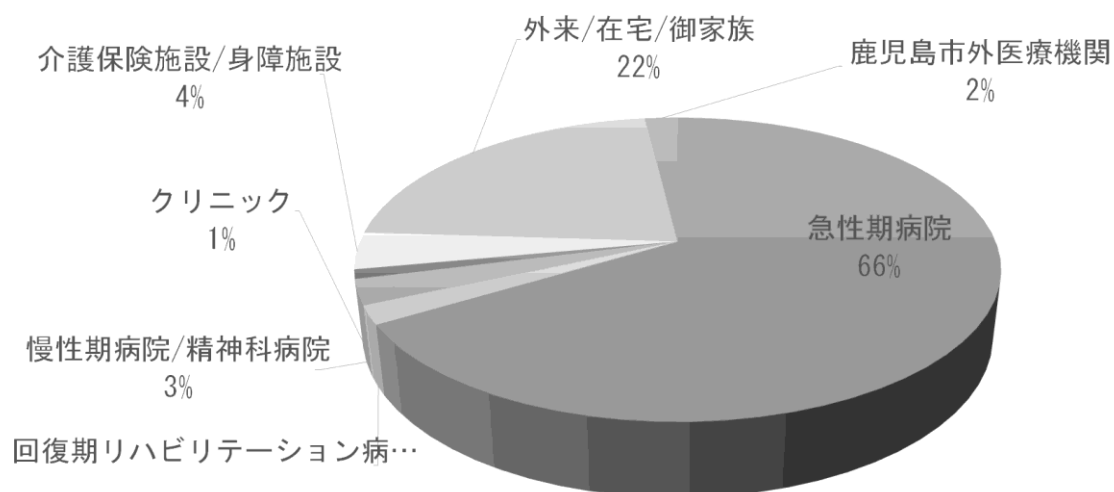
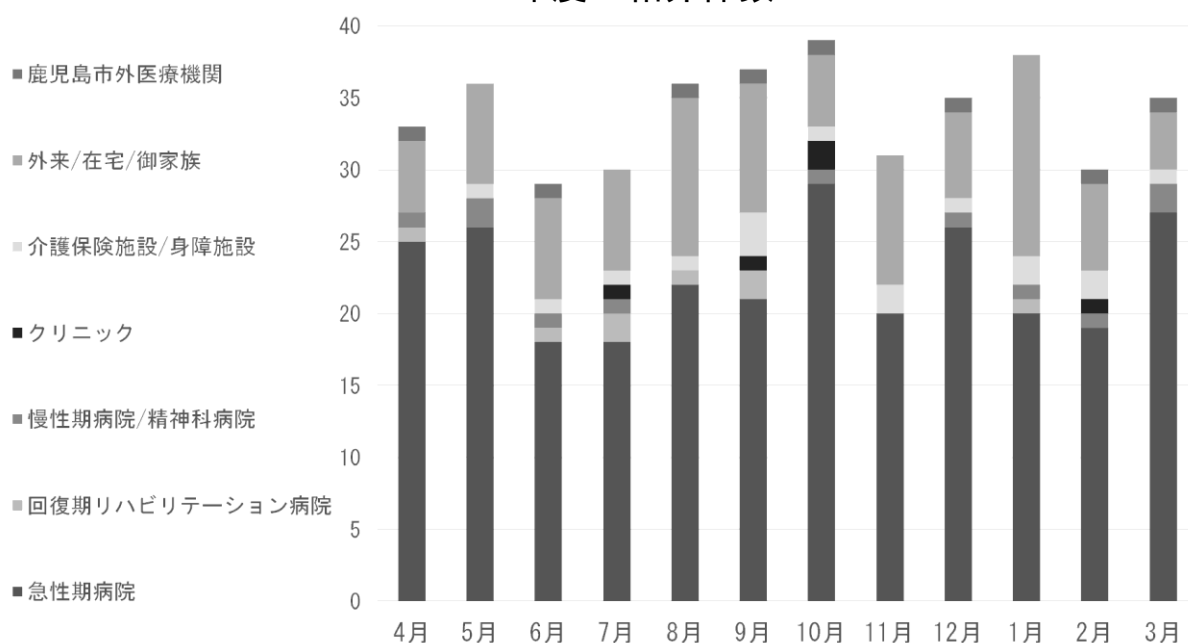
■ 2017年 ■ 2018年



2018 年度 紹介先機関別

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
急性期病院	25	26	18	18	22	21	29	20	26	20	19	27	271
回復期リハビリテーション病院	1	0	1	2	1	2	0	0	0	1	0	0	8
慢性期病院/精神科病院	1	2	1	1	0	0	1	0	1	1	1	2	11
クリニック	0	0	0	1	0	1	2	0	0	0	1	0	5
介護保険施設/身障施設	0	1	1	1	1	3	1	2	1	2	2	1	16
外来/在宅/御家族	5	7	7	7	11	9	5	9	6	14	6	4	90
鹿児島市外医療機関	1	0	1	0	1	1	1	0	1	0	1	1	8
	33	36	29	30	36	37	39	31	35	38	30	35	409

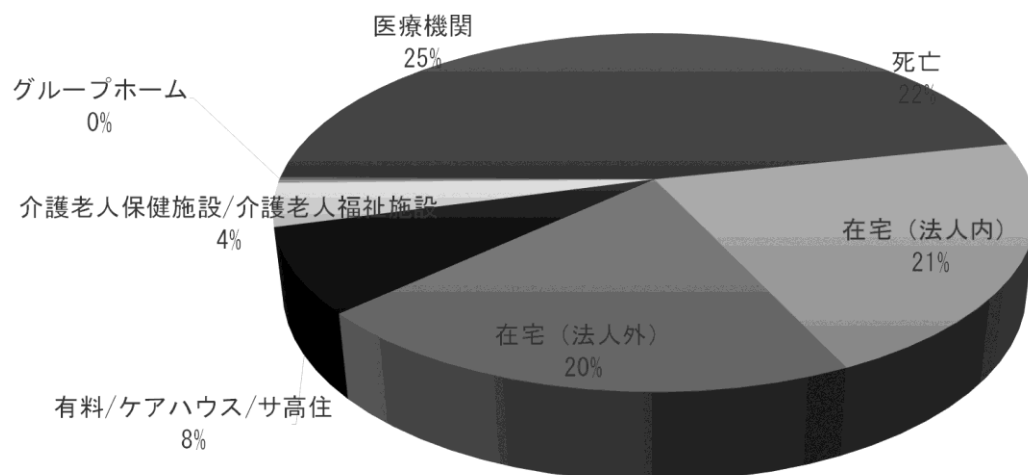
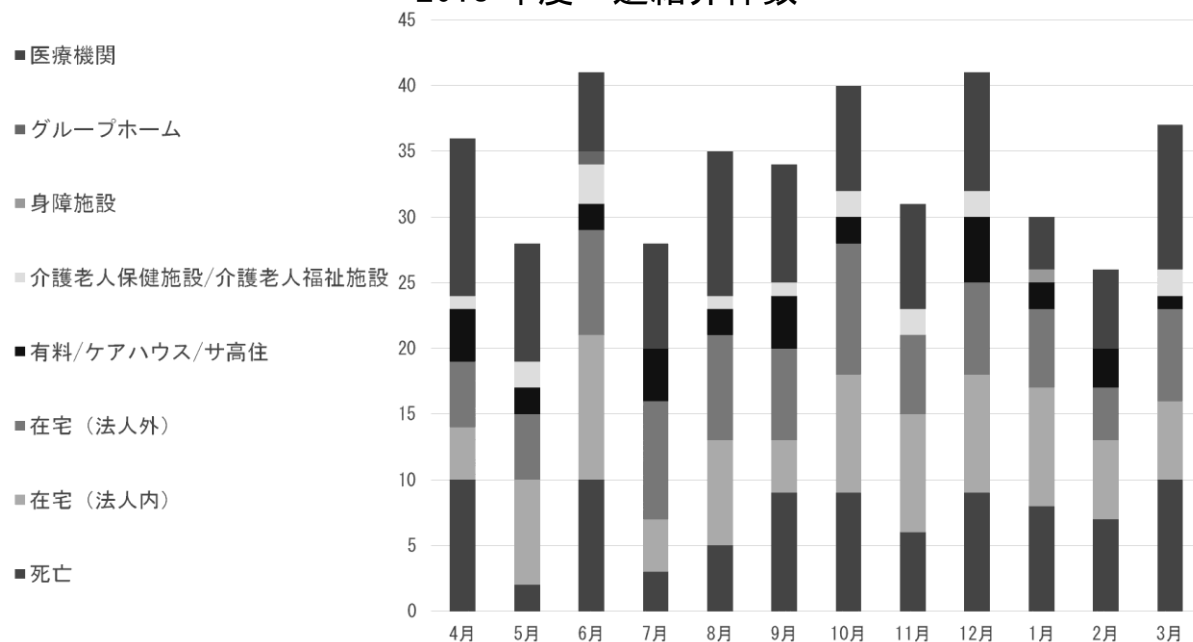
2018 年度 紹介件数



2018 年度 逆紹介先機関別

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
死亡	10	2	10	3	5	9	9	6	9	8	7	10	88
在宅(法人内)	4	8	11	4	8	4	9	9	9	9	6	6	87
在宅(法人外)	5	5	8	9	8	7	10	6	7	6	4	7	82
有料/ケアハウス/サ高住	4	2	2	4	2	4	2	0	5	2	3	1	31
介護老人保健施設/ 介護老人福祉施設	1	2	3	0	1	1	2	2	2	0	0	2	16
身障施設	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
グループホーム	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
医療機関	12	9	6	8	11	9	8	8	9	4	6	11	101
計	36	28	41	28	35	34	40	31	41	30	26	37	407

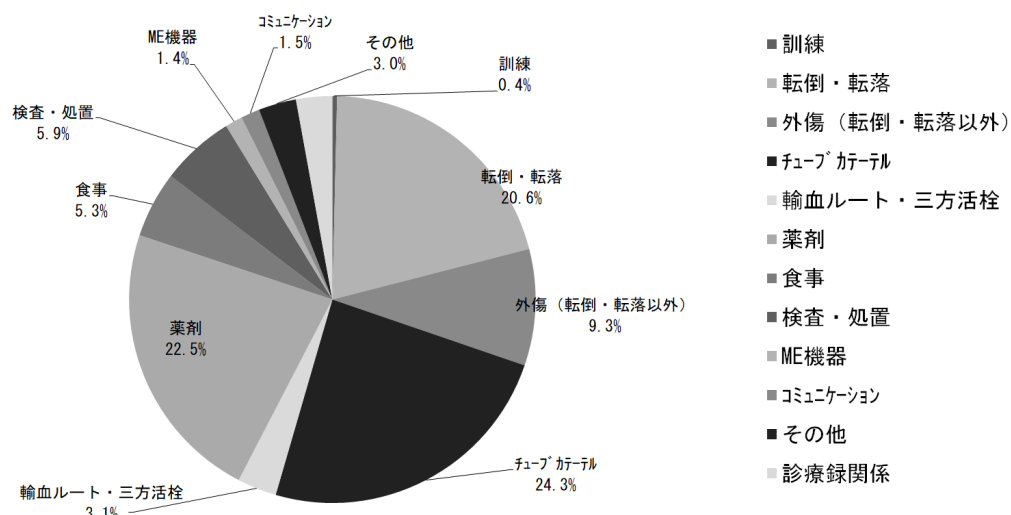
2018 年度 逆紹介件数



2018 年度インシデント・アクシデント発生状況

要因別件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2018 年度 集計
訓練	0	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
転倒・転落	14	8	13	18	15	9	17	12	10	19	15	15	165
外傷（転倒・転落以外）	9	6	6	3	4	5	7	11	10	5	4	4	74
チューブ・カテーテル	11	13	24	7	16	9	22	20	27	22	11	12	194
輸血ルート・三方活栓	1	3	2	0	6	2	1	4	1	5	0	0	25
薬剤	14	10	15	10	28	15	15	10	15	14	11	23	180
食事	4	3	3	6	1	6	3	1	3	6	3	3	42
検査・処置	5	4	2	9	2	6	6	2	1	3	4	3	47
ME 機器	0	0	1	3	1	2	0	2	1	0	0	1	11
コミュニケーション	2	0	2	1	0	2	0	1	1	1	2	0	12
その他	2	1	0	2	1	0	4	3	4	2	1	4	24
診療録関係	2	4	2	0	2	4	0	1	2	1	3	2	23
総計	64	53	70	59	76	60	76	67	75	78	54	68	800

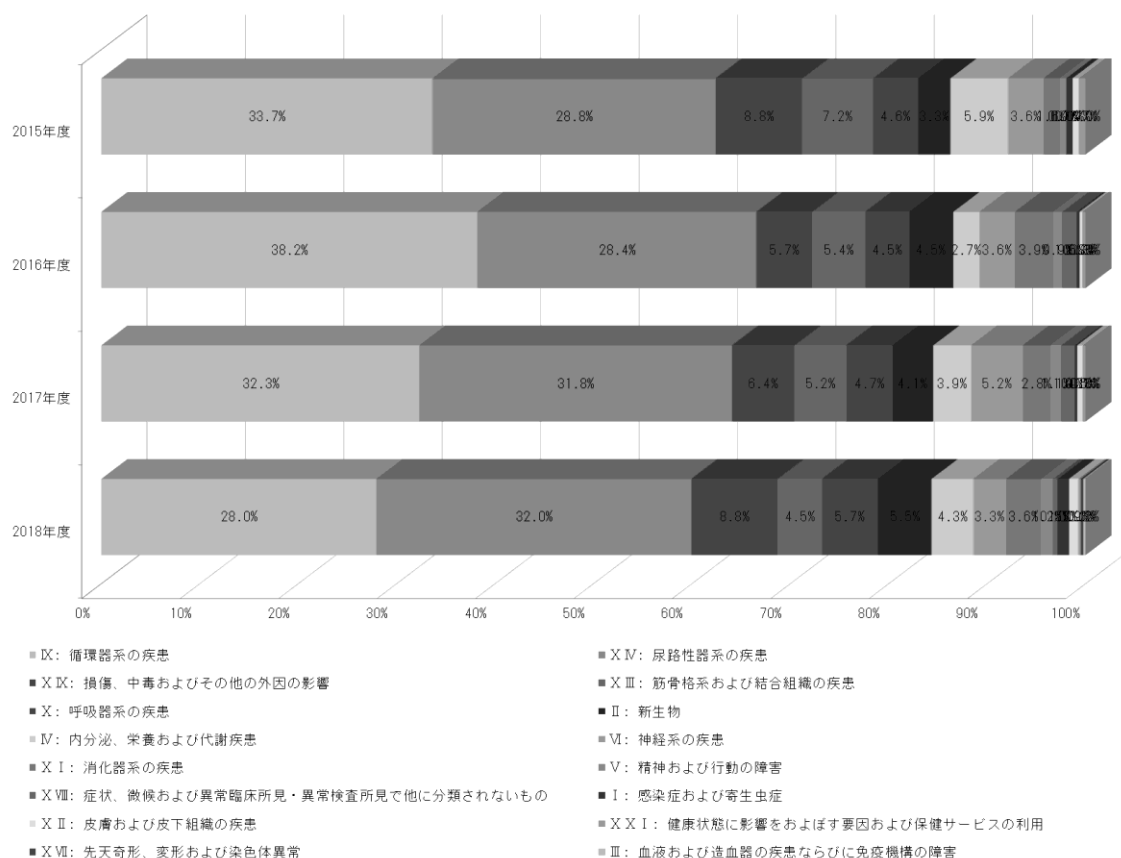
2018年度 要因別割合



部署別件数	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	2018 年度 集計
医局	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
薬局	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1
栄養室	0	2	1	0	0	0	1	0	1	2	2	1	10
検査室・レントゲン室	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
リハビリ室	1	2	7	2	0	2	5	3	2	1	2	4	31
地域医療連携センター	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
通所リハビリ	2	1	1	0	0	1	3	0	1	0	1	0	10
3 階病棟	22	15	17	18	36	9	23	8	13	17	8	16	202
4 階病棟	13	14	19	13	23	14	17	25	35	27	12	25	237
5 階病棟	6	9	6	19	8	18	18	17	10	18	7	7	143
6 階病棟	15	5	12	4	7	7	8	10	10	12	16	12	118
外来	1	3	3	1	1	4	1	1	0	0	0	1	16
透析室	0	2	1	1	0	0	0	2	0	0	0	0	6
病院事務	3	0	3	1	1	4	0	1	2	1	7	1	24
総計	64	53	70	59	76	60	76	67	75	78	55	67	800

疾病別患者数年度別推移 (2015年度～2018年度)

大分類名	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
IX 循環器系の疾患	103	128	117	118
XIV 尿路性器系の疾患	88	95	115	135
XX 損傷、中毒およびその他の外因の影響	27	19	23	37
X 呼吸器系の疾患	22	18	19	19
XIII 筋骨格系および結合組織の疾患	14	15	17	24
II 新生物	10	15	15	23
VI 神経系の疾患	18	9	14	18
IV 内分泌、栄養および代謝疾患	11	12	19	14
XI 消化器系の疾患	5	13	10	15
XII 皮膚および皮下組織の疾患	2	3	4	5
I 感染症および寄生虫症		5	5	2
XVIII 症状、徴候および異常臨床所見	2	1	1	5
XXI 健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	2	1	2	4
V 精神および行動の障害	2	1	1	1
XVII 先天奇形、変形および染色体異常				1
III 血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害				1
総計	306	335	362	422



高田病院 部門別活動報告

部門別活動のご紹介にあたって（玉昌会のBSC活動）

医療法人玉昌会では、Balanced Score Card（以下BSCという）を活用した部門別活動を展開しています。

※BSC（Balanced Score Card）＝組織のビジョンや戦略を4つの視点から具体的な目標や行動計画に視覚化し、実践し評価するための手法。

医療法人玉昌会のBSC運用スケジュール

2月：新年度の基本方針（法人・各地区・両院）発表
（合同スタッフ会議にて）



3月：前記方針に基づいた部門基本方針の立案



3月：具体的部署目標の設定並びに目標を達成するための具体的な施策内容と実施スケジュールの立案



4月：BSC事務局によるヒアリング、提出（PLAN）



4月～3月：施策の実施（DO）



9月、3月：結果とその評価（CHECK）



9月：BSCの修正（ACTION）



BSCの立案においては次の4つの視点区分がポイントとなります。

- A. 患者満足の視点
- B. 健全経営の視点
- C. 医療の質向上の視点
- D. 学習と成長の視点

この4つの視点区分にもとづいて、各部署で立案されたものです。

3 階病棟

【今年度の取り組み】

- A-1. 苦情の減少
達成目標：サービス向上報告書による苦情 6 件以内
- B-1. 残業時間の短縮
達成目標：月の平均残業時間が 5 時間以内
- B-2. 在宅復帰率の向上
達成目標：在宅復帰率 50%以上
- C-1. 退院患者カルテ 1 ヶ月以内の処理率向上
達成目標：退院患者カルテ 1 ヶ月以内処理 45%以上
- C-2. 外傷件数の減少
達成目標：3 a 以上の外傷件数 16 件以内
- C-3. 褥瘡の新規発生率を減らす
達成目標：褥瘡新規発生率 2%
- D-1. 院内勉強会参加率の向上
達成目標：参加率 85%以上

【今年度を振り返って】

今年度は未達成の目標もあったが各自目標達成の意識を持って業務に取り組む事が出来た。褥瘡委員を中心に栄養科・リハビリと連携し褥瘡改善努めた。泌尿器が始まり今後、専門分野における自己啓発にも積極的に取り組んでいきたい。

4 階病棟

【今年度の取り組み】

- A-1. 接遇の向上
達成目標：クレーム 2 件以内
- B-1. 残業時間の削減
達成目標：月平均 4 時間以下
- C-1.
 - ① 退院カルテ処理
達成目標：退院カルテ 1 ヶ月以内処理率 25%
 - ② 医療事故の削減
達成目標：3 a 以上の事故が 15 件以下
 - ③ 褥瘡の新規発生率
達成目標：3.3%
- D-1. 知識・能力向上
達成目標：参加率 70%以上

【今年度を振り返って】

自己研鑽とコスト意識（残業）についての意識が低く、今後の課題と思われる。
コスト意識については、日頃から意識できるようチーム全体で注意し合いタイムスケジュール等見直していく。院内勉強会参加は教育委員を中心に、今後も継続した声掛けを行い、自ら自己研鑽に努め、よりよい看護・ケアの提供ができる職員の育成に取り組み、看護職としての意識・レベルを高めていくよう努力していく。

5 階病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 接遇の向上

達成目標：クレーム3件以下

B-1. 残業時間の削減

達成目標：3.9時間以下

B-2. 在宅復帰の向上

達成目標：在宅復帰機能強化加算病棟の在宅復帰率・地域包括ケア病棟在宅復帰率70%

C-1. 看護記録の充実

達成目標：退院カルテ処理率1カ月以内の処理率55%

C-2. 転倒・転落による3a以上の外傷を減らす。

達成目標：転倒・転落による3a以上の外傷5件

C-3. 褥瘡発生の減少

達成目標：褥瘡の発生率 2.5%以下

D-1. 院内勉強会への参加の向上

達成目標：院内勉強会参加率 85%以上

【今年度を振り返って】

昨年度より地域包括ケア病棟20床となり、毎日のカンファレンスを他職種と行い在宅復帰に向けた支援を行ってきましたが目標を達成することが出来ませんでした。

来年度6月から10床増床となるため、今後更なる他職種との連携を図り退院支援の強化に努めていきたい。

6 階病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 接遇の向上

達成目標：クレーム件数1件以下

B-1. 残業時間の削減

達成目標：月平均2時間以下

B-2. 在宅復帰率の向上

達成目標：在宅復帰率80%以上

C-1. 看護記録の充実

達成目標：退院カルテ処理1ヶ月以内70%以上

C-2. 3a以上の事故を減らす

達成目標：3a以上の事故件数が20件以下

C-3. 褥瘡の新規発生率を減らす

達成目標：褥瘡新規発生率1%

D-1. 院内勉強会の参加率向上

達成目標：院内勉強会参加率85%以上

【今年度を振り返って】

今年度、残業時間・3a以上の事故・褥瘡発生率が未達成であった。特に残業時間に関しては大幅にオーバーしてしまったので、残業時間の削減が必要であり、来年度に向けて業務改善に取り組んでいく。

3a以上の事故に関しては、転倒への十分な予測、褥瘡に関しては早期のマットレス選択を行っていく。多職種と情報共有する中で、プライマリーを中心に早期に退院支援を行い、在宅復帰に取り組んでいきたい。

透析室

【今年度の取り組み】

- A-1. 患者教育
達成目標：月28件のカンファレンス実施・90%周知
- B-1. 残業時間の削減
達成目標：残業時間月平均3時間未満
- B-2. 透析患者の増加
達成目標：患者総数月平均65名
- C-1. 看護記録の強化
達成目標：1ヶ月以内の退院カルテ処理率45%達成
- C-2. 医療事故を起こさない
達成目標：3a以上3件以下
- D-1. 勉強会参加率維持
達成目標：参加率平均93%

【今年度を振り返って】

カンファレンスにおいては、担当者や申し送り時の呼びかけによって実施件数・周知共に達成出来た。残業時間については、業務改善と患者ベッドの調整を行い達成に努めた。

患者数においては、新規の入院患者さまの受け入れが増え、患者数が増加したが、業務改善を繰り返しながら、少ないスタッフ数の中で、調整に努め患者数の維持が出来た。

看護記録の強化においては、記録委員を中心にチェック表の見直しを行い声掛けに努めたことで、達成に繋がった。

医療事故においては、認知症の患者さまが増加の一途をたどる

中で個々のスタッフの認識を強化し早期の対応を行うことで事故防止へ繋がった。

勉強会においては、声掛けの不足と、個々のスタッフの意識の低下が原因と考えられ未達成となった。

看護部 外来

【今年度の取り組み】

- A-1. 患者満足度の充実
達成目標：看護師接遇 97%
- B-1. 残業時間の削減
達成目標：月平均 1時間以内
- B-2. 外来受診者数の現状維持
達成目標：平均6,900名
- C-1. 医療事故を起こさない
達成目標：3a以上の事故を4件以下
- D-1. 院内勉強会への参加
達成目標：参加率86%
- D-2. 泌尿器科マニュアル作成
達成目標：マニュアル作成5項目

【今年度を振り返って】

泌尿器科の再開に伴い、新しい分野の診療科も始まり1つ1つ確実に技術を習得し、マニュアル作成を行った。そして病棟との連携を図り、入院患者様の継続した看護が行えるように取り組んだ。今年度は接遇の徹底を図り、心のこもった温かい看護の提供に努めたい。

また健診部門にも力をいれ、当院の特徴である船員検査、産業医の健診をアピールし、パンフレットを充実させ、サービスの向上に努めていく。

栄養室

【今年度の取り組み】

- A-1. 患者様嗜好調査結果向上
達成目標：嗜好調査結果全項目で8割以上達成
- B-1. 栄養指導・栄養相談の推進
達成目標：栄養指導件数年間240件以上
- B-2. 早期退院の働きかけのため栄養サマリーの充実と推進
達成目標：栄養サマリー作成件数年間220件以上
- C-1. VE・VFの栄養士参加率向上
達成目標：部署内調整し参加率100%
- C-2. チーム医療の推進のため多職種連携カンファレンスの栄養士参加率の向上
達成目標：部署内調整し参加率100%
- C-3. 回復期リハビリテーション病棟のリハビリ実施計画書作成に栄養士も参加し栄養管理の充実をはかる
達成目標：入院時医師立会いに栄養士も必ず同席し、リハビリ実施計画書作成参加とリハビリ総合実施計画書の栄養評価追加項目の記入
- D-1. 院内勉強会の参加率の向上
達成目標：年間15回以上の参加

【今年度を振り返って】

今年度は、入退院の栄養指導・相談の依頼数の増加があったが、通常業務と並行し協力しながら計画的に遂行することができた。入院時から重症患者・低栄養患者の対象者が以前より増加傾向ではあるが、各担当が、栄養管理の早期介入を行い、多職種と連携し、チーム医療の推進をはかったことで食思改善・経口移行率などは前年度より大幅に改善がみられたため今後も積極的に介入し、適切な栄養管理に努めていきたい。また栄養管理の知識と技術、栄養ケアのアプローチ確率のため知識の向上を常に目指していきたい。

薬局

【今年度の取り組み】

- A. 外来患者さまの待ち時間短縮
達成目標：外来患者の待ち時間調査において、10分以上の待たせている件数を15件にする。
- B. 後発医薬品への導入提案と変更
達成目標：薬事審議会の後発医薬品への提案を行い、後発医薬品採用率を75%にする。
- C-1. 医療の質の向上のため適正な医薬品情報の提供
達成目標：新規採用医薬品情報を速やかに提供できるように、院内医薬品集の発行を年2回行う。
- C-2. 医療の質の向上のため適正な医薬品情報の提供
達成目標：適切な外用剤使用のために、月曜日と木曜日に行う褥瘡回診へ積極的に参加し、参加率75%以上、処方提案2件/週以上行う。
- D. 疾患と薬剤の基礎と実践に基づく知識の習得
達成目標：疾患と薬剤に対する理解を深め、臨床に応用できる知識を身に着ける。月1回テキストに基づいた疾患の勉強会を実施する。

【今年度を振り返って】

今年度も引き続き、各種カンファレンスへの参加や褥瘡回診・回復期病棟の回診への参加等に目的をもって積極的に取り組めた。また入退院の増加に伴い、病棟での薬剤管理指導業務も充実させることができた。これからも、臨床でよりよい医療の提供ができるよう、取り組みを深めていきたい。来年度は、チーム医療への積極的参加、薬剤自己管理に向けて積極的に服薬指導・服薬支援を行う、後発医薬品の採用率を上げる等に取り組んでいきたい。

臨床検査室

【今年度の取り組み】

- C-1. インシデント・アクシデントの防止
達成目標：インシデント・アクシデント発生なし
- C-2. 内部精度管理の実施及び外部精度管理への参加
達成目標：内部精度管理、外部精度管理ともに±2SD内の測定値を目標とする
- D-1. 院内勉強会への参加
達成目標：85%以上の参加
- D-2. 院外勉強会、研修会及び講習会等への参加
達成目標：5回以上の参加

【今年度を振り返って】

外部精度管理については、良好な結果が得られている。測定機器メーカーによる専門的な定期点検と日常のメンテナンスが的確に実施できているためだと考えられる。同様に、内部精度管理の測定値も毎回安定している。これらにより、正確で精度の高い臨床検査データを提供することができた。また、健診・ドックの受診者や腎不全外科の患者の増加に伴い煩雑な検査体制となったが、充分とは言えないものの、他部門の協力もあり、円滑な運営が維持できたと思われる。

リハビリテーション室

【今年度の取り組み】

- A-1. 地域に根差したリハビリテーションの提供
達成目標：地域公開講座を3回実施
- B-1. リハビリ提供時間の充実
達成目標：全体18.5単位
- B-2. 地域包括ケア病床の適正な運営
達成目標：平均単位数2単位以上
- C-1. 回復期病棟の充実・強化
達成目標：実績指数37以上
- D-1. 症例検討会・勉強会の実施
達成目標：毎月2回ずつ計4回実施
- D-2. 学会発表へ積極的に取り組む
達成目標：全国学会で3演題を発表する

【今年度を振り返って】

今年度部署目標はスタッフ一丸となり、協力体制を整える事で全て達成されました。研究への取り組みでは慢性期医療学会の全国大会で4演題の発表をすることができました。また、全国大会の舞台で初めて座長を務め、職務を全うすることが出来ました。一方、地域に根差したリハビリを実践させる為、去年から引き続き地域公開講座の開催、「お達者クラブ」や「よかよか元気クラブ」での転倒予防教室の開催や『よかよか体操』実施等の介護予防事業等へのセラピストの講師派遣協力を行いました。今年度は新たに上町・名山地区の予防介護事業の協力依頼へも、取り組むことでより一層、地域への介護予防の取組みが図れています。訪問リハビリ部門では訪問診療に係る外来Drの協力もあり、利用者実績を伸ばすことが出来ました。保険適応外のリハビリ（自費リハビリ）も開始することで患者さまやご家族さまからのリハビリ希望に対し、より柔軟な対応が出来るような体制を整えました。当院で対話支援システム『コミュニケーション』を導入し、三笠宮瑤子女王殿下が視察した際にリハビリ室としての取組を説明・対応しています。

来年度は、①未病・予防の視点でリハビリテーションを行う、②地域包括ケア病棟の適正な運営、③回復期リハビリ病棟の充実・強化、④リハビリ提供時間の充実を図る、⑤在宅部門とのボーダレスな人的交流を図る、⑥地域の3病院合同の勉強会へ参加してスキルアップを図る、⑦研究・学会発表へ取り組みスキルアップを図ることを目標に

し、リハビリ室として目標達成に向けて努力していききたいと思います。

通所リハビリテーション

【今年度の取り組み】

- A-1. 顧客満足度の向上
達成目標：満足度調査の実施。個別面談の実施。
- B-1. 外部居宅事業所からの新規紹介
達成目標：新規開拓した事業所からの紹介を2件獲得する。
- B-2. 1日平均利用者数の拡大
達成目標：25名
- C-1. 短時間通所リハビリテーションの使用ニーズにも対応できるよう努める。
達成目標：マニュアルを作成し、短時間通所リハビリテーションの受け入れ体制を整える。
- C-2. 質の高いリハビリの提供
達成目標：リハビリテーション会議を週3回実施する。
- D-1. 院外勉強会への参加
達成目標：院外勉強会・研修会へ全スタッフで上半期2回、下半期3回参加する。

【今年度を振り返って】

新規開拓した居宅支援事業所からの利用者紹介の獲得、また既存の居宅支援事業所からの紹介、新規利用者の獲得の増加により、一日平均利用者数の向上が図れ、目標を達成することが出来た。ケアマネージャーへ迅速・且つ詳細な報告を心掛けることで信頼感を獲得し、新規受け入れ状況報告を定期的に発信することで、外部事業所との繋がりを持つよう積極的に行動した。利用者満足度においては多くの利用者の支持が得られたため、継続して質の高いサービスを提供していきたいと思う。介護報酬改定に伴い、新たに算定を開始した加算もあり、リハビリマネジメント加算ではリハビリ会議も実施し、利用者に対し質の高いサービス提供を実施できた。徐々に利用者のリハビリマネジメント加算Ⅲの幅を拡大し、より良いサービス提供が行えるように検討していきたい。短時間通所リハビリテーションでは数名の実績を作ることができた。来年度に向けて受け入れ体制を整え、利用者のニーズに合わせて短時間通所の利用者数を増やしていきたい。高田病院通所リハビリテーションにおいて、利用者・家族の満足が得られるようにスタッフ同意識を高めていきたい。

心理相談室

【今年度の取り組み】

- A-1. 依頼介入時のみならず、潜在的なニーズに対応できるよう努める。
達成目標：継続ケースと並行して、未介入のご家族への周知活動を積極的に行い、介入や相談依頼がコンスタントになる。
- B-1. 地域包括ケア病棟での活動定着を目指す。
達成目標：まずは、全病棟において、入院時を含む早期の活動のタイミングを見定めていく。
- B-2. 在宅部門の安定した運用に貢献すべく、利用者およびスタッフへの相談体制を構築していく。
達成目標：在宅部門のニーズ状況によって、訪問を含む、活動体制を策定する。
- C-1. 回復期リハビリテーション病棟の運用に寄与すべく、必要時に介入実施していく。
達成目標：患者さまの状態変化および経過の時期に見合った活動の実施。
- C-2. 病棟機能を念頭におき、各部署とのスムーズなパートナーシップを目指す。
達成目標：病院機能の変化を踏まえ、部署ごとのニーズに適宜応じられるように、管理者との連携の再構築を図る。
- D-1. 職員健診・ストレスチェックを軸に、スタッフのメンタルヘルスの維持・推進に貢献する。
達成目標：ストレスチェック関連活動を速やかな遂行とスタッフのメンタルヘルス支援の利用を促進する。

D-2. 専門職としてのスキルアップおよびスタッフへのフィードバックに努める。

達成目標：法人内での勉強会の開催。新規資格の取得を目指す。

【今年度を振り返って】

今年度は、患者さまおよびご家族への介入依頼だけでなく、コンサルテーションを含め、臨床心理士活用の定着を実感出来た。これまでの都度の活動成果によるものと考えるが、今後も、より多くのスタッフにとって、多様な場面で、心理相談室利用が選択肢の一つと認識されるよう、『身近な相談室』の運用を目指す。また、ストレスチェックといった外来部門での活用をはじめ、国家資格取得したことで、来期は、より専門性を意識し、さらなる自己研鑽と積極的な情報発信に励みたい。

臨床工学室

【今年度の取り組み】

A-1. 医療事故・医療過誤の防止

達成目標：医療機器、ME機器の不具合に関する インシデント・アクシデントを年間0件にする。

B-1. ME機器点検の確実な実施

達成目標：ME機器の定期点検を年度計画表に基づき計画通り、期間内に100%実施する。

C-1. ME機器関連の勉強会の実施

達成目標：ME機器関連の勉強会を年6回以上、実施する。

D-1. 学会およびセミナー等への参加

達成目標：学会、セミナー等へ年3回以上の参加または、演題発表を行う。

【今年度を振り返って】

今年度は、臨床工学技士養成校より実習生の受入れや血液浄化療法のアフェレーシス業務としてCARTの施行、院内研究発表会での演題発表などの成果を上げることができた。また、血液浄化業務、ME機器管理業務とともに、何事もなく遂行できた。来年度は、今年度同様、医療事故・医療過誤の防止に努め、更なる質の向上に努めるとともに、安心・安全な医療の提供を目指します。

放射線室

【今年度の取り組み】

A-1. X線機器の毎日の点検（始業、終業）

B-1. 撮影実績（ ）は2017年度と比較

C-1. 院内学習の参加、自己学習におけるスキルアップ

【今年度を振り返って】

一般外来（健診を含む）、人間ドック、協会健保は昨年度と比較し増加しましたが、入院、CT、エコー検査、胃透視、ポータブルと件数が昨年度より減少しています。

嚥下造影検査が昨年度より徐々に増えてきていますが、2019年度よりリハビリの医師が常勤となるので更に増加していくと思いますが、装置が老朽化してきている為、患者様の安全を第一に更に質の向上を目指し取り組んでいきたいと思っています。

地域医療連携センター

【今年度の取り組み】

A-1. 専門性を活かし、患者さま・御家族が安心して退院後の生活が送れるよう、院内多職種や介護支援専門員等との連携を図ります。※『介護支援連携指導料』算定

達成目標：『介護支援連携指導料』算定漏れを年間10件以内に抑える。

B-1. 地域包括ケア病棟単位の取得に貢献できるよう努めます（ベッド稼働率の安定）。

達成目標：ベッド稼働率90%以上を確保する。

高田病院 部門別活動報告

- B-2. 地域包括ケア病床・入院料1の取得に貢献できるよう努めます。
達成目標：年度末に在宅復帰率70%（6か月平均）を確保する。
- C-1. 機能評価受審への取り組みを強化し、再認定を目指します。
達成目標：診療報酬を踏まえたマニュアル改訂および書類の整理を受審までに整える。
- C-2. 他医療機関及び患者さま・御家族へ選んで頂ける病院創りの基となる『病院へ望むこと』を様々な機関への訪問活動を通じて情報収集し、病院へ貢献することを目指します。
達成目標：月5機関以上訪問活動を実施し、算定要件（年3回／20か所以上）を満たす。
- D-1. 個々のスキルアップに努め、専門性を発揮できるように努めます。
達成目標：年間を通して、1人あたり8回以上、員が研修へ参加する。

【今年度を振り返って】

地域包括ケア病床単位での取得を目指していたが、入院期間が長期化している患者さまの支援が滞ってしまった。次年度こそは病床取得出来るように関係職種間で連携を図り、患者さま・御家族の意向に添った支援を展開していきたいと考える。また、入院基本料等の基準を落とすことがないように取り組みを強化していきたい。今後も病院内外の変化に対応できるよう、他機関や院内の関係部署・職種と連携を密に図り、患者支援のみに固執しないソーシャルワークを展開していきたい。

医事課

【今年度の取り組み】

- A-1. 満足度調査100%を目指す。
達成目標：100%維持する
- B-1. 病床単位の取得に向け、適切な基準管理、シュミュレーションを行う。
達成目標：病床単位での取得
- B-2. 的確な診療報酬分析を行い、新病院に向けての患者獲得に貢献する
達成目標：患者数の維持、増加にむけ、窓口対応の強化、苦情投書発生率0%
- C-1. 病院機能評価更新審査に向け、適切な準備を行う。
達成目標：マニュアル管理、部署環境の整備の継続、維持、改良。
- C-2. 回復期病床入院料1の基準維持に向け、適切な基準管理を行う。
達成目標：基準管理、シュミュレーションを的確に行い、維持継続を図る。
- C-3. 各診療科のクラーク業務の充実
達成目標：代行入力、外来診療補助、回診補助の精度強化
- D-1. 事務勉強会を継続する。
達成目標：毎月開催継続

【今年度を振り返って】

今年度は、回復期入院料1の施設基準の維持や機能評価の再更新に向け、マニュアルの更新を行い、各診療科のクラーク業務の拡大もできた。その一方で、患者満足度調査・苦情投書等で、接遇面に対してご意見をいただくことがあったので、部署内で改善案を十分に検討し、次年度へ活かしていきたい。

総務係

【今年度の取り組み】

- A-1. 環境整備に努める
達成目標：チェック項目のリストを活用しながら、週に1回以上のラウンドを行う
- B-1. 病床再編の工程表に沿って施設基準の取得をする。
達成目標：地域包括ケア病床の病床単位取得を目指す。
- C-1. 病院機能評価の更新審査を受審し、再認定を目指す。
達成目標：更新審査受審後は、B評価等改善が必要な項目について今年度中に検討をする。

C-2. 回復期病棟施設基準 1 を維持する。

達成目標：在宅復帰率 80%以上

重症患者受入 40%以上

重症者改善率 40%以上

アウトカム評価 40 以上

D-1. 年間 4 回以上院外研修会へ参加する。

達成目標：上半期院外研修 2 回・下半期院外研修 3 回参加する。

【今年度を振り返って】

今年度は、機能評価の再更新に向け、マニュアルの更新を行い、機能評価審査に向けて取り組んだ 1 年間となった。結果としては、機能評価の更新もでき、審査後も委員会の中で B 評価について検討を行い改善することが出来た。その一方で、院外研修への参加が充分に行えなかったため、個々のスキルアップのためにも積極的に参加していきたい。

事務部門 院内保育・学童係

【今年度の取り組み】

A-1. 保護者との連携

達成目標：子育て支援会議を実施し、全職員が共通認識をもって保護者との連携を図る。

B-1. 24 時間保育の体制の構築と対応

達成目標：保育士の体制を整え保護者が安心して働ける環境作りを行う。

C-1. 感染症マニュアルの作成

達成目標：感染症が流行する前にマニュアルを作成・職員全員に配布し全員が対応できるようにする。

D-1. チェリッシュキッズルーム内勉強会

達成目標：内容が偏らないように、色々な取り組みを行う。

【今年度を振り返って】

今年は、加治木チェリッシュと情報を共有し、感染マニュアルを作成することができた。また、子育て支援会議を再開したことで病院と今まで以上に連携がとれるようになり、さらに准看護師が入職したことで疾病に対してさまざまな知識を得ることができた一年だった。

今後も職員一人ひとりが正しい知識を身に付け、保護者が安心して預けられる保育サービスを提供できるよう取り組んでいく。

2018 年度 委員会一覧

委員会名		開催日	目的
診療関係	診療情報管理委員会	2 ヶ月に 1 回	診療録管理室の運営管理、診療録及び諸様式伝票類の検討等を行い、診療上の有効的効率的運営を図る
	給食委員会	第 2 月曜	栄養管理・給食管理上の現状、その問題点・課題を把握し、改善策を検討・実施する
	薬事審議会	2 ヶ月に 1 回	薬物療法の合理的発展を図る
	倫理委員会	年 4 回	倫理上問題となる症例への対応および倫理に関する教育・研修などにより、患者さま中心の医療を推進するために必要な事項を定める
教育関係	サービス向上委員会	第 4 火曜	患者さま・ご家族より寄せられたご意見・苦情・提案に関して病院として真摯に取組み、サービスの向上を目的とする
	個人情報管理委員会	3 ヶ月に 1 回	患者さまや職員等に関する個人情報適切に取扱い、患者さまから信頼されることと診療情報の提供を適切に行うことを目的とする
	教育委員会	第 2 火曜	医療の知識、技術の向上を目的とする
	環境美化委員会	第 4 月曜	病院内外の美化に努めることを目的とする
	情報管理委員会	第 2 月曜	情報管理業務の円滑な運営を目的とする
	図書委員会	第 1 金曜	院内図書の円滑な購入及び管理を行う
医療安全対策関係	医療安全管理委員会	第 1 月曜	医療安全管理対策を総合的に企画、実施することを目的とする
	医療安全カンファレンス	毎週金曜	医療安全管理対策を実効あるものとすることを目的とする
	褥瘡対策委員会	第 4 月曜	褥瘡を予防することを目的とする
	身体抑制廃止推進委員会	第 4 木曜	身体抑制廃止へ向けて職員の意識向上を図る事を目的とする
	輸血療法委員会	3 ヶ月に 1 回	院内における輸血に際し、安全かつ適正な輸血療法が出来るよう輸血療法に関する事項について審議する
	医療ガス委員会	年 1 回	医療ガスの使用上の安全確保を目的とする
	労働安全衛生委員会	第 2 月曜	職員の安全と健康を確保することによって病院業務の円滑な運営を図る
	院内感染対策委員会	第 4 月曜	院内感染の予防対策及び知識の啓蒙を図り、健全な医療体制及び施設確立を図る
その他	編集委員会	第 2 火曜	広報誌の準備・編集・発送
	機能評価委員会	月に 1 回	機能評価機構の認定及びその更新を目的とする

高田病院 院内研修会 開催状況

月日	内容	対象者	企画	主催者	参加率 人数
4月20日 4月24日	病院機能評価受審の流れ	全職員	教育委員会		74% 189人/255人
5月23日	口腔ケア	全職員	教育委員会 山内歯科矯正		76% 192人/251人
5月30日 6月12日	喫煙の害と禁煙治療について	全職員	教育委員会		76% 192人/251人
7月10日 7月13日	腰痛予防について	全職員	腰痛予防対策委員会 教育委員会		82% 208名/253名
6月29日 7月20日	接遇について	全職員	教育委員会		80% 204人/254人
8月24日 9月7日	医療安全報告	全職員	教育委員会		80% 203人/255人
9月11日 9月20日	内田 Dr による L G B T について	全職員	教育委員会		72% 185人/257人
9月25日 10月10日	患者の権利について	全職員	地域医療連携センター		68% 173名/253名
9月26日	女性の不定愁訴	全職員	教育委員会		68% 175人/256人
9月27日	生活習慣病について	全職員	教育委員会		65% 166人/257人
10月24日 10月29日	院内における腰痛予防について	全職員	腰痛予防対策委員会 教育委員会		72% 183人/254人
10月25日 11月16日	医療機関における安全管理	全職員	教育委員会	株式会社 アトル	68% 168人/246人
11月19日 11月29日	高齢者の口腔ケア	全職員	教育委員会 山内歯科矯正		68% 173人 256人
11月21日 11月26日	ノロウイルス感染対策	全職員	感染対策委員会 教育委員会		75% 184人/240人
12月14日 12月19日	安全運転講習会	全職員	教育委員会	(株)マジオ ネット	55% 133人/243人
1月21日 1月29日	エコアクションについて	全職員	総務副主任		64% 162人/255人
2月14日 2月22日	尿道カテーテル感染対策	全職員	教育委員会		72% 176人/244人
3月19日	院内研究発表	全職員	教育委員会		71% 173人/244人
3月22日 3月26日	認知症ケア加算症例検討	全職員	教育委員会		67% 165人/246人

年間研修会参加率平均 : 71.2%

第 19 回 院内研究発表会

日 時 2019 年 3 月 19 日（火）17:30～
会 場 通所リハビリテーション室

1. 難治性腹水に対する腹水濾過濃縮再静注法（CART）について
臨床工学室 栗野
2. 1 行為 1 プッシュ～手指消毒の徹底を目指して～
3 階病棟 上山
3. 高田病院における薬剤耐性菌の動向
臨床検査室 湯田
4. 地域包括ケア病棟・回復期病棟スタッフの退院支援に関する認識
5 階病棟 脇田
5. 病棟のオムツ出庫に係って
医事課医療クラーク係 坂本
6. 褥瘡処置・ポジショニングの統一化に向けての取り組み
3 階病棟 市来



医局

月 日	学校名	参加人員
11 月 1 日	鹿児島大学医学部医学科 2 年	7 名
11 月 8 日	鹿児島大学医学部医学科 2 年	7 名
	計	14 名

看護部

月 日	学校名	参加人員
4 月 16 日～4 月 26 日	鳳凰高等学校専門課程 2 年生	8 名
5 月 28 日～6 月 22 日	鳳凰高等学校基礎課程 2 年生	10 名
8 月 21 日～9 月 14 日	鳳凰高等学校専門課程 2 年生	16 名
9 月 19 日～9 月 28 日	鳳凰高等学校基礎課程 1 年生	10 名
10 月 1 日～10 月 25 日	鳳凰高等学校専門課程 2 年生	16 名
11 月 1 日～11 月 14 日	鹿児島大学看護師特定行為研修センター	4 名
11 月 5 日～11 月 30 日	鳳凰高等学校基礎課程 3 年生	10 名
	計	74 名

地域医療連携センター

月 日	学校名	参加人員
8 月 6 日～9 月 7 日	鹿児島国際大学 福祉社会学部社会福祉学科	2 名
1 月 7 日～2 月 7 日	日本メディカル福祉専門学校	1 名
	計	3 名

リハビリテーション室

月 日	学校名	参加人員
4 月 16 日～6 月 9 日	鹿児島第一医療リハビリ専門学校 作業療法学科	1 名
5 月 7 日～7 月 14 日	南学園 鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1 名
5 月 7 日～7 月 14 日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 理学療法学科	1 名
5 月 7 日～6 月 16 日	鹿児島大学 医学部保健学科 作業療法学専攻	1 名
5 月 7 日～7 月 13 日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科	1 名
5 月 21 日～6 月 15 日	麻生リハビリテーション大学 言語聴覚学科	1 名
7 月 9 日～7 月 14 日	南学園 鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1 名
7 月 23 日～7 月 28 日	南学園 鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1 名
7 月 30 日～10 月 6 日	南学園 鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1 名
8 月 6 日～10 月 12 日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 理学療法学科	1 名
8 月 6 日～10 月 12 日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科	1 名
8 月 6 日～9 月 28 日	鹿児島第一医療リハビリ専門学校 言語聴覚学科	1 名
8 月 27 日～10 月 6 日	鹿児島大学 医学部保健学科 作業療法学専攻	1 名
10 月 15 日～12 月 7 日	熊本保健科学大学 言語聴覚学科	1 名
11 月 26 日～12 月 15 日	南学園 鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1 名
1 月 14 日～2 月 8 日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 理学療法学科	1 名
1 月 21 日～2 月 8 日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科	1 名
2 月 11 日～2 月 22 日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 理学療法学科	1 名
2 月 11 日～2 月 16 日	熊本保健科学大学 言語聴覚学科	1 名
2 月 25 日～3 月 1 日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科	1 名
2 月 25 日～3 月 1 日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 理学療法学科	1 名
3 月 4 日～3 月 8 日	原田学園 鹿児島医療技術専門学校 作業療法学科	1 名
3 月 25 日～3 月 19 日	鹿児島大学 医学部保健学科 作業療法学専攻	2 名
	計	24 名

高田病院 実習受入れ

栄養室

月 日	学校名	参加人員
8月20日～8月31日	鹿児島県立短期大学 生活科学科 食物栄養専攻 2年	2名
11月3日～12月15日 不規則で10日間	鹿児島県立短期大学 生活科学科 食物栄養専攻 2年	1名
	計	3名

臨床工学室

月 日	学校名	参加人員
9月10日～9月25日	鹿児島医療工学専門学校 臨床工学学科 3年生	1名
10月9日～10月22日	鹿児島医療工学専門学校 臨床工学学科 3年生	1名
	計	2名

医療法人 玉昌会
加治木温泉病院

2018 年度 医療法人玉昌会 加治木温泉病院

《理 念》

行動指針「低賞感微」に沿った医療・介護・福祉サービスを提供します。

《基本方針》

1. 患者さまの尊厳と権利を尊重した医療・介護を目指します。
2. 患者さまの視点に立ち、良質で安心・安全な医療・介護の提供に努めます。
3. 地域包括ケアシステムの構築に寄与し、全世代に対応した医療・介護・福祉サービスを含めた生活支援サービスの提供を目指します。
4. 病院および在宅サービス事業部の健全な運営を行い、安心して働きがいのある職場づくりと職員のはたらき方改革に取り組みます。
5. 健診や保健指導により地域住民の健康管理や病気および介護予防に取り組みます。

《運営方針》

1. 患者さま・利用者さまの尊厳や権利を尊重した医療・介護を行います。
2. 地域のニーズにあった病院機能の見直しと病棟機能の見直しを行い、地域での連携を目指します。
3. 医療の質の確保と安全な医療・介護に努めます。
4. 療養環境および職場環境の改善に努めます。
5. 健診部門の充実を図ります。
6. 地域共生社会の実現に向けての対応に取り組みます。
7. 人財の確保および育成に努めます。
8. 2018 年度診療報酬・介護報酬同時改定への対応に取り組みます。
9. 外来機能の充実を図ります。
10. 病院の新築移転に向けての取り組みを行います。

加治木温泉病院の沿革

- 1978 年 6 月 加治木温泉病院開設 病床数 100 床
- 1985 年 7 月 増改築により増床 人工腎臓センター開設・人工透析開始
- 1989 年 7 月 C T・M R I 導入
- 1994 年 5 月 人工腎臓センターを別棟として増設
- 1997 年 11 月 浴室・管理棟を増設
- 1997 年 12 月 350 床に増築
- 1998 年 12 月 療養二群入院医療管理（Ⅰ）基準承認
療養型病床群療養環境（Ⅱ）（Ⅲ）基準承認
- 1999 年 6 月 総合リハビリテーション施設承認
- 2000 年 2 月 介護療養型医療施設承認（91 床）
- 2001 年 4 月 療養病棟入院基本料Ⅰ基準承認
介護療養型医療施設 117 床に増床
療養型病床群療養環境（Ⅰ）（Ⅱ）基準承認
- 2001 年 5 月 回復期リハビリテーション病棟基準承認（54 床）
- 2002 年 4 月 地域リハビリテーション広域支援センター認定
- 2002 年 5 月 日本医療機能評価機構「認定証」取得
- 2002 年 10 月 特殊疾患療養病棟入院料 2 基準承認
- 2007 年 5 月 日本医療機能評価機構「V e r . 5 認定証」取得
- 2008 年 12 月 日本医療機能評価付加機能（リハビリテーション機能）認定
- 2009 年 1 月 一般病棟入院基本料（13：1）承認（30 床）
- 2009 年 2 月 亜急性期入院医療管理料（Ⅰ）承認（10 床）
- 2010 年 2 月 介護療養型医療施設（57 床）
療養病棟入院基本料 2（149 床）
- 2010 年 4 月 療養病棟入院基本料 1（119 床）
療養病棟入院基本料 2（90 床）
- 2010 年 10 月 国土交通省（J C A B）指定航空身体検査機関認定
- 2010 年 11 月 一般病棟入院基本料（13：1）承認（60 床）
療養病棟入院基本料 2（60 床）
- 2010 年 12 月 16 列マルチスライス C T 装置導入
- 2012 年 5 月 日本医療機能評価機構「V e r . 6 認定証」取得
- 2013 年 4 月 日本慢性期医療協会「慢性期医療認定病院」認定

2013 年	8 月	持続性推進機構「エコアクション 21」認定
2013 年	12 月	日本医療機能評価機構付加機能（リハビリテーション機能 V e r . 3 . 0）認定
2014 年	10 月	外科・消化器外科開設
2014 年	12 月	在宅療養後方支援病院基準承認
2015 年	1 月	回復期リハビリテーション病棟入院料 1 承認（54 床）
2015 年	2 月	アメリカ連邦航空局（F A A）指定航空身体検査機関認定
2015 年	3 月	電子カルテ導入
2015 年	4 月	回復期リハビリテーション病棟入院料 1 体制強化加算承認 標榜科目に神経内科、頭頸部外科を追加
2015 年	5 月	一般病棟（13：1）60 床を地域包括ケア病棟入院料 2 へ転換
2015 年	6 月	がん患者リハビリテーション料承認
2015 年	7 月	地域包括ケア病棟入院料 1 承認
2015 年	11 月	介護療養型医療施設（57 床）療養機能強化型 B 承認
2015 年	12 月	介護療養型医療施設（57 床）療養機能強化型 A 承認
2016 年	1 月	標榜科目に肝臓内科を追加
2016 年	9 月	開放型病院基準承認
2017 年	3 月	日本医療機能評価機構「3 r d G : V e r . 1 . 1 認定証」取得
2017 年	12 月	超電導型 M R I 装置（1. 5 T）導入
2018 年	4 月	皮膚科外来開設
2018 年	5 月	救急告示病院指定
2018 年	6 月	整形外科開設
2018 年	7 月	神経内科を脳神経内科へ変更
2018 年	12 月	介護療養型医療施設（57 床）を介護医療院へ転換
2019 年	4 月	日本機能評価機構 付加機能（リハビリテーション機能 V e r . 3 . 0）更新

加治木温泉病院の概要

名 称 医療法人玉昌会 加治木温泉病院

所 在 地 〒899-5241

鹿児島県姶良市加治木町木田 4714

TEL (0995) 62-0001 FAX (0995) 62-3778

開 設 者 高田 昌実

管 理 者 高田 昌実

診 療 科 目 内科 消化器内科 腎臓内科(人工透析)

肝臓内科 循環器内科 脳神経内科

泌尿器科 耳鼻咽喉科・頭頸部外科 リハビリテーション科

外科 消化器外科 整形外科 皮膚科 歯科

病 床 数 293 床

- ・ 地域包括ケア病棟入院料 4 (60 床)
- ・ 回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (54 床)
- ・ 療養病棟入院基本料 1 (119 床)
- ・ 療養病棟入院基本料 2 (経過措置 1) (60 床)

介護医療院 (57 床)

社会保険等指定

健康保険、国民健康保険、労災保険、生活保護

身体障害者福祉法指定医、結核予防法

原子爆弾被爆者一般疾病医療、自立支援医療

施 設 基 準 療養病棟入院基本料 1 (119 床)、療養病棟入院基本料 2 (60 床)、療養病棟療養環境加算 1・2、診療録管理体制加算 2、医師事務作業補助体制加算 1、療養病棟療養環境改善加算 1、療養病棟在宅復帰機能強化加算、栄養サポートチーム加算、医療安全対策加算 2、感染防止対策加算 2、患者サポート体制充実加算、総合評価加算、データ提出加算 2、退院支援加算 1、認知症ケア加算 2、後発医薬品使用体制加算 2、透析液水質確保加算 2、輸血管理料 2、回復期リハビリテーション病棟入院料 1 (54 床)、体制強化加算 1、地域包括ケア病棟入院料 1 (60 床) 、

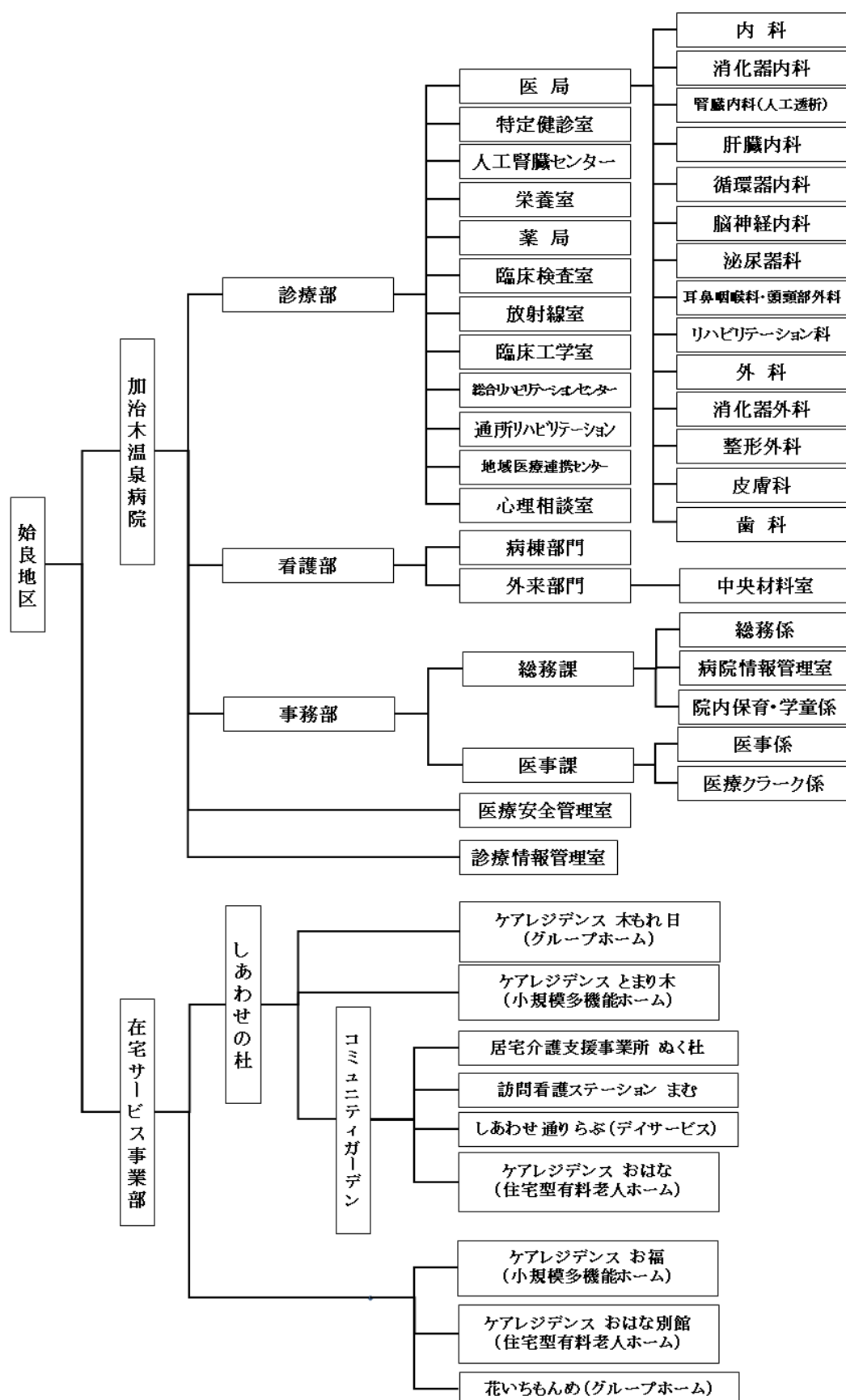
糖尿病合併症管理料、がん性疼痛緩和指導管理料、糖尿病透析予防指導管理料、開放型病院共同指導料、排尿自立指導料、薬剤管理指導料、医療機器安全管理料 1、在宅療養後方支援病院、検体検査管理加算 1、神経学的検査、CT 撮影及びMRI 撮影、抗悪性腫瘍剤処方管理加算、無菌製剤処理料、脳血管疾患等・呼吸器・運動器リハビリテーション料 1、がん患者リハビリテーション料、集団コミュニケーション療法料、下肢末梢動脈疾患指導管理加算、胃瘻造設術・胃瘻造設時嚥下機能評価加算、入院時食事療養（Ⅰ）・入院時生活療養（Ⅰ）、介護療養型医療施設療養機能強化型 A（57 床）、歯科外来診療環境体制加算 1、CAD/CAM 冠、クラウン・ブリッジ維持管理料、有床義歯咀嚼機能検査 1 の口及び咀嚼能力検査

広 報 誌 すこやか加温（年 4 回発行）

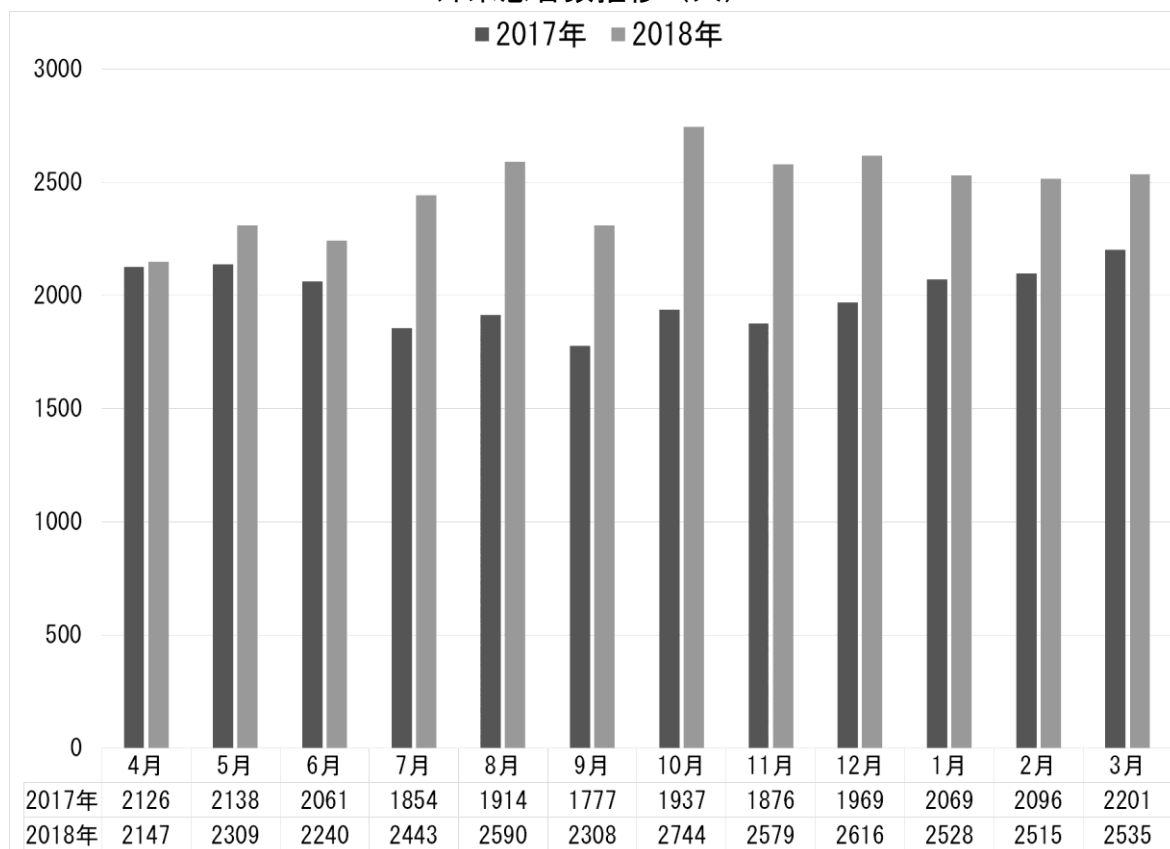
そ の 他 ・ 日本医療機能評価機構認定病院 (3rdG:Ver. 1. 1)

- ・ 日本医療機能評価機構付加機能
（リハビリテーション機能 Ver. 3. 0 回復期）
- ・ 慢性期医療認定病院
- ・ 日本リハビリテーション医学会研修施設
- ・ 日本温泉気候物医学会専門医教育研修施設
- ・ 日本透析医学会専門医制度教育関連施設
- ・ 在宅療養後方支援病院
- ・ 開放型病院
- ・ 通所リハビリテーション
- ・ 訪問リハビリテーション
- ・ 始良・伊佐高齢者保健福祉圏域地域リハビリテーション広域支援センター
（脳血管疾患等）
- ・ 航空身体検査指定機関
（アメリカ連邦航空局指定、国土交通省指定）
- ・ 消化器・大腸・胃・前立腺がん・肺がん検診精密検査医療機関
- ・ 肝疾患治療かかりつけ医療機関
- ・ 難病患者医療等専門医療機関
- ・ 日帰り人間ドック実施指定病院
- ・ 協会けんぽ生活習慣病予防健診指定病院
- ・ 薬学生長期実務実習受入施設・看護学校実習病院・医療福祉実習病院
- ・ 持続性推進機構エコアクション 21 (環境省推奨) 認定
- ・ かごしま子育て応援企業登録
- ・ 救急告示病院

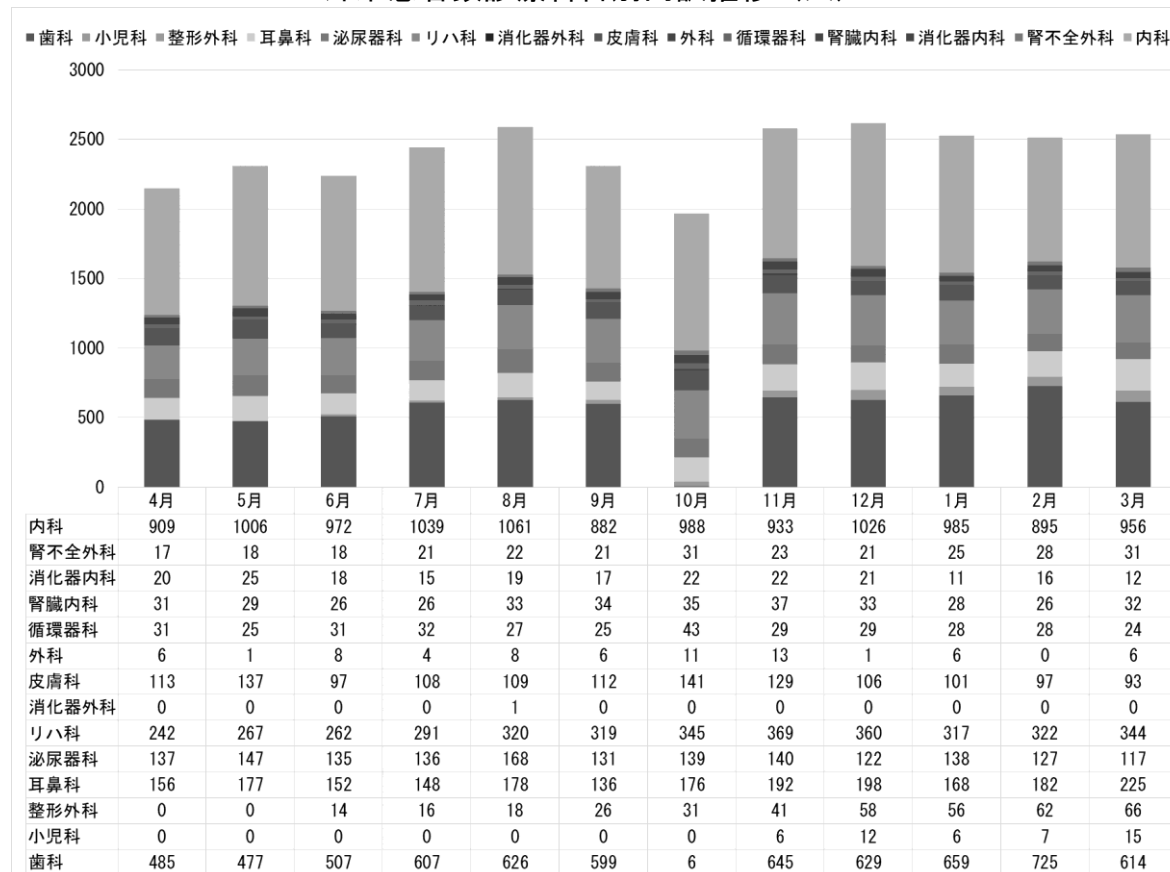
医療法人 玉昌会 始良地区 組織図 2019 年 4 月 1 日現在

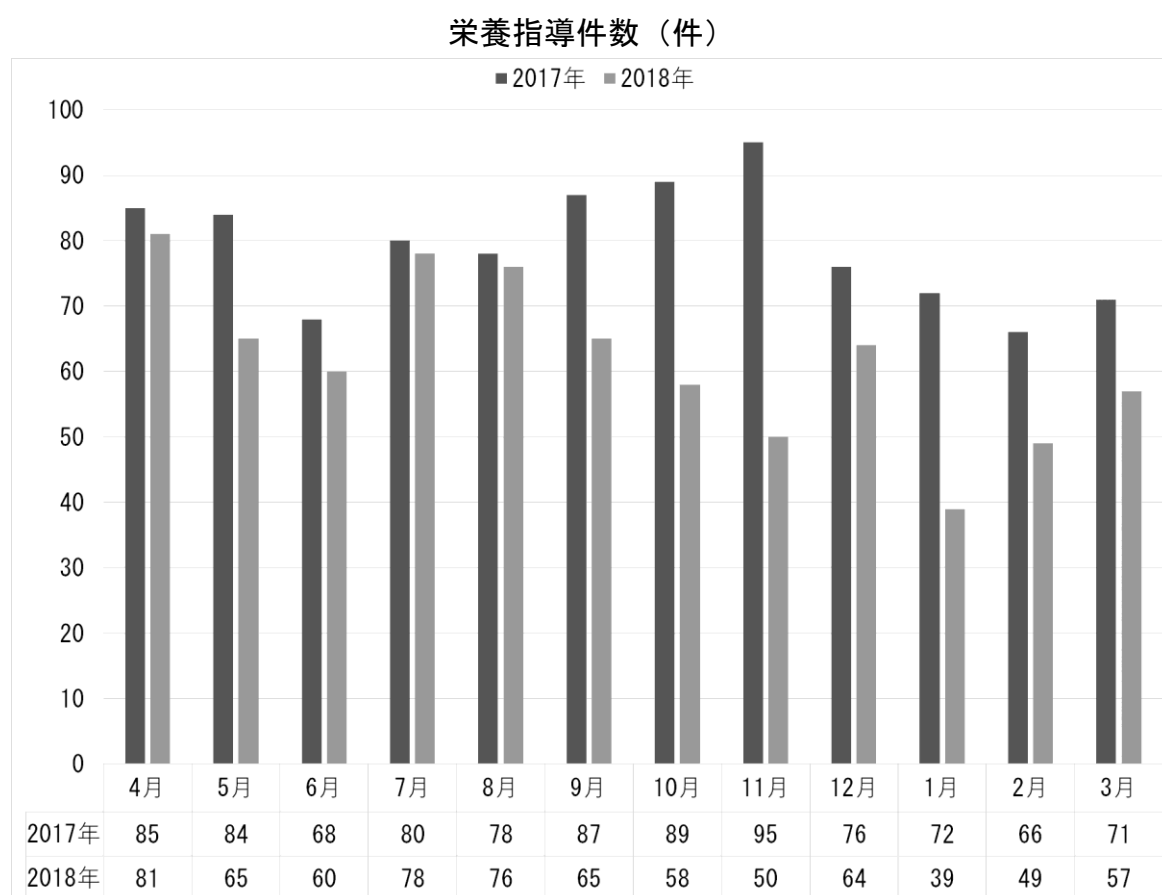
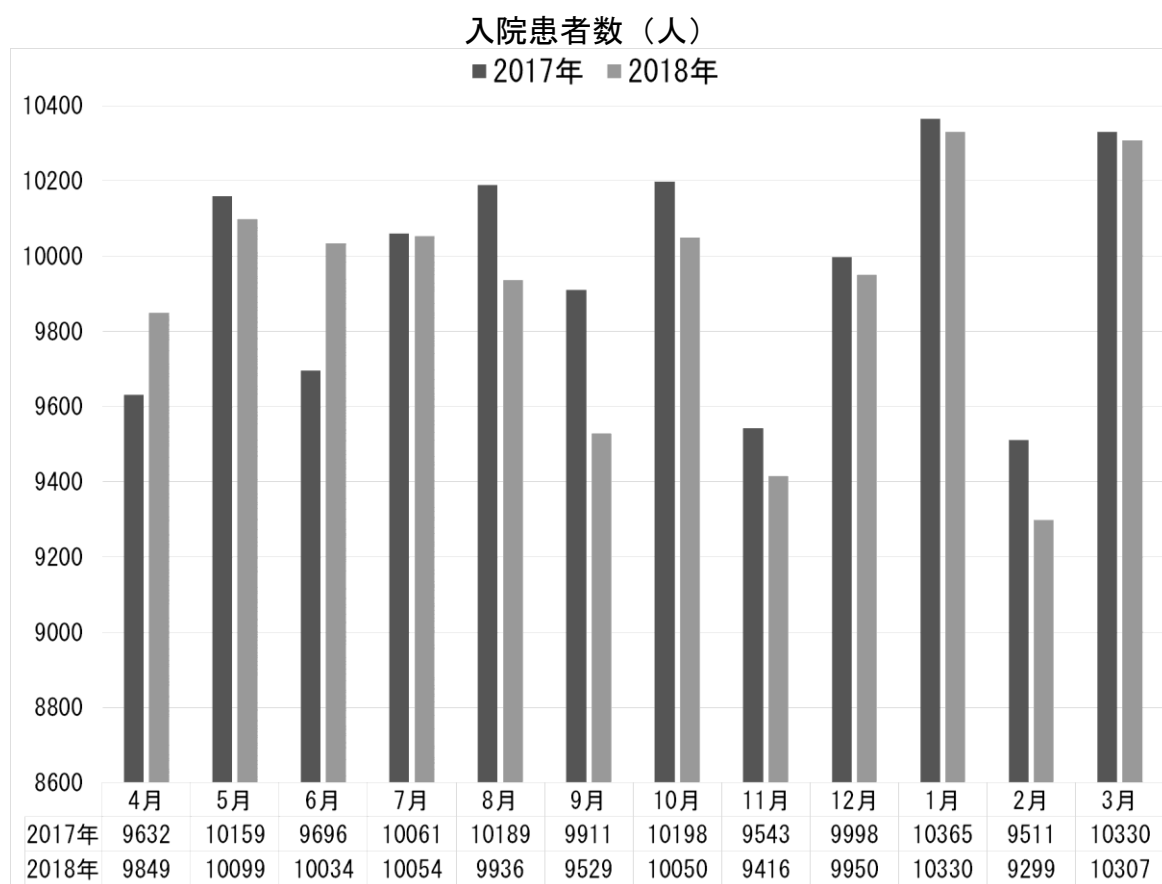


外来患者数推移（人）

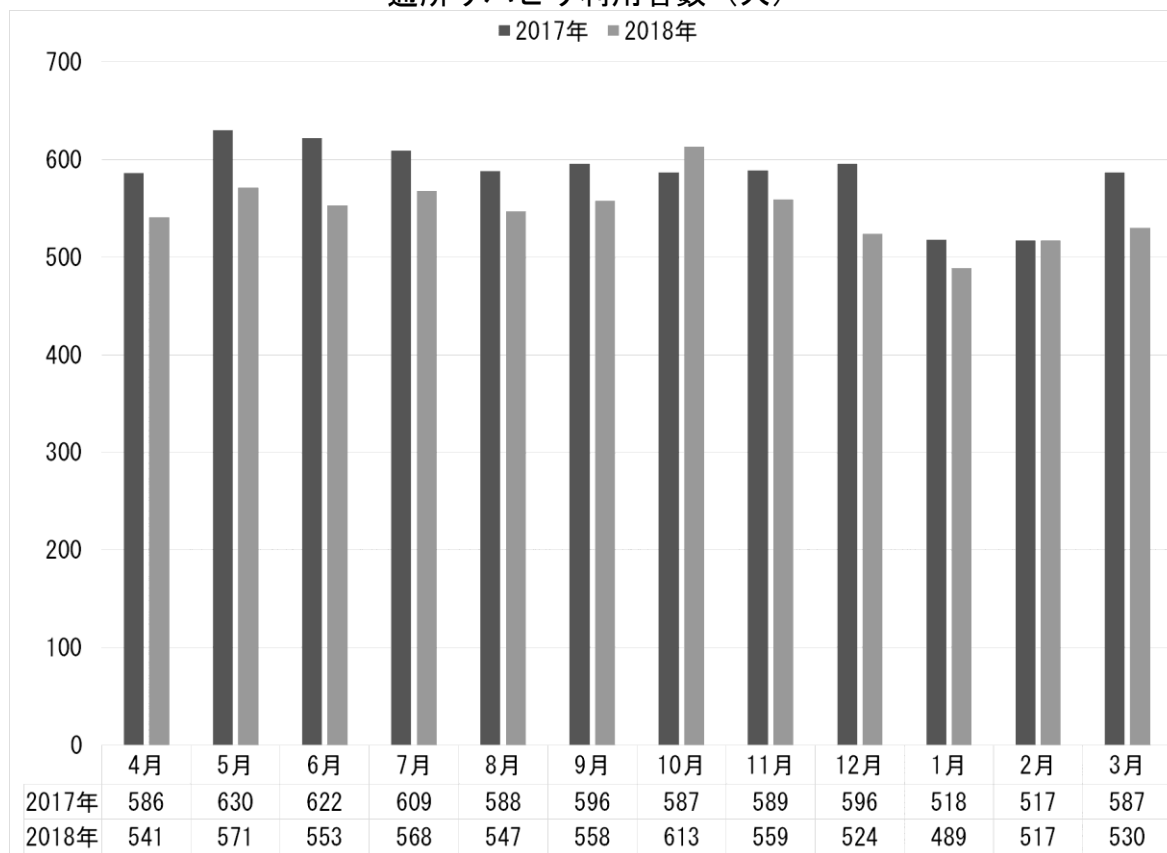


外来患者数診療科目別内訳推移（人）

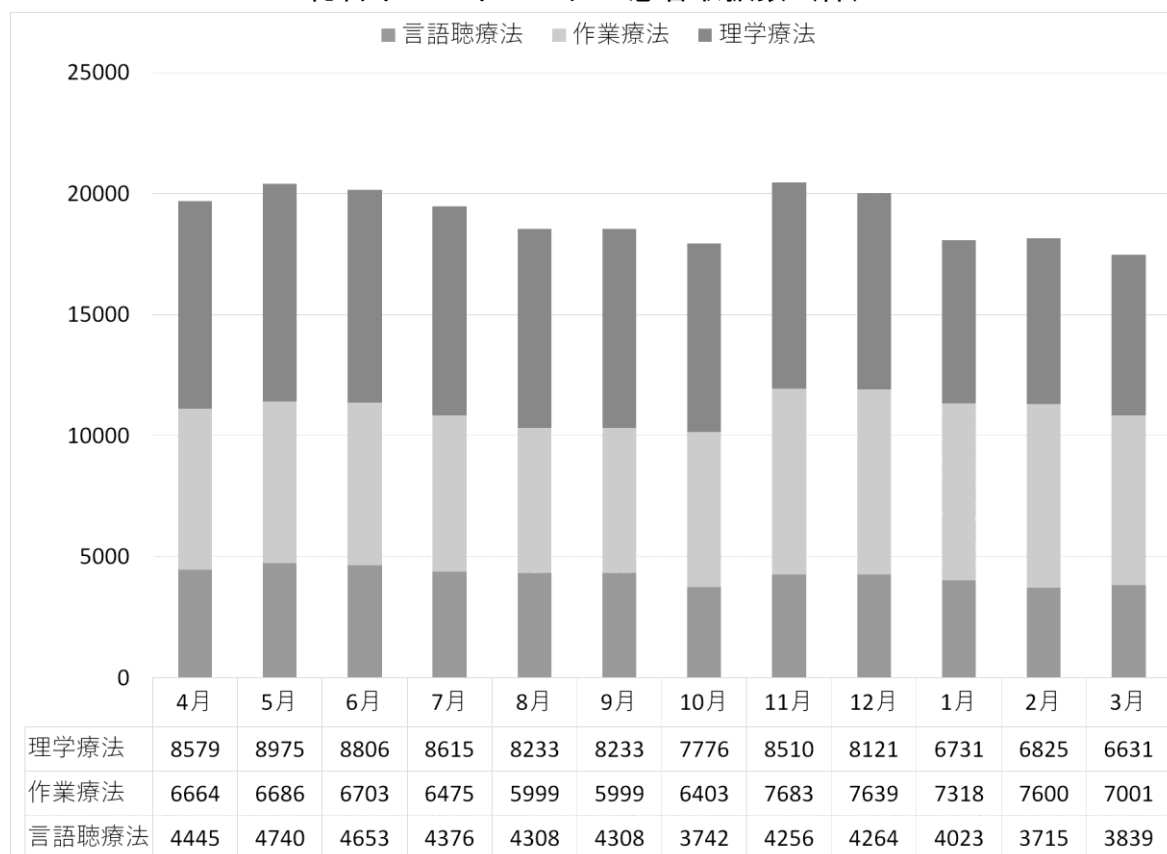




通所リハビリ利用者数（人）

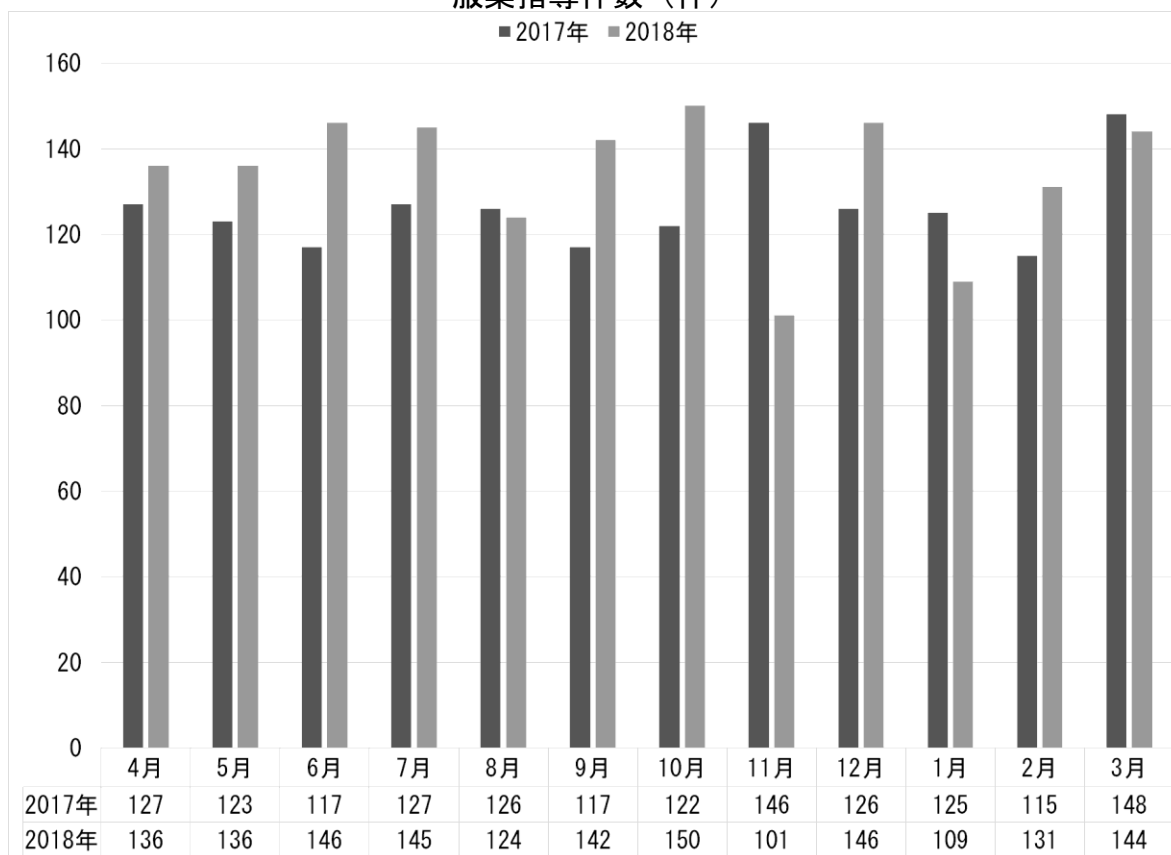


総合リハビリセンター患者取扱数（件）



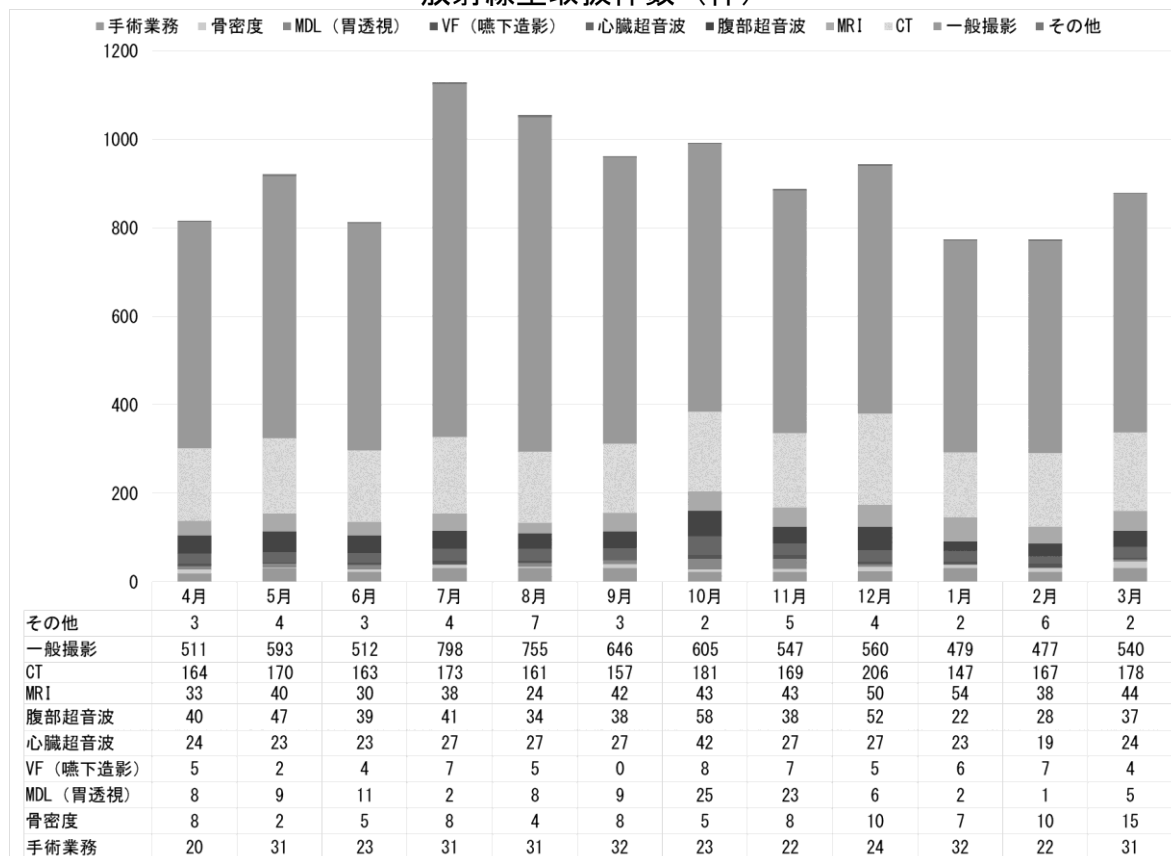
服薬指導件数（件）

■ 2017年 ■ 2018年

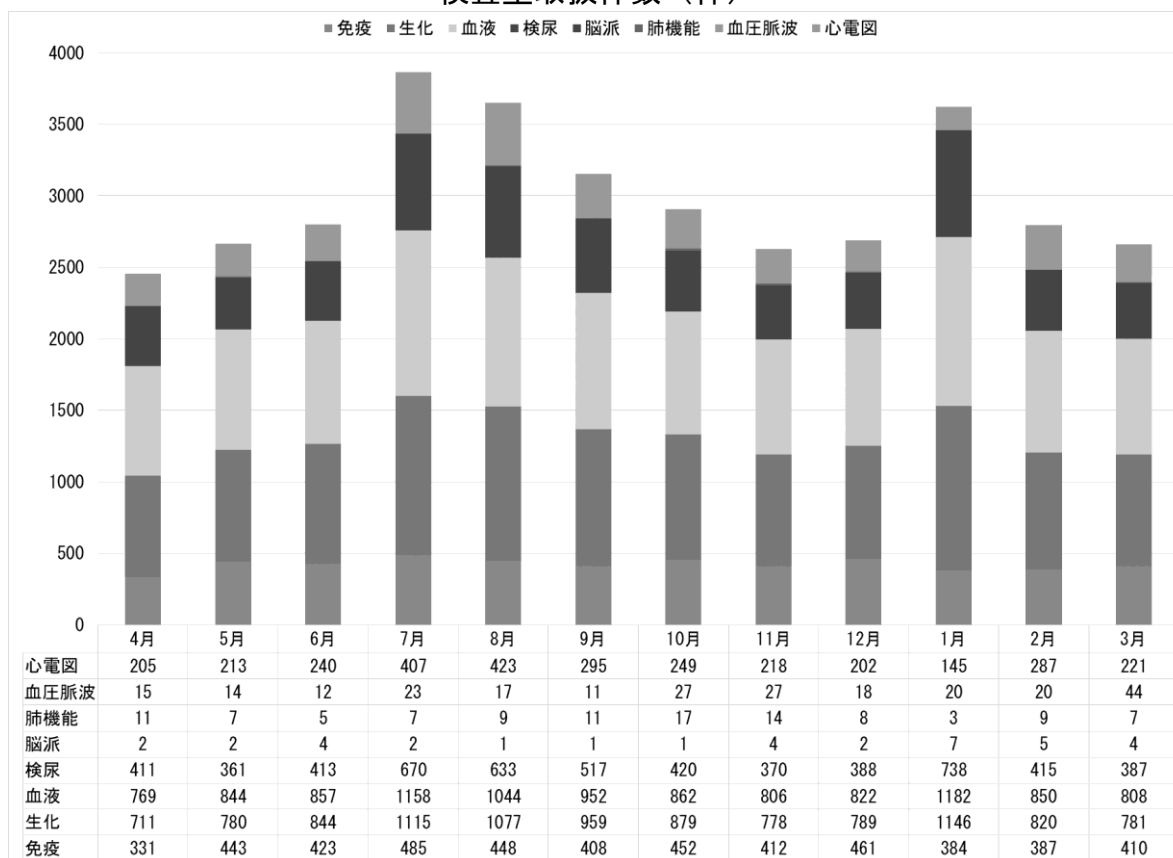


放射線室取扱件数（件）

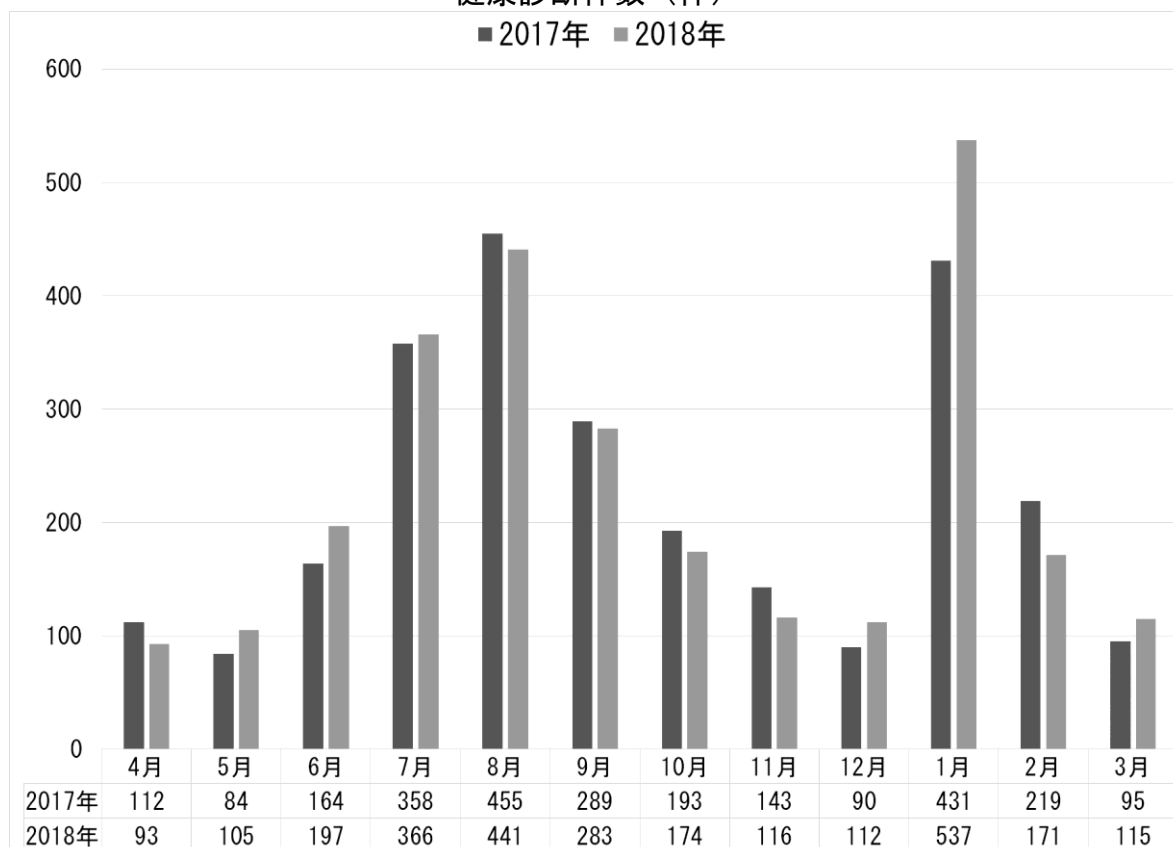
■ 手術業務 ■ 骨密度 ■ MDL（胃透視） ■ VF（嚥下造影） ■ 心臓超音波 ■ 腹部超音波 ■ MRI ■ CT ■ 一般撮影 ■ その他



検査室取扱件数（件）



健康診断件数（件）

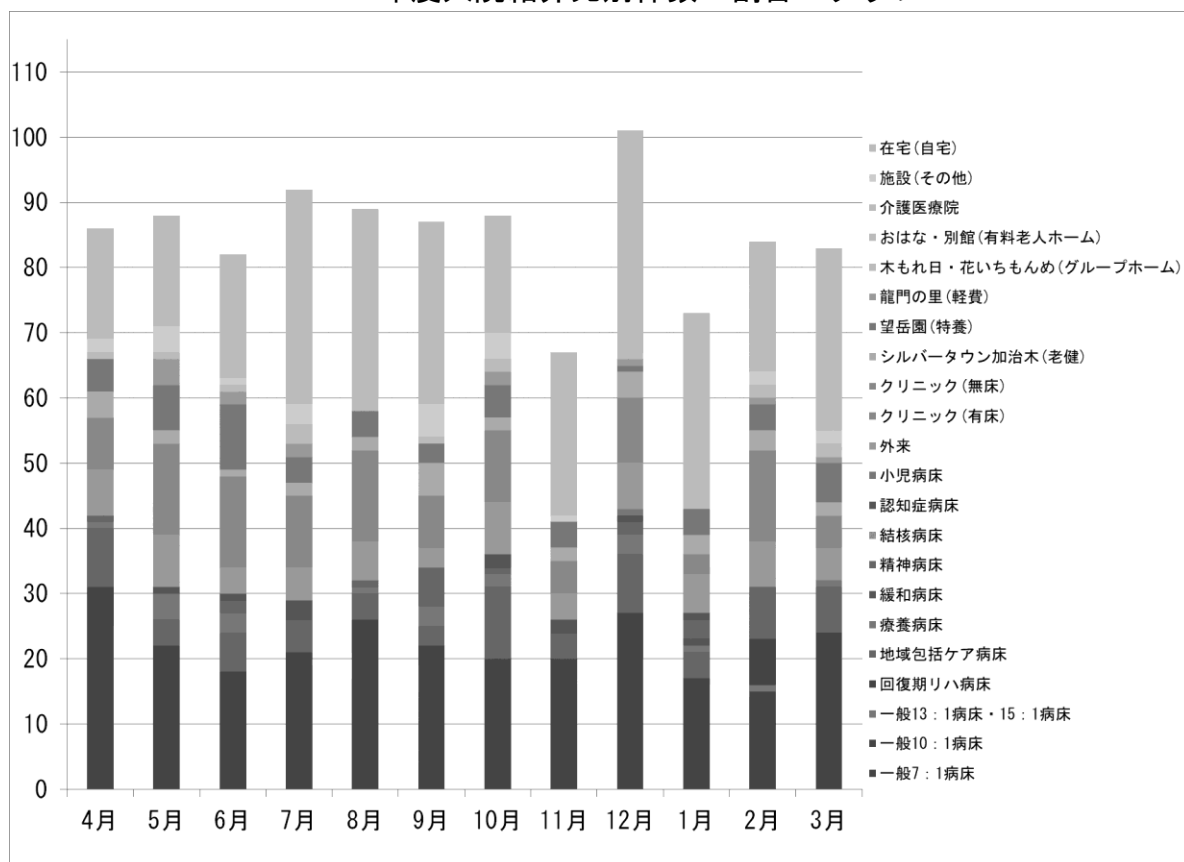


加治木温泉病院 統計

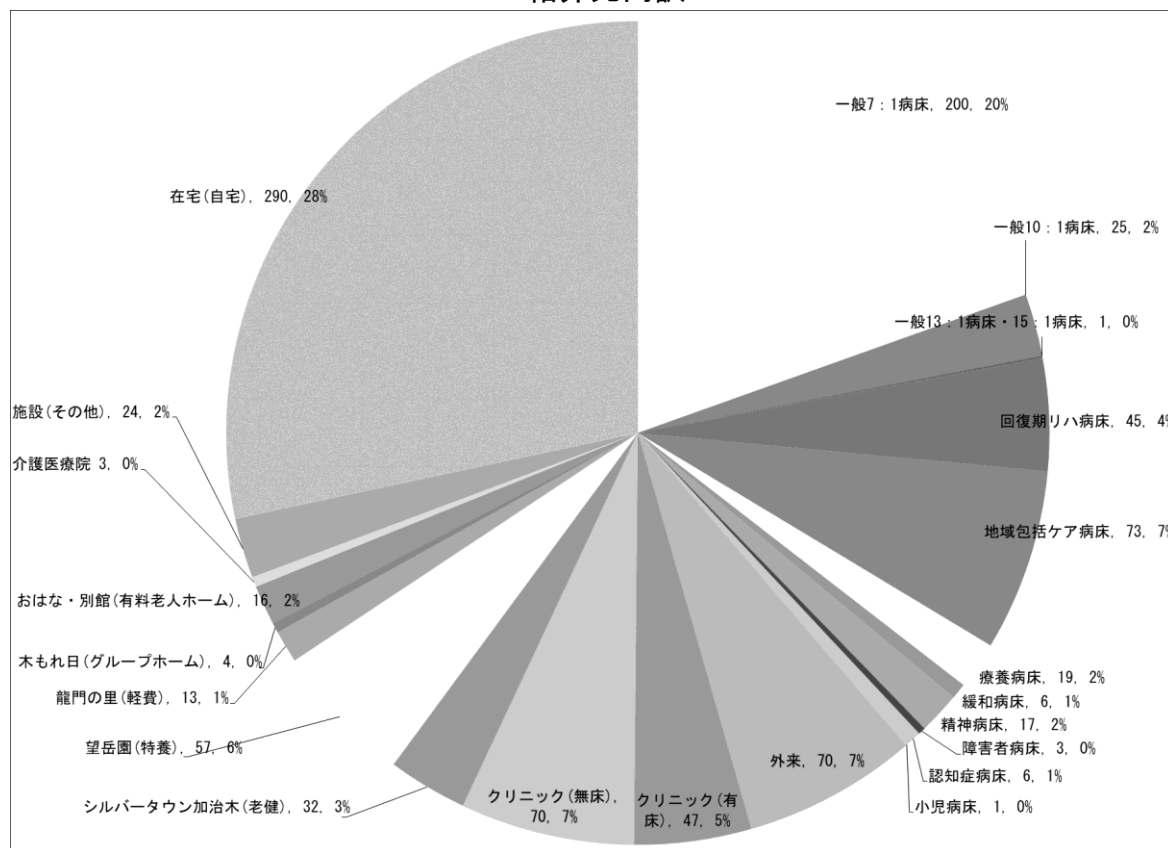
2018 年度 入院紹介元別件数・割合

病床・施設	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月
一般 7:1 病床	22	18	15	19	17	15	17	16	17	12	14	18
一般 10:1 病床	3	0	1	1	4	4	0	1	3	4	1	3
一般 13:1 病床・15:1 病床	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
回復期Ⅱ病床	6	4	2	1	5	3	3	3	7	1	7	3
地域包括Ⅱ病床	9	4	6	5	4	3	11	4	9	4	7	7
療養病床	1	4	3	0	1	3	2	0	3	1	0	1
緩和病床	0	0	0	3	0	0	0	2	0	1	0	0
精神病床	1	0	2	0	1	6	1	0	2	3	1	0
結核病床	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
障害者病床	0	0	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0
認知症病床	0	1	1	0	0	0	2	0	1	1	0	0
小児病床	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0
外来	7	8	4	5	6	3	8	4	7	6	7	5
クリニック(有床)	3	5	5	6	7	1	3	2	2	1	9	3
クリニック(無床)	5	9	9	5	7	7	8	3	8	2	5	2
シルバータウン加治木(老健)	4	2	1	2	2	5	2	2	4	3	3	2
望岳園(特養)	5	7	10	4	4	3	5	4	1	4	4	6
龍門の里(軽費)	0	4	2	2	0	0	2	0	1	0	1	1
木もれ日・花いちもんめ (グループホーム)	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	1	1
おはな・別館 (有料老人ホーム)	1	1	1	3	1	1	2	0	3	2	1	0
とまり木・お福(小規模)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
介護医療院	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1
施設(その他)	2	4	1	3	0	5	4	1	0	0	2	2
在宅(自宅)	17	17	19	33	29	28	18	25	29	27	20	28
合計	86	88	82	92	89	88	88	68	102	73	84	83

2018 年度入院紹介元別件数・割合・グラフ



紹介元内訳



加治木温泉病院 統計

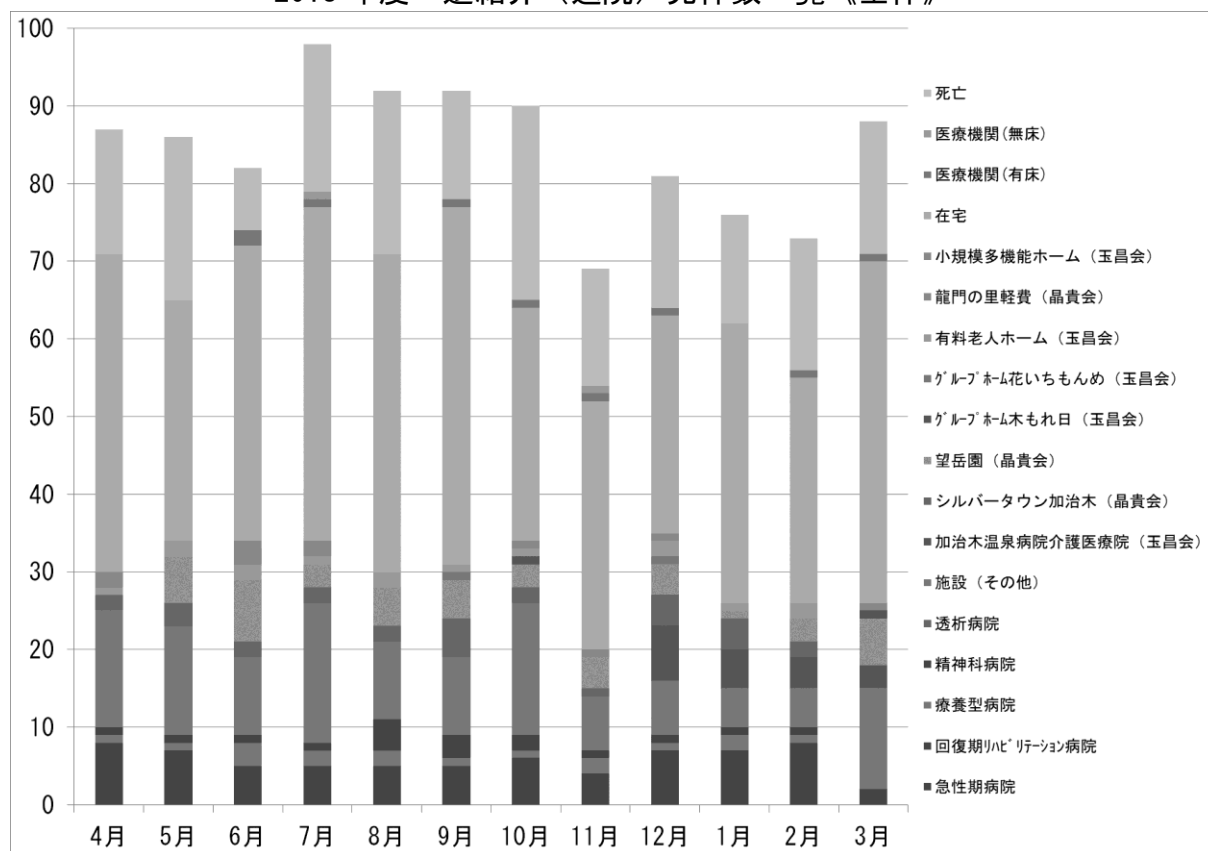
2018 年度 逆紹介先機関別

機関	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
急性期病院	8	7	5	5	5	5	6	4	7	7	8	2	69
回復期 リハビリテーション病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
療養型病院	1	1	3	2	2	1	1	2	1	2	1	0	17
精神科病院	1	1	1	1	4	3	2	1	1	1	1	0	17
透析病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設(その他)	15	14	10	18	10	10	17	7	7	5	5	13	131
加治木温泉病院 介護医療院(玉昌会)	0	0	0	0	0	0	0	0	7	5	4	3	19
シルバータウン加治木 (晶貴会)	2	3	2	2	2	5	2	1	4	4	2	0	29
望岳園(晶貴会)	0	6	8	3	5	5	3	4	4	1	3	6	48
グループホーム 木もれ日(玉昌会)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2
グループホーム 花いちもんめ(玉昌会)	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	2
有料老人ホーム(玉昌会)	1	2	2	1	2	1	1	0	2	1	2	0	15
龍門の里軽費(晶貴会)	2	0	2	2	0	0	1	1	0	0	0	1	9
小規模多機能ホーム (玉昌会)	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
在宅	41	31	38	43	41	46	30	32	28	36	29	44	439
医療機関(有床)	0	0	2	1	0	1	1	1	1	0	1	1	9
医療機関(無床)	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
死亡	16	21	8	19	21	14	25	15	17	14	17	17	204
合 計	87	86	82	98	92	92	90	69	81	76	73	88	1014

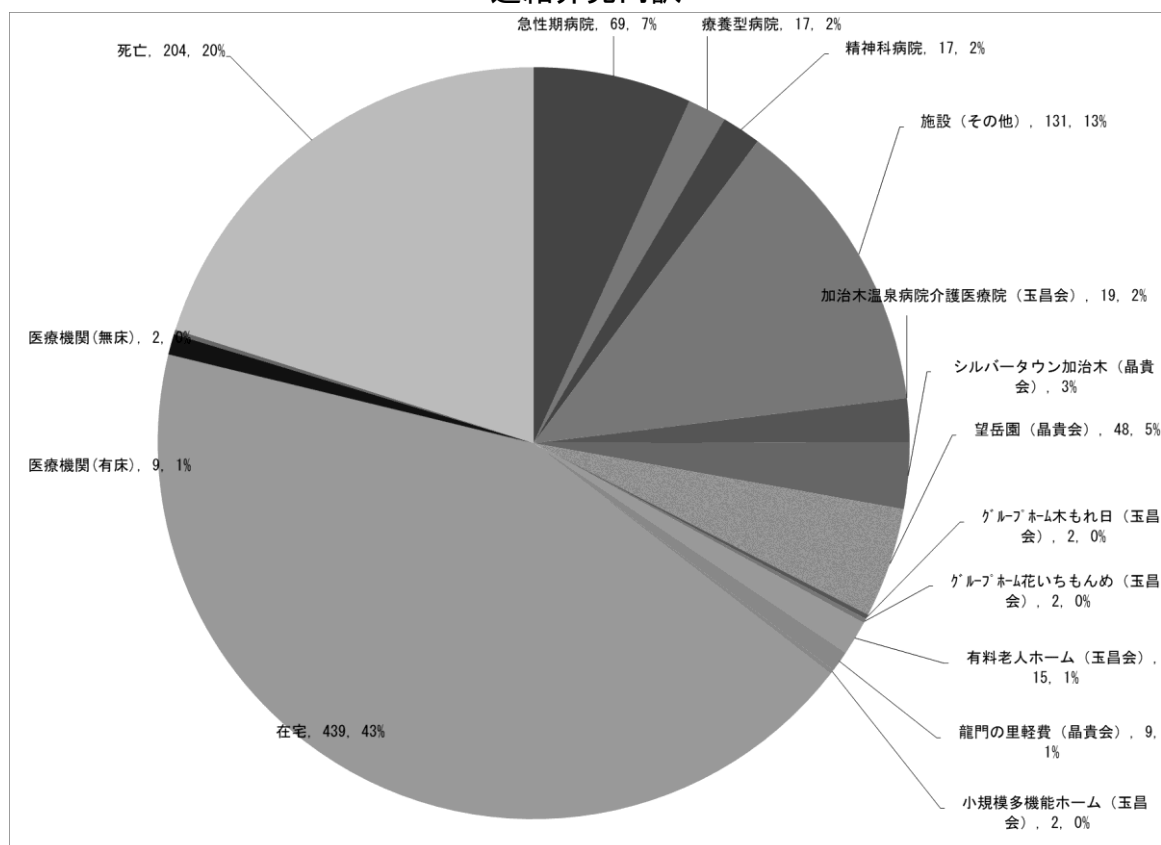
始良市・霧島市・鹿児島市以外医療機関

機関	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合 計
始良市・霧島市・鹿児島市 以外医療機関	2	1	0	1	2	0	0	0	2	3	0	1	12

2018 年度 逆紹介（退院）先件数一覧《全体》



逆紹介先内訳



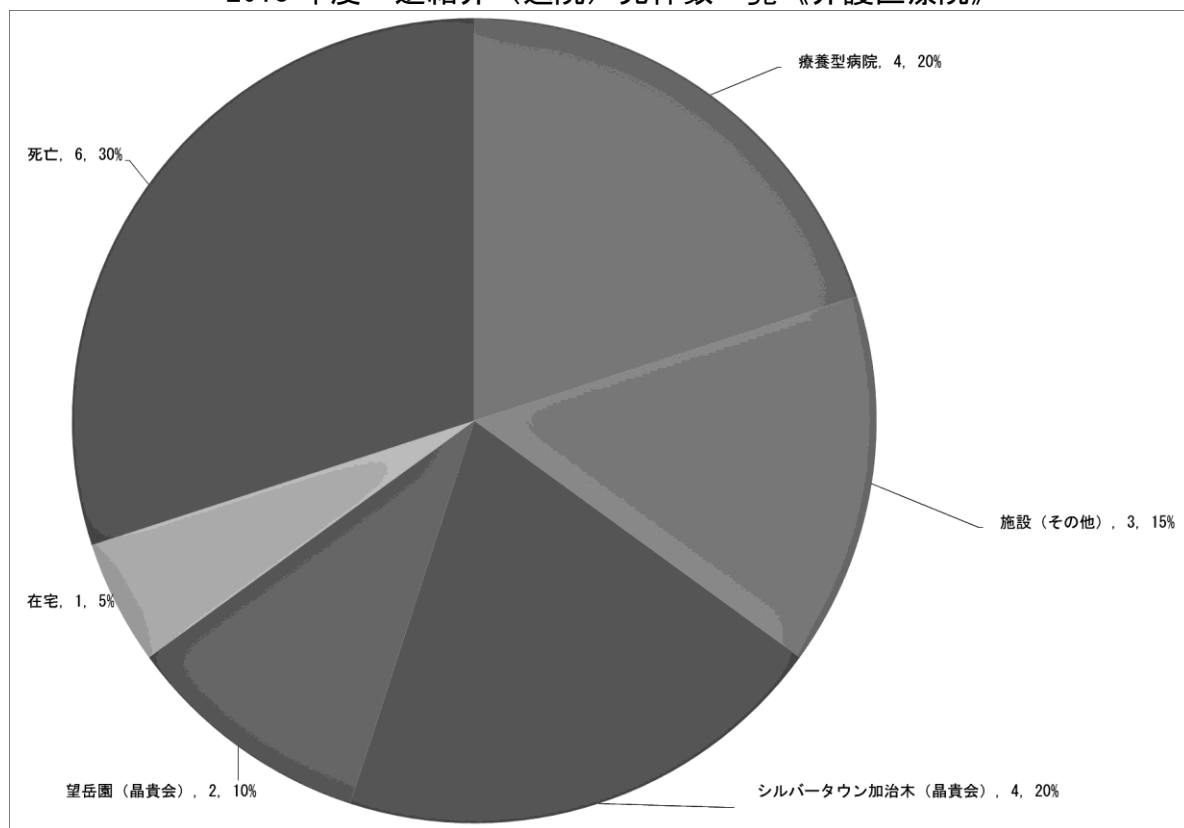
加治木温泉病院 統計

2018 年度 逆紹介先機関別（12 月開設 介護医療院）

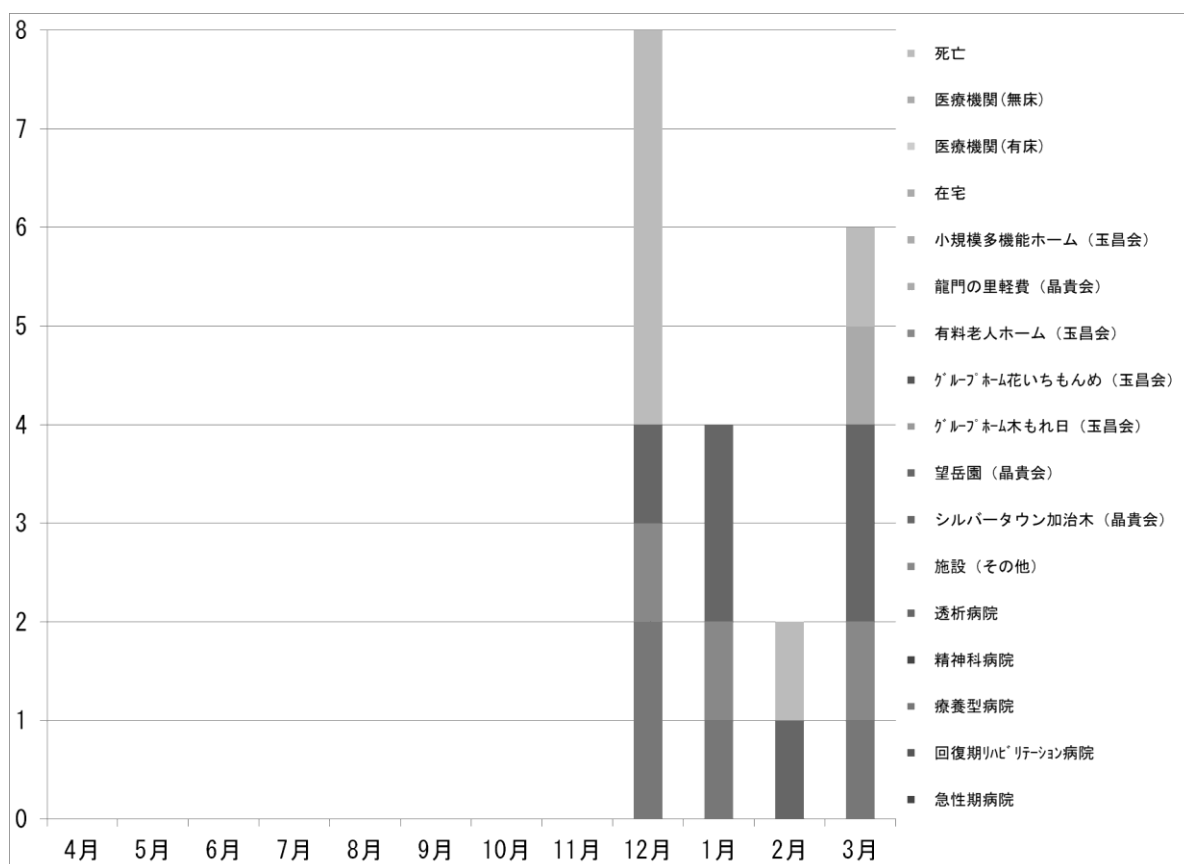
機関	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
急性期病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
回復期 リハビリテーション病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
療養型病院	0	0	0	0	0	0	0	0	2	1	0	1	4
精神科病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
透析病院	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
施設（その他）	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	1	3
シルバーケア加治木 （晶貴会）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	4
望岳園（晶貴会）	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	2
グループホーム 木もれ日（玉昌会）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
グループホーム 花いちもんめ（玉昌会）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
有料老人ホーム（玉昌会）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
龍門の里軽費（晶貴会）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小規模多機能ホーム （玉昌会）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
在宅	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
医療機関（有床）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
医療機関（無床）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
死亡	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	1	1	6
合計	0	0	0	0	0	0	0	0	8	4	2	6	20

始良市・霧島市・鹿児島市以外医療機関													
機関	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
始良市・霧島市・鹿児島市 以外医療機関	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

2018 年度 逆紹介（退院）先件数一覧《介護医療院》

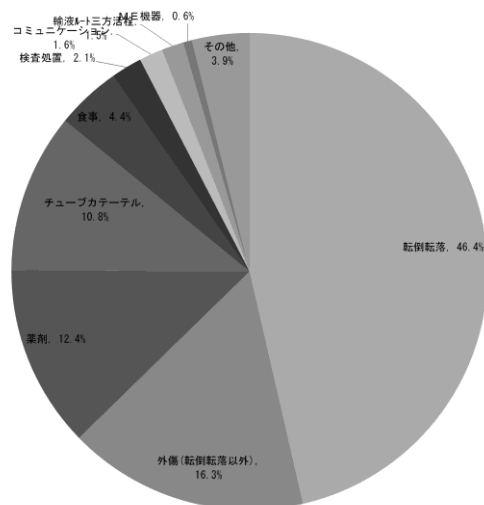


逆紹介先内訳



2018 年度インシデント・アクシデント発生状況

要因名	年計
転倒転落	502
外傷(転倒転落以外)	177
薬剤	134
チューブカテーテル	117
食事	48
検査処置	23
コミュニケーション	17
輸液ルート三方活栓	16
ME 機器	7
その他	42
合 計	1083



影響度レベル別発生件数（月別）

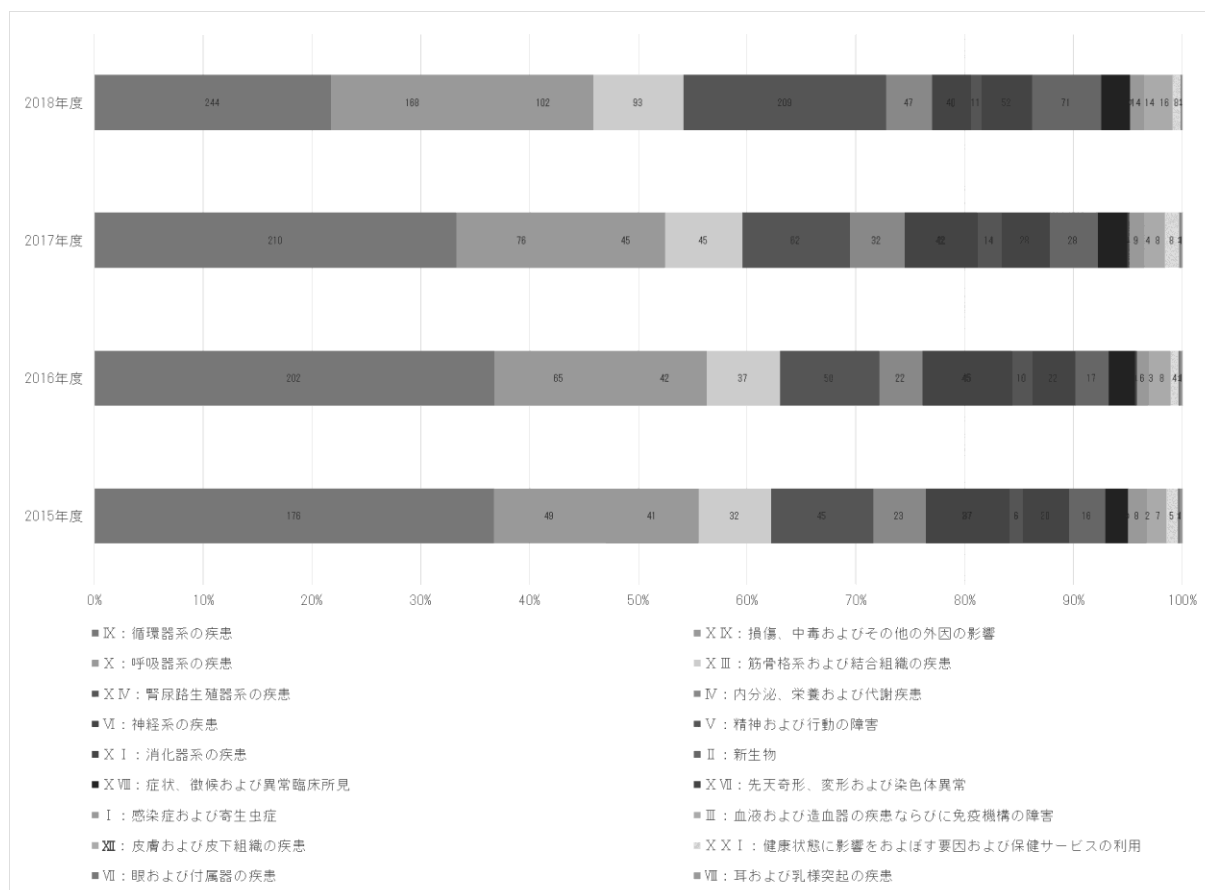
影響度レベル		2018 年											2019 年			年計	平均
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月				
インシデント	0a	4	5	2	7	6	6	1	7	1	4	5	4	52	4.3		
	0b	1		5	1	1	1	2	2		2		1	16	1.3		
	0c	1		1	1	2			1					6	0.5		
	1	16	20	15	16	17	13	9	36	7	6	8	18	181	15.1		
	2a	37	62	58	45	37	40	46	71	33	50	10	51	540	45.0		
	2b	3												3	0.3		
	計	62	87	81	70	63	60	58	117	41	62	23	74	798	66.5		
アクシデント	3a	5	30	26	23	19	24	17	35	12	16	7	22	236	19.7		
	3b		2	1	2	2	2	1	1		2	1	2	16	1.3		
	計	5	32	27	25	21	26	18	36	12	18	8	24	252	21.0		
総 計		67	119	108	95	84	86	76	153	53	80	31	98	1,050	87.5		

職種別発生件数（月別）

職種	2018 年												2019 年			年計	平均
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月					
医師								1					1	0.1			
看護師	43	58	67	53	50	45	46	89	40	41	19	55	606	50.5			
准看護師	7	16	7	6	5	6	9	32	2	14	1	8	113	9.4			
介護福祉士	7	24	13	18	14	15	12	31	7	15	6	26	188	15.7			
ケアワーカー	6	3	12	5	2	4	2	3	1	4		4	46	3.8			
リハ・スタッフ	2	8	6	8	3	8	4	5	1	6	1	4	56	4.7			
薬剤師		1		1		2							4	0.3			
栄養士	2	3	3				1						9	0.8			
調理師				1				2	1			1	5	0.4			
放射線技師					1							1	2	0.2			
事務		1			5	5		2			3		16	1.3			
臨床検査技師						1							1	0.1			
歯科医師													0	0.0			
ME				2		1	2						5	0.4			
心理													0	0.0			
MSW													0	0.0			
その他		2				1							3	0.3			
総 計	67	116	108	94	80	88	76	165	52	80	30	99	1,055	87.9			

疾病別患者数年度別推移（2015 年度～2018 年度）

大分類名	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度
IX：循環器系の疾患	176	202	210	244
XX：損傷、中毒およびその他の外因の影響	49	65	76	168
X：呼吸器系の疾患	41	42	45	102
XIII：筋骨格系および結合組織の疾患	32	37	45	93
XIV：腎尿路生殖器系の疾患	45	50	62	209
IV：内分泌、栄養および代謝疾患	23	22	32	47
VI：神経系の疾患	37	45	42	40
V：精神および行動の障害	6	10	14	11
X I：消化器系の疾患	20	22	28	52
II：新生物	16	17	28	71
XVIII：症状、徴候および異常臨床所見	10	13	17	30
XVII：先天奇形、変形および染色体異常	0	1	1	0
I：感染症および寄生虫症	8	6	9	14
III：血液および造血器の疾患ならびに免疫機構の障害	2	3	4	14
XII：皮膚および皮下組織の疾患	7	8	8	16
XXI：健康状態に影響をおよぼす要因および保健サービスの利用	5	4	8	8
VII：眼および付属器の疾患	1	1	1	1
VIII：耳および乳様突起の疾患	1	1	1	1
総計	479	549	631	1121



加治木温泉病院 部門別活動報告

部門別活動のご紹介にあたって（玉昌会のBSC活動）

医療法人玉昌会では、Balanced Score Card（以下BSCという）を活用した部門別活動を展開しています。

※BSC（Balanced Score Card）＝組織のビジョンや戦略を4つの視点から具体的な目標や行動計画に視覚化し、実践し評価するための手法。

医療法人玉昌会のBSC運用スケジュール

2月：新年度の基本方針（法人・各地区・両院）発表
（合同スタッフ会議にて）



3月：前記方針に基づいた部門基本方針の立案



3月：具体的部署目標の設定並びに目標を達成するための具体的な施策内容と実施スケジュールの立案



4月：BSC事務局によるヒアリング、提出（PLAN）



4月～3月：施策の実施（DO）



9月、3月：結果とその評価（CHECK）



9月：BSCの修正（ACTION）



BSCの立案においては次の4つの視点区分がポイントとなります。

- A. 患者満足の視点
- B. 健全経営の視点
- C. 医療の質向上の視点
- D. 学習と成長の視点

この4つの視点区分にもとづいて、各部署で立案されたものです。

2 階南病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 接遇の向上

達成目標：苦情 1 件以下

（病棟、個人を対象とした、コミュニケーションシートに挙げないといけない苦情）

B-1. 褥瘡対策の強化

達成目標：褥瘡発生率 5 % 以下

C-1. 患者移乗時のアクシデント削減

達成目標：アクシデント 30 件以下（皮膚剥離含む）

D-1. 専門性の向上による自己実現

達成目標：個人目標を達成できたスタッフが 70 % 以上。

【今年度を振り返って】

2018 年度は、患者・家族は勿論のこと、他職種に対しても尊厳や敬意を持った対応を心掛け、日々のコミュニケーション大切に、業務に取り組む事が出来た。また、腰痛による体調不良が 34.4 % と多く、2019 年は「健康経営宣言」に則り、健康や安全を意識した職場作りに取り組んでいきたい。2019 年も、引き続きチームワークを高め、患者・家族に寄り添い患者様を尊重し、看護・ケアの質向上に努めていきたい。

2 階西病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 接遇の向上

① 達成目標：他者評価を行い、他者評価で良いの項目が 90 %

② 達成目標：満足度調査における接遇面に関する項目で満足が 90 % 以上。

B-1. チームで在宅復帰への取り組み

① 達成目標：毎週水曜日集団レクリエーション（みんトレ）を実施。対象者平均 7 名、実施率 95 % 以上。

② 達成目標：POC を実施。毎週金曜日症例カンファレンス、ラウンドを実施し、情報共有を行い、POC 介入者の FIM は平均 5 点上昇する。

C-1. 患者移乗時のアクシデント削除

達成目標：移乗に伴い発生した表皮剥離アクシデント事例：5 件以下

D-1. 専門性の向上

① 達成目標：オンデマンド研修会視聴率 100 %。報告書提出率：90 %

② 達成目標：委員会や等級に応じた院外研修会の参加率：看護師 75 % 介護士 40 %

【今年度を振り返って】

接遇に関しては、1 人 1 人の接遇に対する意識を高め、丁寧な対応や気配りに努めた。在宅復帰を目標に、患者・家族へ個人にあった看護を提供・支援し、精神賦活化・自助・互助の手助けとして集団レクリエーションも継続的に実施した。

また、看護業務では腹膜透析看護・術前術後の看護が増え、看護師それぞれが学びとなり、スキルアップに繋がった。

2 階東病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 接遇の向上

達成目標：接遇に関する苦情は 1 件以下

B-1. チーム医療・介護への取り組みの強化

達成目標：研修も元実践を行い、緊急離脱方法を取得する。（100 %）

C-1. 患者移乗時のアクシデント削減

加治木温泉病院 部門別活動報告

達成目標：皮膚剥離件数 10 件以下

D-1. 専門性の向上による自己実現

達成目標：目標としている研修受講や、資格取得、実践レベルでの成果を出すなど個人目標達成（70%以上）

【今年度を振り返って】

腹膜透析の緊急離脱に対しての手技をスタッフが一丸となって学び、安全な看護を提供した。また、日本慢性期医療学会でアロマをテーマに部署での取り組みを発表した。次年度も行動指針を念頭に置きながら安心・安全な看護・介護を提供致します。

3 階南病棟

【今年度の取り組み】

A-1. プライマリーの確立

達成目標：プライマリーの関わりが増えることで、クレーム件数1件以下とする。プライマリーの関わり
の評価として、満足度調査での受け持ち看護師認知度80%、受け持ちケアワーカー認知度45%以上を目指す。

B-1. FIM 利得向上

達成目標：ワンアップケアを継続しFIM利得37以上を目指す。

C-1. 患者移乗時のアクシデント削減

達成目標：機械浴入浴介、スキンケア、更衣についての勉強会を行い、勉強会で習得したことを実行し、
移乗に関するアクシデントを4件以内に作る。

D-1. 専門性の向上による自己実現

達成目標：学びたい研修内容を記載する研修参加のリストとオンデマンドの視聴の年間一覧表を作成し、
各個人の目標を設定する。各個人が院外研修1件以上・オンデマンド視聴4件以上の目標設定
を100%達成する。

【今年度を振り返って】

平成30年度は付加機能評価の受審があり、マニュアルの整備や業務の見直しを行ったり、受診時の模擬カンファレンスにむけてカンファレンスのあり方を話し合う機会を多くもった。12月には付加機能評価受審をし、全体としては良い評価を頂いている。結果の報告を持って再検討事項については、今後の課題としてチームで話し合っていきたいと考えている。

平成30年度は、診療報酬改定によりリハビリの成果をより重視する流れとなり、重症度改善率やFIMアウトカムの基準達成のために、これまで以上に多職種連携を図り患者一人一人の目標達成や身体機能の向上に努めなければならなくなった。生活リハに重点を置き、リハビリ室でのリハビリを生活の中に落とし込み、退院後の生活に目を向けたかわりを行っていった。昨年度開始したワンアップケアの継続や、イブニングリハもこれらに対する取り組みであり、今後一層重視すべき事だと考えている。

今年度は、整形外科の川路医師の入職に伴い整形疾患の患者が多くなってきている。患者層の変化に伴う回復期1の基準維持への対応を多職種で検討するとともに、整形疾患患者の看護についても学びを深める必要があり、来年度の課題となっている。

来年度も変化する状況にチームの力で対応し、更なるよりよい回復期病棟を目指して行きたい。

3 階西病棟

【今年度の取り組み】

A-1. 接遇の向上

達成目標：満足度調査・院内アンケートで接遇に関する年間の苦情・指摘件数が年間3件以下

B-1. チーム医療・介護への取り組みの強化

達成目標：行動計画作成し、ADL維持向上し、退院支援に結びつけることが出来る。

C-1. 患者移乗時のアクシデント削減

達成目標：スマイルシート活用の定着。スキンテア発生件数が10件以下

D-1. 専門性の向上による自己実現

達成目標：1回／年以上の院外研修に参加し病棟内にて伝達講習を行い伝達共有が出来、研修報告書提出率50%以上

【今年度を振り返って】

現状の病棟にて入退院や看取りなど行っている。患者の層も変化してきていることも有り、家族対応について考えさせられる時期でもあった。各個人のスキルを上げるために研修会参加後は病棟にてフィードバックを開催するなど積極的に声かけをして開催していく。

退院支援は行っているが、看護計画や支援の統一化が行えておらず、発信が周知されていないことが反省となる。中途入職者の看護師受け入れ病棟となっていることから、病院に根付いた看護師が一人でも増えていけるように職員一人一人がスキルアップ指導・教育していけるように支援していきたい。

介護医療院

【今年度の取り組み】

A-1. 接遇の向上

達成目標：満足度調査による接遇に関する指摘事項10件以下。

B-1. チーム医療・介護への取り組みの強化

達成目標：転帰先決定80%維持・決定出来る。

C-1. 患者移乗時のアクシデントの削減

達成目標：月2回の移乗指導が出来る。移乗に伴うアクシデント1件以下。

D-1. 専門性の向上による自己実現

達成目標：個人目標のオンデマンド視聴が、看護師60%、介護士30%。

【今年度を振り返って】

12月より介護医療院へ転換し、療養環境の変化や確実な書類の流れ、家族説明を行い健全経営に努めてきました。家族・療養者様へ安心・安楽に療養出来る様、また住まいとしての環境調整、介護医療院としての特色を生かし、地域社会とのつながりを大切にしていきたい。

外来

【今年度の取り組み】

A-1. 接遇の向上

達成目標：満足度調査での指摘件数0件の維持

B-1. チーム医療・介護への取り組みの強化

達成目標：救急対応シュミレーション研修を3回実施し、各研修においてスタッフの80%が受講する。

C-1. 患者移乗時のアクシデント削減

達成目標：移乗に関するインシデント・アクシデント事例0件の維持

D-1. 専門性の向上

達成目標：研修会に参加したスタッフが1回以上、他スタッフに向けた報告会を実施する

【今年度を振り返って】

接遇に関しては、患者様・ご家族よりお褒めや感謝の言葉を頂くこともあったが、配慮が至らなくご意見をいただくこともあった。前年度と比較すると、手術件数も増えてきている。今年度も、安全面に十分に配慮し、引き続き質の高い看護・介護が提供できるように自己研鑽に努めていきたい。また、基本理念・行動指針を念頭に患者様の尊厳や権利を尊重したあたたかい看護の提供とチームワーク・職場環境の充実に努めていきたいと思う。

人工腎臓センター

【今年度の取り組み】

A-1. 基本行動の徹底

達成目標：満足度調査にて「悩みや相談に対する対応」「説明のわかりやすさ」「言葉遣いや身だしなみ」の項目の「悪い」の評価を2件以下にする。また、年度末までには0件にする。

B-1. シヤント管理

達成目標：穿刺トラブルの現状（件数）を把握後、部署内での勉強会を2回実施する。また、上期で出した穿刺トラブルの件数から3割減少させることができる。

C-1. 安全な移乗技術の習得

達成目標：安全な移乗の方法とスライディングシートの使用方法についてスタッフ全員（14名）習得する。また、透析室での皮膚損傷0件の維持。

D-1. 個々のキャリアアップ

達成目標：自身のラダーを理解し、個人目標を達成する為の取り組みが出来ているスタッフが70%以上いる。（管理者にて進捗状況を確認。透析分野の専門性を高める研修受講も勧めていく）また、下期で個人目標達成したスタッフが60%以上（4名以上）となる。

【今年度を振り返って】

腎不全外科開設後、血液透析の患者様だけではなく、腹膜透析に血液透析を併用するハイブリッド透析の患者様が増え、透析用のカテーテル挿入や新規透析導入の方も昨年度に比べ件数が増えました。年々、重症度の高い透析患者様が增加する中、スタッフのスキルアップもますます求められています。

今後も、質の高い医療・看護を提供できるようスタッフ一同頑張っていきたいと思います。

臨床工学室

【今年度の取り組み】

A-1. 患者満足度の向上

達成目標：外来透析患者様の満足度調査のMEに対する意見・苦情を0件にする。

B-1. I-HDF、on-line HDF施行患者の増加

達成目標：当院透析患者の87%に対し、I-HDFもしくはon-line HDFを施行する。

C-1. 医療事故、医療過誤の防止

達成目標：透析機器、ME機器に関するインシデント・アクシデントを0件にする。

D-1. シヤントPTAへの対応

達成目標：シヤントPTAの直接介助に従事できる臨床工学技士を5名体制にする。

D-2. 学会発表

達成目標：日本透析医学会学術集会総会、九州人工透析研究会総会にて演題発表を行う。

【今年度を振り返って】

シヤントPTAだけでなく下肢動脈EVTも開始しリスクの高い治療に技士が加わるようになった為、より高い知識と技術が求められるようになった。また人工呼吸器装着患者も増加しており、臨床工学技士に求められる役割・責任が大きく変わってきていると感じる。今後とも患者へ安心・安全な医療を提供する為、また病棟のスタッフが不安なく勤務できる様安全対策を講じていく。

総合リハビリテーションセンター

【今年度の取り組み】

A-1. 地域ケア会議のケースの内容に合わせた人選を行い適切な指導のできる人材を派遣する。

達成目標：新たにモデル事業を開始する包括支援センターと十分に連携し引き続き地域ケア会議に人材を派遣するシステムを作り適切な人材を派遣する。

A-2. 総合事業における住民主体の通いの場づくりに協力する

達成目標：行政や社協、住民に企画提案を行う。実際に一地域において住民主体の場での介護予防のための通いの場づくりを実施する。

B-1. 年平均18.5単位以上の訓練を提供する

達成目標：スタッフ数及び患者数の確認を行いながらスタッフへの定期的な実績と目標を伝達し、毎月18.5算定する。

B-2. 機能評価付加機能の受審に向け準備を行い確実に再認定を受ける。

達成目標：機能評価委員会を中心にマニュアルの整備、環境整備を行い受診に備える。また、準備を丁寧に言い再認定を受ける。

C-1. 促通反復療法（川平法）をPT、OT全員習得する。

達成目標：研修を受けたメンバーを中心にチームを作り、8名程度ずつのグループ分けし1年で習得できる計画を立て実施する。そしてPT・OTの8割以上が受講する。

C-2. 各部門1演題以上発表する（院内・院外）。

達成目標：発表に向けての計画・発表に取り組む。

D-1. 最新情報カンファレンスを含み各部門月3回以上の学習の機会が持てるように計画を立て実践する。

達成目標：最新情報カンファレンスを含み月3回以上の学習の機会が持てるように計画を立て実践する。

D-2. 小児ST、OT、PTの外来リハがスタートできる。

達成目標：小児リハチームを作り研修に行く。そして小児外来リハをスタートする。

【今年度を振り返って】

今年度の初めて取り組んだ活動として、小児外来リハビリテーション（以下、小児リハと略す）がある。2017年度より小児ST外来は開始していたが、小児ST外来を実施する中でSTだけでなく、小児OT、PTの供給不足が近隣地域の課題として明らかになってきた。そこで、当法人の「地域共生社会への貢献」というビジョンに沿う形で、子ども・子育てへの関わりを進めることを目標に小児リハ外来の準備を開始した。小児リハチームを2017年度末にメンバー募集し、PT、OT、STそれぞれ3名ずつでチームを作った。さらに2018年7月から12月まで外部の小児リハビリテーション施設で研修を受けた。小児OTは同年10月からスタートしほどなくPTも開始した。同年10月には、特に発達障害領域を専門とする小児科医師が2回／月勤務していただけるようになりさらに治療の質が向上している。2018年度は市の行政各課にもご挨拶に行き連携を始めた。さらに2019年度より始良市、霧島市の小児相談事業・他への委託事業も開始される。また、近隣の療育施設との連携方法について地域の療育事業所との話し合いを始めている。今後、当院リハビリテーションセンターが医療機関としてこの地域でどのように地域に貢献できるか各関連機関とともに検討していきたい。

総合リハビリテーションセンター 理学療法部門

【今年度の取り組み】

A-1. 地域ケア会議の参加 地域ケア会議参加依頼に対応できるように準備して確実に派遣する

達成目標：POS協議会「地域包括ケア推進リーダー」「介護予防推進リーダー」の資格取得者を増やす。

A-2. 地域住民主体の通いの場づくりへの協力 総合事業における住民主体の通いの場づくりに協力する

達成目標：新たな地域において住民主体の場での介護予防のための通いの場を1ヵ所以上作る。

B-1. 部門疾患別リハ単位数の向上 18.5単位取得を達成する

達成目標：新人の単位算定を計画的に取得していくこととデータ分析してスタッフへの定期的な実績と目標を伝達し確実な算定に取り組む。

B-2. 機能評価リハ付加機能の受審に向け準備を行い確実に再認定を受ける

達成目標：H30年度下期に病院機能評価リハ付加機能受審があり認定更新を目指す。

C-1. 促通反復療法を習得して提供していく

達成目標：PTスタッフ80%以上の習得

C-2. 院内および院外にて1演題以上の学会発表を行う

達成目標：全国学会で1演題以上の発表を行う。

D-1. 最新情報カンファレンスを含み各部門月3回以上の学習の機会が持てるように計画を立て実践する

達成目標：最新情報カンファレンスを含み月3回以上の学習の機会が持てるように計画を立て実践する

D-2. 小児リハを提供していく体制を作っていく

達成目標：小児リハに対応可能なリハスタッフを増員し、外来小児PTに対応する。

【今年度を振り返って】

平成30年度は全体を通して目標を達成出来たと思われる。特に機能評価リハ付加機能受審ではPT部門の評価項目は全てA判定となった。また、PT小児リハ部門を立ち上げ、研修期間を経て年度内で小児リハを開始する事が出来た。

今後も職員がよりよい環境で仕事が行えるように取り組んでいきたい。

総合リハビリテーションセンター 作業療法部門

【今年度の取り組み】

A-1. 地域ケア会議へケース内容に合わせた人選を行い、適切な指導の出来る人材を派遣する。

達成目標：地域での連携を行う人材を育成する鹿児島県PT・OT・ST連絡協議会主催の研修会参加の告知・勧誘をOTミーティングで行ったり、研修会情報を告知したりする。『生活行為向上マネジメント基礎研修』修了者または『地域包括ケア会議推進リーダー』研修修了者を1名以上輩出する。

A-2. 総合事業における住民主体の通いの場づくりに協力する。

達成目標：『住民主体の通いの場』へ前年度技術支援した3名に加え、新規1名以上を派遣する。

B-1. 年平均18.5単位以上の訓練を提供する。

達成目標：年平均18.5単位以上の訓練を提供する。（新人・時短勤務者は除く）

B-2. 病院機能評価リハ付加機能の受審に向け準備を行い、確実に再認定を受ける。

達成目標：機能評価委員会を中心にOT部門全員でマニュアル整備、環境整備を実施。改善案を実行し、リハ付加機能の再認定を受ける。

C-1. 促通反復療法（川平法）をOT全員が習得する

達成目標：OT全員が60分間×8回の実技伝達を受講し、基礎的な実技を習得する。

C-2. 1演題以上を発表する（院内もしくは院外）

達成目標：各グループでの研究は継続し、学会発表者、どの学会へエントリーするかを具体的に決定する。個人の発表も推進していき、研修院内または院外への学会発表を1演題以上行う。

D-1. 最新情報カンファレンスを含み、各部門月3回以上の学習の機会がもてるように計画を立て実践する。

達成目標：OT教育部を中心に年間計画を立案し、月3回のペースで症例検討会を実施していく。

D-2. 小児OTの外来リハがスタート出来る。

達成目標：PT・OT・ST小児リハチームを編成し、1名以上小児施設での研修を受講し、外来リハ開始に備える。外来でのOT小児リハを開始する。

【今年度を振り返って】

平成30年度は、評点においては2.8であったが、質的には充実していた。地域に貢献する取り組みについても、盛んに行われた。地域包括ケア会議推進リーダー研修や介護予防推進リーダー研修への積極的な参加や、住民主体の場へ新スタッフの参加、研修・見学を経た後でのOT小児外来リハ開始など、OT一人一人が目的をもった活動が表れてきた。学会発表をグループ研究の成果により2件もの学会発表を行うことができた。今の流れを止めることなく、更に勢いよく挑んでいけるように、OTの地盤を固めていきたい。総合リハビリテーションセンターとしての目標は共有しながら、それぞれのOTが柔軟な姿勢でやりがいをもって働けるような職場の環境づくりに努めていきたい。

総合リハビリテーションセンター 言語聴覚療法部門

【今年度の取り組み】

- A-1. 地域包括支援センターの依頼において、S Tの適任者を確実に派遣する。
達成目標：地域包括支援センターの依頼に応じてS Tの適任者を1名以上派遣する。
- A-2. S T関連内容の地域住民向け・専門職への技術支援を1回開催する。
達成目標：行政・住民と内容を企画し、1回以上連携企画を実施する。
- B-1. 年平均18.5単位以上のリハ実施目標を達成する。
達成目標：年平均18.5単位以上のリハ実績目標を達成する。
- B-2. 機能評価付加機能の受審に向け準備を行い、確実に再認定を受ける。
達成目標：2.3.1～4（S T領域）は、全て「A」評価以上の認定を受ける。
- C-1. 院内・外での研究発表を2回以上行う。
達成目標：院内外での発表・論文投稿を3回以上行う。
- C-2. 家族勉強会の内容をさらに充実させ、確実に参加者の増加につなげる。
達成目標：年間の家族勉強会の参加者数が、昨年度を上回る。
- D-1. かずみ保育園での小児S Tの取り組みを軌道に乗せて、ことばの教室を定期開催する。
達成目標：ことばの教室を計6回以上開催する（そのためには、中堅S Tの育成が必要）。
- D-2. リハセンター内喀痰吸引研修プログラムを実行する。
達成目標：S T計4名以上、喀痰吸引のスキルを習得する。

【今年度を振り返って】

今年度は、小児リハ外来部門の拡充が順調に進んだ一年であった。2ヵ月に1回のペースでかずみ保育園へ言語聴覚士を派遣して「ことばの教室」を開催し、言語発達に関する専門的な支援を行った。発達が気になる園児がいたときは、小児リハ外来へつなげた。また10月には作業療法、1月には理学療法の小児リハ外来を始めることができた。この取り組みは、今後もさらに拡充していく予定であり、始良市・霧島市の企画への参画も計画している。来年度の注目のトピックは、「働き方改革」である。これは「働き方」自体を変えるのはもちろんだが、最も重要なのは働く「意識」を変容することであると考えている。スタッフが「働きたい」と思うことができる職場環境を目指しつつ、来年度も確実にB S C目標を達成していきたい。

栄養室

【今年度の取り組み】

- A-1. 食事満足度の向上
達成目標：下期の嗜好調査の「満足」を65%以上にする。
- B-1. 栄養指導件数の確保
達成目標：年間月平均85件以上栄養指導を実施する。
- C-1. 栄養サポートチーム加算取得の継続
達成目標：年間の介入件数を265件以上にする。
- C-2. 学会分類コードに応じた食事の提供
達成目標：マニュアルを作成し、それに基づいた食事提供を行う。
- D-1. 保健指導業務の整備
達成目標：新規対象者への保健指導を5回以上実施する。

【今年度を振り返って】

本年度は人員の変動があり、少ない管理栄養士での体制ではあったが、多職種の協力もありN S T介入件数は目標を達成することが出来た。来年度は積極的に院外研修会に参加しスキルアップに努め、患者様の栄養状態改善に繋がる支援が出来るよう取り組んでいきたい。

通所リハビリテーション

【今年度の取り組み】

- A-1. 利用者満足度の向上
達成目標：通所リハ全般の満足度満足・非常に満足 74%
- B-1. 平成30年度介護報酬改定への対応
達成目標：情報収集やそれに応じた対策の検討や実施。
- C-1. 離職者の減少
達成目標：人員・比率の現状維持、介護福祉士比率 50%以上
- C-2. リスク管理の徹底
達成目標：インシデント件数 2 件/月
- D-1. 介護保険制度の理解の促進
達成目標：部署内勉強会実施（10回/年）

【今年度を振り返って】

入院が多く、体調不良・私用など利用休みが多く稼働率が低かった。リスク管理においては、送迎時の転倒事故などアクシデント発生した。職員間での情報共有や対策検討を十分に行う必要がある。全体として自己啓発に向けた取り組みが不十分であり、職員のスキルアップを図っていきたい。

薬局

【今年度の取り組み】

- A-1. 治験への協力
達成目標：薬局スタッフ全員が治験の流れを理解し、治験薬の保管・管理・払い出しなど、薬剤の取り扱いについて確立する。また、治験コーディネーターや各部署と連携を図り、治験が滞りなく行えるように、治験終了まで協力体制を維持する。
- B-1. 薬剤・医療材料の納入価の見直し
達成目標：卸各社に薬剤・医療材料の再見積もりを依頼し、納入価の見直しを図る。
- C-1. 新人の育成
達成目標：新人薬剤師が窓口業務および病棟カンファレンスへの参加ができるようになる。新人助手については調剤業務、注射業務、発注業務ができるようになる。
- C-2. 病院機能評価 付加機能のための準備
達成目標：更ケアプロセスなどの準備を分担して行い、受審までに備え、受審後には指摘事項を次回にフィードバックできるよう早期対策を図る。
- D-1. 常勤薬剤師全員が薬剤師生涯研修認定を更新する
達成目標：各種研修会へ通年参加し、薬剤師生涯研修認定を更新する
- D-2. 薬局勉強会の実施
達成目標：薬局勉強会を月1～2回継続して行う。

【今年度を振り返って】

今年度は新たな取り組みとして、患者の食形態・嚥下状態に応じた薬剤の選択を、薬局が主導的に行った。粉碎不可の薬剤を電子カルテで閲覧できるようにし、これまで病棟で行っていた粉碎業務について薬局で行うようになったため、看護師の業務負担の軽減にも貢献できたのではないと思われる。来年度は新卒の薬剤師が2名入職し、また、7月に1名育児休暇より復帰する予定であるため、これまで薬剤師不足により十分行えていなかった病棟業務に時間を充てることができるとと思われる。ポリファーマシーについても今後改善していきたいため、新人薬剤師の指導・育成に努めることで職場環境を整え、これまでできなかった業務に積極的に取り組みたいと考える。

放射線室

【今年度の取り組み】

A-1. アクシデント削減

達成目標：新たに技師3名入職。当院の医療事故防止取り組みの確認・指導を行い、アクシデントを2件以下にする。

C-1. 業務体制の見直し

達成目標：技師3名の入職や出向・宿直待機が始まり、勤務体制や業務の見直しを行いマニュアルの改訂を行う。

D-1. 医療の質の向上

達成目標：超電導MRIや四肢CTなど今までなかった検査が増え、技師も増えたことから自発的な研修会への参加を促し、フィードバックを行う。

【今年度を振り返って】

宿直開始による24時間対応、それに伴う技師の増員や新たに出向の取り組み等で勤務体制や業務体制を見直すことになった。検査件数も昨年を上回り、検査内容も更に多様化して幅広い知識や技術を求められるようになっていく。業務体制や検査手順を改善しながら今後も質の高い画像を提供できるよう取り組んでいく。

検査室

【今年度の取り組み】

A-1. より安全、質の高い検査の提供

達成目標：内部精度管理及び外部精度管理ともに±2SD内の測定値を目標とする。

B-1. 院内・院外の研修充実

達成目標：80%以上の参加

C-1. 心エコー検査業務の質の向上

達成目標：勉強会・研修会への参加

【今年度を振り返って】

内部精度管理は日常のメンテナンスの実施と適切な試薬管理により、良好な結果維持に繋がった。外部精度管理では、結果値としては問題ないが4項目の見直しが必要と感じた。

昨年度より、放射線室と協力して心エコー検査業務・下肢エコー検査業務を始めており、今年度も継続して、心エコー検査・下肢エコー検査に取り組み、個々のスキルアップに繋がる様質の向上に努める。

臨床心理室

【今年度の取り組み】

A-1. 医療の質向上

達成目標：集団訓練「みんなトレ」の参加率向上。

C-1. メンタルヘルス活動の充実

達成目標：ストレスチェックの受検率85%以上。

D-1. 医療の質向上

達成目標：1ヵ月に4回院内研修会に参加する。

【今年度を振り返って】

今年度の上半期は育児休暇のため人員が一人少ない状況だったが、協力しあい業務を行うことができた。下半期は4人体制で業務分担も行え、小児リハビリに関連する業務など、新規業務への取り組みも行えた。今後も、患者様・ご家族様へより良い支援を提供できるよう取り組んでいきたい。

特定健診室

【今年度の取り組み】

A-1. 健診システムの活用

達成目標：特定健康診査等制度変更に伴う、健診システムや帳票の変更、また請求や結果報告を行い、再提出0件にする。

B-1. 健診の拡大

達成目標：職員健診で35歳以上は協会けんぽ生活習慣病予防健診を利用。胃部検査実施人数60名を目標。

B-2. 収入増

達成目標：収入を2017年度より10%アップする。

C-1. 航空身体検査の増大

達成目標：件数を2017年度より10%アップする。

D-1. 知識の向上

達成目標：院内・院外研修会への積極的な参加。

【今年度を振り返って】

4月より第3期特定健康診査等制度変更があり、慢性腎臓病（CKD）予防や歯科口腔の咀嚼・食べ方（間食）に関する検査項目や質問票が見直された。これに伴う健診システムや帳票の変更を行い、請求・結果報告等再提出0件にする事が出来た。また、今年度も協会けんぽ生活習慣病予防健診の受診が増え、件数・収入共に前年比アップとなった。2019年度も健診事業や健康増進事業に取り組み、職員や地域住民の健康管理や病気および介護予防に取り組んでいきたい。

歯科

【今年度の取り組み】

A-1. 入院から在宅までの歯科医療サービスを提供する。

達成目標：入院中に口腔内の改善に努め、歯科医療を提供。口腔衛生、義歯管理が必要な患者様を対象とし、ご家族、施設に現状を説明し在宅でのケアの仕方・今後の定期検診の必要性を説明。切れ目のない歯科サービスを提供する。

B-1. 患者様の増加

達成目標：介護医療院の口腔管理加算の取得の徹底、対象者の7割を実施する。

C-1. 専門領域の知識習得

達成目標：口腔ケアに関する研修を受講し、病態にあった口腔ケアの知識、技術を習得し早期に介入出来るようにする。

D-1. 院内勉強会への参加率向上

達成目標：月1回必ず勉強会、研修会に参加する

【今年度を振り返って】

全体的に目標達成することが出来た。歯科衛生士が行う口腔ケアの重要性を十分に理解し提供することに取り組んだ。また今年度から、口腔機能低下症に関わる検査を歯科衛生士でも出来るようになり、新たに歯科衛生士の役割が出来た。今後も多職種連携を図り業務に取り組んでいきたい。

地域医療連携センター

【今年度の取り組み】

A-1. 相談体制の充実

達成目標：新入職員の研修進捗に応じ、受け持ちケースの件数見直しを行い、年間を通じた満足度調査のやや不満、不満を5件以下とする。

B-1. 2018年度診療報酬改定に伴う対策として、病棟再編案に基づく分棟及び基準upを目指す

達成目標：病棟再編案に基づく実績作り・基準upと各病棟基準維持のためベッドコントロールを行い、

年間330床以上での稼働を目指す。

C-1. 地域包括ケアシステムにおける当院の機能充実に向けての体制づくり

達成目標：救急告知病院指定に伴う救急搬送患者のスムーズな受け入れと、年間3件以上後方支援先からの入院を受け入れに努める。

C-2. 在宅サービス事業部との連携強化

達成目標：介護保険対象者の法人内サービスへの紹介35%

D-1. スタッフのスキルアップ

達成目標：職種に関わらず、全員が伝達講習または事例報告を1回以上実施する

【今年度を振り返って】

30年度は前年比120%ほど入退院数が増加したが、平均在院日数の短縮により病棟の稼働は昨年度を下回った。また、診療報酬改定の影響で地域包括ケア病棟の基準がdownし、経営面で大きな影響となった。現在計画の中の新築移転に向けて、将来の地域ニーズに見合った病棟再編が必要とされている。今後工程表に従い、病棟再編にむけたベッドコントロールや実績作りを行うとともに、地域包括ケア病棟基準UPへの取り組みを強化していきたい。また新たな病棟機能に応じた患者様の受け入れ体制構築のため、地域との病病連携、病診連携を強化していく。

事務部門 医事係

【今年度の取り組み】

A-1. 部署毎に業務改善を積極的に行う

達成目標：上・下期で各1つ以上業務改善を行う

B-1. 診療報酬改定・介護報酬改定に対応する

達成目標：介護医療院開設に対応する

C-2. 医療安全への理解を深める

達成目標：インシデント・アクシデントレポート提出昨年比+15%

D-1. 院内研修へ積極的に参加する

達成目標：院内研修の参加率60%以上

【今年度を振り返って】

介護医療院開設を目標通りにやり遂げたことは高く評価している。しかし、院内研修の参加率やインシデント・アクシデントレポートの提出などの意識があいかわらず低いので、管理者が積極的に声掛けをして習慣化させたい。

事務部門 クラーク係

【今年度の取り組み】

A-1. 部署毎に業務改善を積極的に行う

達成目標：上・下期で各1つ以上業務改善を行う

B-1. 診療報酬改定・介護報酬改定に対応する

達成目標：医師や他部署スタッフと情報共有を行い、介護医療院開設に対応する。

C-2. 医療安全への理解を深める

達成目標：インシデント・アクシデントレポート提出昨年比+15%

D-1. 院内研修へ積極的に参加する

達成目標：院内研修の参加率70%以上

【今年度を振り返って】

積極的に外来診察補助業務を行うことができたが、医療クラークのスキルの差があるため、今後勉強会等を行いクラーク全体の質の向上を目指していきたい。

事務部門 総務係

【今年度の取り組み】

A-1. 医師の資格取得一覧表を見直す

達成目標：各医師の資格一覧表を取りまとめ、提出されていない証明証・資格証等のコピーを揃え、管理する

B-1. リハ付加機能評価受審の準備

達成目標：受審に向けて、院内掲示物の見直しや修正、院内整備を行い、院内マニュアルや委員会規程を全部署に配信し、会議・委員会一覧表を管理する

C-1. インシデント・アクシデント報告の徹底

達成目標：インシデント・アクシデントレポート提出昨年比＋１０％

D-1. 院内研修へ積極的に参加する

達成目標：院内研修への参加率７０％以上

【今年度を振り返って】

医師資格取得一覧表を更新し、統計・アンケート等に活用した。日本医療機能評価機構付加機能（リハビリテーション機能）受審に向け、書類・マニュアル・規程・議事録などを整備し、院内掲示物の見直し等を行い無事更新できた。しかし、掲示物管理が不十分なため、今後業務改善を行なっていきたい。来年度は、日本医療機能評価機構本体審査の期中確認があるので、各部署と連携を図りたい。

事務部門 院内保育・学童係

【今年度の取り組み】

A-1. 保育環境の整備

達成目標：園庭の草取りをこまめに行い、花壇を整えて季節の植物を栽培する。

B-1. リサイクルの取り組み

達成目標：廃材を使用した製作活動と、保育室内の玩具作りを行う。

C-1. 保育補助の育成

達成目標：月１回、業務に必要な知識・技術についての勉強会と、業務の反省会を行う。

C-2. 事故防止の徹底

達成目標：乳幼児突然死症候群について全職員が周知し、プレスチェック表を作成し、午睡時の事故防止に取り組む。

D-1. 院外研修会への参加率向上

達成目標：院外研修にひとり３回以上参加し、研修内容の共有化を図る。

【今年度を振り返って】

年々、増加する保育需要に対応できるよう、２０１９年２月の玉昌寮への移転に伴い、保育の定員が３０名から４０名となりました。今後は、保育内容の見直しと改善を積極的に行い、職員の皆様の仕事と育児の両立をより一層サポートできるよう努めていきたいと思います。

2018 年度 委員会・会議体一覧

会議名		開催日	目的
病院運営会議		毎週月曜	病院の円滑な運営および病院業務の適切な管理を図る
幹部医局会		随時	病院の円滑な運営および病院業務の適切な管理を図る
医局会		毎月 第2月曜	医局内の円滑な連絡・連携を図る
院内スタッフ会議		毎月 第3月曜	病院における円滑な業務を行うことを目的とする
診療関係	診療情報管理委員会	毎第3金曜	診療録管理室の運営管理、診療録及び諸様式伝票類の検討等を行い、診療上の有効的効率的運営を図る
	診療情報提供委員会	カルテ開示 要求時	診療情報の提供を適切に行うことを目的とする
	薬事委員会	2ヶ月毎 第3月曜	薬物療法の合理的発展を図る
	栄養管理委員会	毎月 第3木曜	栄養管理・給食管理上の現状、その問題点・議題を把握し、改善策を検討・実施する
	NST委員会	毎月 第3月曜	症例個々に適切な栄養管理を検討・実施していくことを目的とする
	輸血療法委員会	2ヶ月毎 第3月曜	院内における輸血に際し、安全かつ適正な輸血療法が出来るよう輸血療法に関する事項について審議する
	臨床検査適正化委員会	2ヶ月毎 第3月曜	臨床検査の精度管理などに関して必要な事項を協議する
	コーディング委員会	年2回 (2月・8月) 医局会と同日時に開催	標準的な診断及び治療方法の周知を徹底し、適切なコーディングを行う体制を確保することを目的とする
	口腔機能向上委員会	毎月 第2月曜	口腔に関する現状を討議することで知識・実技の向上を図ることを目的とする
	回復期病棟運営会議	毎月 第3月曜	回復期リハ病棟業務に関わる他職種の連携・連絡を図る
	地域包括ケア病棟運営会議	毎月 第3月曜	地域包括ケア病棟業務に関わる他職種の連携・連絡を図る
	リハビリミーティング	毎月 第3月曜	リハ部門の円滑な連携・連絡を図る
	ベッドコントロール会議	毎週火・金	入院希望のある患者様について入院の可否について検討を行い、また入院後もスムーズな支援へとつなげるために他職種にて情報共有を図ること
	透析運営会議	毎月 第4月曜	透析の円滑な運営および業務の適切な管理を図る
	手術室運営委員会	毎月 第4金曜	手術室の安全管理、感染防止、機械・備品の整備等について協議し、効率的な運営を図る
	歯科運営会議	毎月 第2月曜	歯科の円滑な運営および業務の適切な管理を図る

加治木温泉病院 各種委員会

教育関係	倫理委員会	年 2 回	倫理上問題のある症例への対応および倫理に関する教育・研修などにより、患者様中心の医療を推進するために必要な事項を定める
	倫理検討会	毎月 第 4 月曜	各部署からの倫理問題を、他職種で検討し問題共有を行っている
	サービス向上委員会	毎月 第 4 月曜	患者様・ご家族より寄せられたご意見・苦情・提案に関して病院として真摯に取り組み、サービスの向上を目的とする
	個人情報管理委員会	1. 4. 7. 10 月 (3ヵ月に 1 回)	患者様や職員等に関する個人情報を適切に取り扱い、患者様から信頼されることを目的とする
	教育委員会	毎月 第 2 月曜	職員の知識、技術の向上を目的とする
	情報管理委員会	毎月 第 3 金曜	院内における情報管理業務の円滑な運営を目的とする
	機能評価委員会	毎月 第 4 金曜	機能評価機構の認定及びその更新を目的とする
	図書委員会	3ヵ月に 1 回 第 1 火曜	院内図書の円滑な購入および管理
	マナ美隊(接遇)	毎月 第 2 火曜	職員の身だしなみチェックを行い接遇の向上に努める
医療安全対策関係	医療安全管理委員会	毎月 第 2 金曜	医療安全管理対策を総合的に企画、実施することを目的とする
	リスクマネジメント部会	毎月 第 1 月曜	医療安全管理対策を実効あるものとするを目的とする
	褥瘡対策委員会	毎月 第 3 金曜	褥瘡を予防することを目的とする
	身体拘束廃止委員会	毎月 第 4 木曜	身体拘束廃止へ向けて職員の意識向上を図る事を目的とする
	医療ガス安全管理委員会	年 1 回	医療ガスの使用上の安全確保を目的とする
	透析機器安全管理委員会	年 1 回	人工腎臓が安全円滑に行え、安心した透析を提供することを目的とする
	労働安全衛生委員会	毎月 第 4 木曜	職員の安全と健康を確保することによって病院業務の円滑な運営を図る
	防災・防火管理委員会	年 1 回以上	病院および職員寮における患者・職員等の生命・財産の安全確保を目的とする
	院内感染対策委員会	毎月 第 3 月曜	院内感染の予防対策及び知識の啓蒙を図り、健全な医療体制及び施設確立を図る
	I C T (感染対策小)委員会	毎月 第 1 月曜	院内感染の予防対策及び知識の啓蒙を図り、健全な医療体制及び施設確立を図る
	ストレスチェック実施委員会	随時	メンタルヘルス対策の取り組みの充実・向上と円滑な対応を図るよう検討をする
その他	編集委員会	広報誌 発行前後	年 4 回発行の広報誌「すこやか加温」発行に対し、内容を検討する
	美化委員会	毎月 第 3 水曜	病院内外の美化に努める
	未収金会議	毎月 第 4 火曜	病院の未収金状況を把握し、回収についての検討を行う
	親和会	年 3 回程度(行事開催時)	会員相互の親睦を図る
	エコアクション委員会	2 ヶ月に 1 回第 4 火曜	エコアクション 21 認定及びその更新を目的とする

2018 年度 始良高齢者保健福祉圏域
地域リハビリテーション広域支援センター活動

加治木温泉病院は 2002 年に鹿児島県より始良高齢者保健福祉圏域地域リハビリテーション広域支援センターとして指定されております。始良・伊佐地域でのリハビリテーション技術支援、研修会の開催、地域住民の方の相談対応、地域包括ケアシステム構築のための協力活動を行っております。今年度も各機関のご協力の下、延べ 121 名のスタッフを派遣し幅広い活動ができました。ありがとうございました。次に今年度の活動内容をご紹介します。

1 「地域住民」及び「地域におけるリハビリテーション従事者等」を対象とした研修会等

年月日	対象（人数）	テーマ	講師
H30. 6. 11	イオンタウン 0・1 歳児と親子（14）	ことばの発育につながるお口の使い方	ST
H30. 6. 22	始良市加治木町萩原地区住民（10）	ロコモティブシンドローム、腰痛、肩こりについて、体操	OT、PT
H30. 8. 24	始良市加治木町萩原地区住民（8）	認知症について、脳トレ	OT、PT
H30. 8. 24	始良市加治木町日木山団地住民（10）	認知症の症状、診断、治療、予防、接する時の心構え	OT
H30. 10. 14	県民：特に始良・伊佐圏域の住民（200）	ロコモ予防講演会 （始良・伊佐地域振興局と共に開催）	PT3 名 OT2 名 ST1 名
H30. 10. 15	イオンタウン 0・1 歳児と親子（16）	ことばの芽を育む関わり方	ST
H30. 10. 26	始良市加治木町萩原地区住民（7）	自宅の転倒の危険性がある場所や転倒による骨折について・筋トレ	PT
H30. 11. 26	認知症当事者、ご家族、地域住民（20）	認知症カフェ（コグニサイズ他）	OT2 名
H31. 3. 16	始良・伊佐圏域住民（192）	地域リハ研修会 「子どもを育むまちづくりに向けて」	外部

2 住民通いの場への技術支援

期間	場所	内容	参加	講師
全 6 回 平成 30 年 7 月 13 日 ～3 月 15 日	思川いきいきサロン	評価、運動機能向上、認知症予防、口腔機能についての講話・体操・住民が継続できるように指導	延べ 66 名	PT4 名 OT5 名 ST4 名

地域リハビリテーション広域支援センター事業

3 退院後自立支援サービスの実施

リハ専門職としてのケアマネジメントの機能強化は地域リハビリテーション活動における重要な役割の一つです。そこで、今年度より自宅へ退院後も住み慣れた地域で安心した生活の継続のため、退院後、当センターリハ専門職が退院先の自宅を訪問し、身体機能、ADLの評価を実施し、その機能の維持・向上のため方法（自主訓練、在宅リハサービス利用、環境整備など）の指導、相談対応を行い、情報を担当のケアマネジャー・かかりつけ医へ情報提供するサービスを開始した（「退院後自立支援サービス」）。このサービスは、院内のスタッフのみでなく、地域のケアマネジャーからの要請に応じて実施するものです。

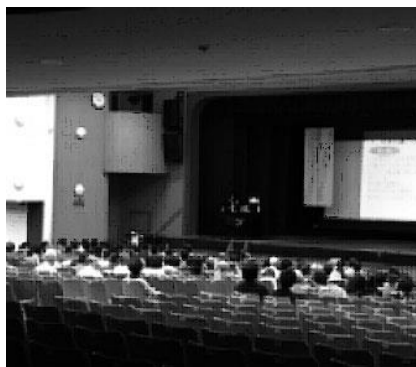
期間	場所	人数	対象
H30. 4～H31. 3 末現在	始良市、鹿児島市、霧島市、垂水市、末吉町	41 名	当院内外の自宅退院者

4 その他のリハ実施機関・市町村等の事業への技術的支援状況

期間	内容	職種
H30. 6. 28	サービス付き高齢者向け住宅職員への手すり設置への助言	PT
H30. 7. 20	グループホームへの移乗指導、部屋の配置、車椅子の調整・助言	PT2 名
H30. 10～2 隔月 (3 回)	始良市地域ケア個別会議	PT、OT、ST 延べ9 名
H30. 7. 23	始良市公立保育園での保育士への発達障害についての技術支援	ST
H30. 12～H31. 3 (4 回)	始良市発達支援教室	ST 延べ 4 名
H31. 2～H31. 3 (4 回)	湧水町一般介護予防事業	ST 延べ 5 名
H31. 2. 10	霧島市健康福祉まつり	PT4、ST1
H31. 2. 8、2. 14 (2 回)	地域振興局職員「健康づくり教室」	PT 延べ 2 名
H31. 3. 2	始良市福祉まつり	PT1、OT3

5 「地域リハビリテーション連絡協議会」の開催状況

開催月日	協議内容等	参加者の状況				
		参加人数	参加者の内訳			
			医療関係	介護関係	行政	住民
6 月 26 日	事業報告・事業計画他	25 名	13 名	1 名	9 名	2 名



加治木温泉病院 学術活動 院内研修

■全職員向け

2018 年度

開催月日	研修内容	講師	参加人数		研修分類
			病院	在宅	
4月26日	Servo-airの紹介 (ビデオ)	フクダ電子株式会社 西 友則氏	210	0	医療安全
5月10日			48.7%	0.0%	
5月22日	知っておいてほしい抗菌薬の使い方 (ビデオ)	チーム医療推進部 中村次長	245	0	感染対策
5月29日			56.7%	0.00%	
6月19日	AEDの取り扱いについて	全国警備保障株式会社 社員3名	166	2	医療安全
10月5日			40.1%	2.10%	
6月28日	「禁煙治療宣言」 (ビデオ)	ファイザー株式会社 清水 一志氏	100	3	禁煙対策
7月13日			14.6%	3.10%	
6月27日	医療倫理について (ビデオ)	第一三共株式会社 萩原 悠氏	135	5	医療倫理
7月10日			32.5%	5.2%	
7月17日	排尿自立支援指導料加算について (ビデオ)	加治木温泉病院 黒木看護師	89	3	制度説明
7月24日			21.5%	3.1%	
7月11日	褥瘡について (ビデオ)	マルホ株式会社 西野 雄馬氏	132	7	褥瘡対策
7月19日			31.9%	7.3%	
8月9日	救急救命研修	加治木温泉病院 堤師長 他5名	126	0	救急救命
8月23日			30.4%	0.00%	
8月23日	個人情報保護法について	富田薬品株式会社 西村 幸司氏	63	0	個人情報保護
9月18日			15.2%	0.0%	
9月26日	血圧管理の重要性を考える (ビデオ)	武田薬品工業株式会社 綾木 健介氏	90	1	
9月26日			21.9%	1.0%	
9月19日	環境対策について (貸出用DVD放映)	加治木温泉病院 施設管理部	80	0	環境対策
9月21日			14.6%	0.0%	
9月21日	女性の不定愁訴と漢方 (ビデオ)	株式会社 ツムラ 原口 文菜氏	79	0	
9月28日			19.2%	0.0%	
10月3日	身体拘束とは (ビデオ)	始良地区 在宅サービス事業部 柁山室長	100	5	身体拘束
10月10日			24.3%	5.1%	
10月25日	医療と接遇 (ビデオ)	富田薬品株式会社 西村 幸司氏	44	0	接遇
10月30日			10.6%	0.0%	

加治木温泉病院 学術活動 院内研修

10月18日	医療ガスの取り扱いについて	鹿児島酸素株式会社 社員6名	250	0	医療安全
10月23日 (ビデオ)			57.8%	0.0%	
11月14日	防災防火訓練について	始良市中央本部 中央消防署	39	2	防災防火
12月13日	感染対策研修会	チーム医療推進部 中村次長	230	0	感染対策
12月18日 (ビデオ)			57.5%	0	
12月26日	患者の権利	3階南病棟 原口看護師	25	0	患者の権利
			6.3%	0.0%	
2月5日	さすまたの使い方について (実技指導含む)	全国警備保険株式会社 社員5名	66	2	院内暴力
			15.1%	2.0%	
3月29日	コンプライアンス研修	チーム医療推進部 中村次長	53	0	法令順守
			13.0%	0.0%	

■症例報告・最新情報カンファレンス

加治木温泉病院の症例カンファレンスは、治す医療から治し支える医療への医療の概念の変化に伴い、激変する医療・介護・福祉情勢を考慮し、会に参加する医療従事者並びに事務系の職員、多くのステークホルダーの方々が医療・介護・福祉・社会制度・社会的知識等の理解と見識を相互に深めることを目的とし、発表者が経験した症例や考察、専門知識等の発表並びに発表者が興味を持つ医療・介護以外の領域の発表も行っております。

開催月日	研修内容	講師
4月23日	近未来の糖尿病治療「膵島移植」	松本 秀一朗 医師
5月28日	麻疹について	松本 航 医師
6月25日	腹膜透析について	長嶋 純 医師
7月23日	骨粗鬆症と顎骨壊死	伊東 祐樹 医師
8月27日	玉昌会グループの展望	高田 昌実 院長
9月25日	CKD 予防ネットワーク開始後の腎臓内科の現状	穂満 博文 副院長
10月29日	タバコ禁煙と最近の動き	山崎 寿人 副院長
11月26日	告知について	折田 悟 医局長
12月17日	大腿骨近位部骨折について	川路 幸仁 医師
1月28日	細かすぎて伝わらない気道管理	石井 祐司 医師
2月25日	高齢者に多い大腸疾患～当院の症例を交えて～	濱田 浩志 医師
3月25日	食道がんについて	松田 彰郎 医師

部署別研修会開催一覧

研修日	研修内容	講師	参加者数
4/10～5/8	誰もが知っておくべき感染対策の知識とスキル	オンデマンド	75 名
4/24～5/22	チームで取り組む医療安全対策シリーズ 人工呼吸器をめぐるインシデントアクシデント	オンデマンド	70 名
6/9	腹膜透析維持管理	加治木温泉病院 看護師 益満	39 名
6/20	認知症サポーター講座	加治木温泉病院 OT 小川	49 名
6/26～7/24	疾患分野別急変対応シリーズ ～一般病棟での敗血症～	オンデマンド	63 名
7/10～8/7	輸液管理の基本～滴下計算から小児・高齢者対策まで	オンデマンド	31 名
8/7～9/4	ケアの優先順位のエビデンス～状況判断力を高めよう～	オンデマンド	42 名
8/24	慢性期 I C U	加治木温泉病院 看護師 白石	23 名
9/19	ケーススタディー		37 名
9/11～10/9	スキルアップ！高齢者のスキンケア	オンデマンド	28 名
10/23～11/20	主任からのチームビルディングとリーダーシップ	オンデマンド	24 名
11/9	ナラティブ		17 名
11/6～12/4	がん患者および家族への社会的側面の支援	オンデマンド	21 名
11/20～12/18	疼痛コントロールと患者サポートの実際	オンデマンド	13 名
12/16・21	看護研究（予行・本番）		104 名
12/11～1/8	特定疾患の実践～救急医療を支える将来像のために～	オンデマンド	23 名
12/25～1/22	医療・看護の現場でリスク感性を磨くには	オンデマンド	23 名
1/15～2/12	排尿自立のためのアセスメント ～排尿症状のマネジメントとその技術～	オンデマンド	18 名
1/29～2/26	入院中の認知症の人に対する看護 ～様々な疾患を伴う患者さんへのアセスメントとケア～	オンデマンド	14 名
3/15	プリセプター	加治木温泉病院 看護師 辰元	16 名

第 7 回 コメディカル研究発表会

開催日 2019 年 1 月 22 日（火）

会 場 加治木温泉病院 1 階食堂談話室

演題名	演者
加治木温泉病院の摂食嚥下患者における 摂食状況の改善とリハビリテーション介入量の関連性について	総合リハビリテーションセンター 馬場
介護医療院を開設して	医事課 山元
地域包括ケア病棟入院患者の転帰先推移	地域医療連携センター 東郷
患者監視装置 TR-3300M における Kt/v 測定機能の検証報告	臨床工学室 竹葉
下肢静脈血管エコー	臨床検査室 松元
当院におけるストレスチェック制度システム構築についての 報告と今後の展望	臨床心理室 服部
超伝導 MRI 導入後の変化	放射線室 佃
患者の嚥下機能・食形態に応じた剤形選択の取り組み	薬局 新納
口腔ケアにおける BGM の効果	歯科 立山
消化器症状患者に対し NST が介入した一症例	栄養室 迫田

第 17 回 看護研究発表会

開催日 2018 年 12 月 21 日（金）

会 場 加治木温泉病院 1 階食堂談話室

演題名	演者
入院前面談票を使用しての取り組み	外来 柊宇都
手指拘縮によるスキントラブル予防・改善への取り組み	2 階東病棟 村上
退院支援に向けたプライマリーとしての関わり	3 階西病棟 堤
見える化による 5S 活動に着目した処置の効率化	2 階南病棟 釘田
塩分摂取量が多い血液透析患者の日常生活から見出す体重管理指導	腎センター 前畑
アルゴリズムを活用した、スキンケア評価の 統一を目指したスタッフ勉強会を行って	2 階西病棟 中野町
身体拘束（ゼロ）への取り組み ～身体拘束廃止に取り組む考え方の意識調査を通じて～	3 階東病棟 池側
脳卒中患者におけるワンアップケアの効果の検証	3 階南病棟 東

第 22 回 始良地区研究発表会

開催日 2019 年 3 月 18 日（月）

会 場 加治木温泉病院 1 階食堂談話室

演題名	演者
塩分摂取量が多い血液透析患者の 日常生活から見出す体重管理指導	人工腎臓センター 看護師 前畑
患者の嚥下機能・食形態に応じた剤形選択の取り組み	薬局 薬剤師 新納
当院におけるストレスチェック制度システム構築についての 報告と今後の展望	臨床心理室 公認心理師 服部
加治木温泉病院の摂食嚥下障害患者における 摂食状況の改善とリハビリテーション介入量との関連性について	総合リハビリテーションセンター 言語聴覚士 馬場
手指拘縮による潰瘍形成予防・改善への取り組み	2 階東病棟 看護師 村上
転倒予防に繋がる、介護職のアプローチ ～介護予防に向けた取り組み～	ケアレジデンスとまり木 介護福祉士 肥田
外国人技能実習生の受け入れに対して ケアワーカーの意識調査	3 階南病棟 介護福祉士 森田
介護医療院を開設までの取り組み	医事課 山元

加治木温泉病院 実習受入れ

看護部

月 日	学校名	参加人員
5月8日～11月2日	龍桜高等学校看護学科専門課程2年生（在宅実習）	61名
7月2日～11月2日	龍桜高等学校看護学科専門課程2年生（統合実習）	39名
9月25日～10月12日	龍桜高等学校看護学科基礎課程3年生（成人実習）	25名
11月5日～12月7日	龍桜高等学校看護学科基礎課程2年生（基礎看護）	19名
	計	144名

リハビリテーション室

月 日	学校名	参加人員
5月7日～7月14日	九州栄養福祉大学 理学療法学科	1名
5月7日～7月14日	鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1名
5月7日～6月16日	鹿児島大学医学部保健学科 作業療法学専攻	1名
5月21日～7月13日	鹿児島医療技術専門学校 言語聴覚学科	1名
7月2日～8月10日	国際医療福祉大学 言語聴覚学科	1名
7月9日～7月14日	鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1名
7月16日～9月22日	鹿児島第一医療リハビリ専門学校 理学療法学科	1名
7月17日～9月7日	鹿児島大学医学部保健学科 理学療法学専攻	1名
7月23日～7月28日	鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1名
8月27日～10月6日	鹿児島大学医学部保健学科 作業療法学専攻	1名
8月27日～10月6日	鹿児島第一医療リハビリ専門学校 作業療法学科	1名
9月3日～10月26日	広島県立広島大学 言語聴覚学科	1名
9月3日～9月15日	神村学園専修学校 理学療法学科	1名
9月12日～9月19日	鹿児島大学医学部保健学科 理学療法学専攻	1名
10月1日～10月27日	九州保健福祉大学 言語聴覚学科	1名
10月1日～10月27日	九州保健福祉大学 言語聴覚学科	1名
11月8日～11月28日	九州栄養福祉大学 理学療法学科	1名
11月19日～12月15日	神村学園専修学校 理学療法学科	1名
11月26日～12月15日	鹿児島医療福祉専門学校 理学療法学科	1名
1月14日～2月8日	鹿児島医療技術専門学校 理学療法学科	1名
1月21日～2月15日	鹿児島医療技術専門学校 言語聴覚学科	1名
2月11日～2月22日	鹿児島医療技術専門学校 理学療法学科	1名
2月19日～3月10日	鹿児島第一医療リハビリ専門学校 理学療法学科	1名
	計	23名

臨床工学室

月 日	学校名	参加人員
9月10日～9月14日	鹿児島医療工学専門学校臨床工学学科	2名

放射線室

月 日	学校名	参加人員
9月3日～9月28日	鹿児島医療技術専門学校診療放射線学科4年	2名
10月1日～10月26日	鹿児島医療技術専門学校診療放射線学科3年	1名

地域医療連携センター

月 日	学校名	参加人員
8月6日～9月5日	鹿児島国際大学福祉社会学部社会福祉学科3年	1名

栄養室

月 日	学校名	参加人員
8月6日～8月17日	鹿児島純心女子大学健康栄養学科3年	1名